■困ったときは（サポートのご案内）

ホームページで調べる

デジタル一眼レフカメラ取扱説明書および付属ソフトウェアの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、アクセサリー互換情報など）は下記のホームページから

『α』専用サポートサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

『α』オフィシャルサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/

デジタル一眼レフカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)

メモリースティック対応表
使用可能な"メモリースティック"を確認できます。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

電話で問い合わせる（おかけ間違いにご注意ください。）

ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク
●ナビダイヤル 0570-00-0770
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
●携帯電話・PHSでのご利用は.......... 0466-38-0231
（ナビダイヤルが使用できない場合はこちらをご利用ください）
受付時間： 月～金曜日：午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日：午前9時～午後5時

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

■カスタマー登録のご案内

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/contact/

ソニー株式会社　〒108-0075　**東京都港区港南1-7-1**　http://www.sony.co.jp/

この説明書は、古紙70%以上の再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

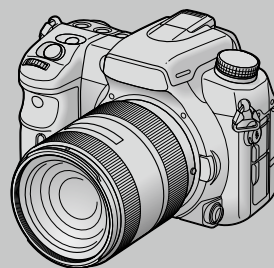
SONY

3-216-921-**04** (1)

デジタル一眼レフカメラ取扱説明書

活用編・困ったときは

α700

DSLR-A700

MEMORY STICK™　InfoLITHIUM™　M SERIES　HDMI

「はじめにお読みください」（別冊）
本機を使うための準備と、基本的な撮影・再生の方法を説明しています。

⚠警告　**電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書と別冊の「デジタル一眼レフカメラ取扱説明書 はじめにお読みください」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

α

商標について

- α はソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、MEMORY STICK ™、“Memory Stick PRO”、“メモリースティック PRO”、MEMORY STICK PRO、“Memory Stick Duo”、“メモリースティック デュオ”、MEMORY STICK DUO、“Memory Stick PRO Duo”、“メモリースティックPRO デュオ”、MEMORY STICK PRO DUO、“Memory Stick PRO-HG Duo”、“メモリースティック PRO-HGデュオ”、MEMORY STICK PRO-HG DUO、“メモリースティックマイクロ”、“MagicGate”、“マジックゲート”および MAGICGATE はソニー株式会社の商標です。
- “InfoLITHIUM（インフォリチウム）”は、ソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、Power MacはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- Intel、Intel Core、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- コンパクトフラッシュ（CompactFlash）は、米国サンディスク社の商標です。
- Microdriveは、Hitachi Global Storage Technologiesの登録商標です。
- Adobe は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Dレンジオプティマイザーアドバンスには apical アピカル社の技術を使用しています。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

⚠警告 安全のために

→ 176 ～ 179ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクへご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら 煙が出たら

❶ **電源を切る**
❷ **電池をはずす**
❸ **ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクに連絡する**

裏表紙に**ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクの連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**

❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**

❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**

❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

目次

操作の前に

撮影機能の説明

再生機能の説明

メニュー機能

パソコンを使う

静止画をプリントする

困ったときは

その他

安全のために

用語の解説/索引

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

本機で使用できる"メモリースティック"(別売)についてのご注意

本機では"メモリースティック デュオ"が使用できます。"メモリースティック"は使用できません。

"メモリースティック デュオ"

- "メモリースティック デュオ"について詳しくは、160ページをご覧ください。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについてのご注意

- 初めてお使いになるときは、バッテリー(付属)NP-FM500Hを必ず充電してください。(→*別冊「はじめに」手順1*)
- バッテリーを使い切らない状態でも充電できます。また充電が完了しなくても途中まで充電した容量分はお使いいただけます。
- バッテリーを長持ちさせるために、長時間使用しない場合は、本機で使い切ったあと、バッテリーを取りはずして湿度の低い涼しい場所で保管してください(162ページ)。
- バッテリーについて詳しくは、162ページをご覧ください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

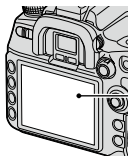
バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー(バックアップ)をおとりください。

撮影・再生に際してのご注意

- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。雨中での使用時は、本機やレンズに雨がかからないようにしてください。使用後、汚れた場合は本機を清掃してください。水、砂、ほこり、塩分などが本機に残っていると、故障の原因になります。「使用上のご注意」もご覧ください(167ページ)。
- ファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください(167ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、メモリーカードが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、充分に発光できない場合があります。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。バッテリーやアクセサリーシューキャップなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

液晶モニターおよびレンズについてのご注意

- 液晶モニターは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されていません。

黒、白、赤、青、緑の点

- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターを強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶モニターの故障の原因になります。

焦点距離について

本機での撮影画角は、35 mmフィルムカメラの画角よりも狭くなります。お手持ちのレンズの焦点距離を約1.5倍すれば、35 mmフィルムカメラとほぼ同じ画角で撮影できる焦点距離に相当する値を求めることができます。

（例：焦点距離50 mmのレンズを付けると、35 mmフィルムカメラで約75 mmに相当する画像が得られます。）

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”（DCF）に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

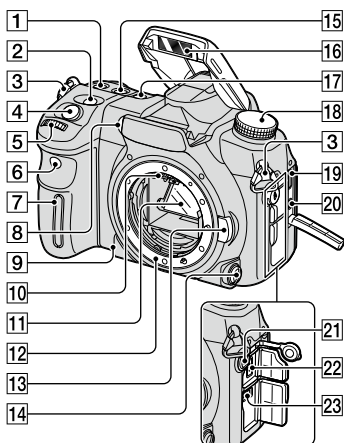
本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

各部のなまえ

カメラ

*の付いたところは、直接手で触れないでください。

カッコ内の数字はページ数。

1 ISOボタン（61）

2 ☒（露出補正）ボタン（42）

3 ショルダーストラップ取り付け部（14）

4 シャッターボタン（→*別冊「はじめに」手順5*）

5 前ダイヤル（27、105）

6 リモコン受光部（57）

7 グリップセンサー（102）

8 AF補助光発光部（51、99）/セルフタイマーランプ（54）

9 プレビュー（絞り込み）ボタン（36）

10 レンズ信号接点*

11 ミラー *

12 マウント

13 レンズ取りはずしボタン（→*別冊「はじめに」手順2*）

14 フォーカスモードレバー（49、98）

15 WBボタン（58）

16 内蔵フラッシュ *（→*別冊「はじめに」手順5*）

17 DRIVEボタン（52）

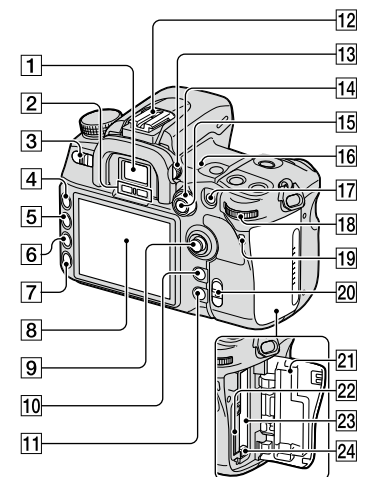
18 モードダイヤル（31）

19 HDMI端子（87、119、147）

20 VIDEO OUT/⭠ （USB）端子（86、128）

21 ϟ シンクロターミナル（75）

22 REMOTE端子（165）

23 DC IN端子（164）

[1] ファインダー（→*別冊「はじめに」手順5*）

[2] アイセンサー（110）

[3] POWER（パワー）スイッチ（→*別冊「はじめに」手順4*）

[4] MENU（メニュー）ボタン（29）

[5] DISP（ディスプレイ）（表示切り換え）ボタン（20、80）

[6] 🗑（削除）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

[7] ▶（再生）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

[8] 液晶モニター（17、20）

[9] マルチセレクター（26）

[10] 撮影時：C（カスタム）ボタン（78、95）
再生時：（ヒストグラム）ボタン（82）

[11] 撮影時：Fn（ファンクション）ボタン（27）
再生時：（回転）ボタン（85）

[12] オートロックアクセサリーシュー（166）

[13] 視度調整ダイヤル（→*別冊「はじめに」手順5*）

[14] 測光モードレバー（45）

[15] 撮影時：AEL（AEロック）ボタン（40、43）/SLOW SYNC（スローシンクロ）ボタン（74）
再生時：（インデックス）ボタン（81）

[16] ⊖（イメージセンサー位置表示）（47）

[17] 撮影時：AF/MF（オートフォーカス/マニュアルフォーカス）ボタン（50）
再生時：🔍（拡大）ボタン（83）

[18] 後ダイヤル（27、105）

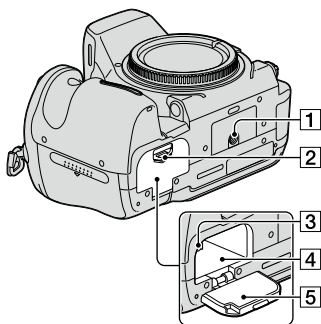
[19] アクセスランプ（→*別冊「はじめに」手順3*）

[20] （手ブレ補正）スイッチ（→*別冊「はじめに」手順5*）

[21] メモリーカードカバー（→*別冊「はじめに」手順3*）

[22] "メモリースティック デュオ"挿入口（→*別冊「はじめに」手順3*）

[23] CFカード挿入口（→*別冊「はじめに」手順3*）

[24] CFカード取り出しレバー（→*別冊「はじめに」手順3*）

1 三脚ネジ穴

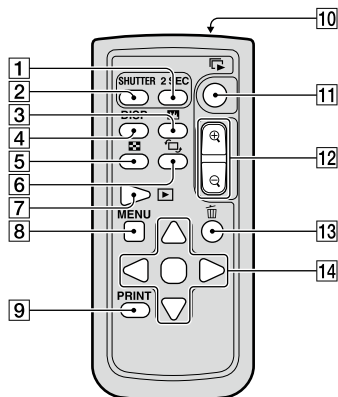
- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
  ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

2 バッテリーカバーオープンレバー（→*別冊「はじめに」手順1*）

3 ロックレバー（→*別冊「はじめに」手順1*）

4 バッテリー挿入口（→*別冊「はじめに」手順1*）

5 バッテリーカバー（→*別冊「はじめに」手順1*）

リモコン

- 2 SECボタンとSHUTTERボタン以外は、テレビに接続していないと働きません（57、88、147ページ）。

1 2 SEC（2秒後シャッター）ボタン

2 SHUTTERボタン

3 ▥（ヒストグラム）ボタン（82）

4 DISP（表示切り換え）ボタン（80）

5 ▦（インデックス）ボタン（81）

6 ↻（回転）ボタン（85）

7 ▶（再生）ボタン（80）

8 MENUボタン（29）

9 PRINTボタン（147）

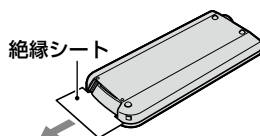
10 リモコン発光部

11 ⧉（スライドショー）ボタン（117）

12 ⊕/⊖（拡大/縮小）ボタン（83）

13 🗑（削除）ボタン（→*別冊「はじめに」手順6*）

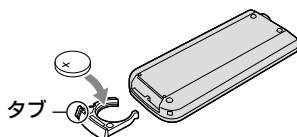
14 ▲/▼/◀/▶/● ボタン（26）

・絶縁シートを引き抜いてからリモコンを使ってください。

・本機前面のリモコン受光部に向けて操作してください（11ページ）。

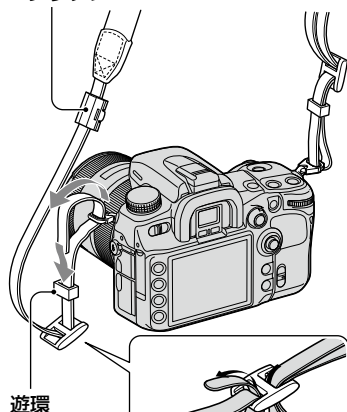
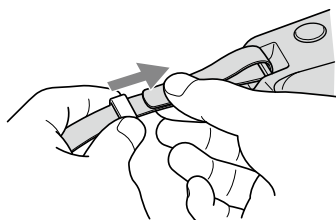
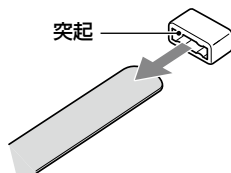
リモコンの電池を交換するには

① タブを内側に押し込みながら、溝に爪をかけて電池ケースを引き出す。

② ＋面を上にして新しい電池を入れる。

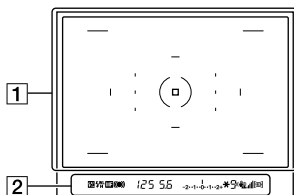
③ 電池ケースを「カチッ」というまで差し込む。

・リモコンには、ボタン型リチウム電池（CR2025）が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。

ショルダーストラップを取り付ける

ストラップ取り付け部は2か所あります。リモートコマンダークリップのある方をグリップと反対側にしてストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

ストラップを遊環に通す際、固くて通しにくい場合は、ストラップの先端部分を指で固定して、ストラップでなく遊環を移動させるとスムーズに通ります。

遊環がストラップからはずれてしまった場合は、突起部のある方から先に通してください。

画面の表示

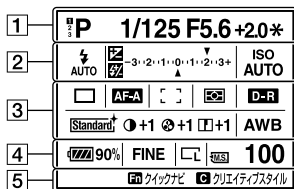
カッコ内の数字はページ数。

ファインダー

1

表示	意味
(フォーカスエリア表示)	フォーカスエリア(46)
◘	スポットフォーカスエリア(46)
( )	スポット測光サークル(45)
(縦横比16:9時上下枠表示)	縦横比16:9時上下枠(92)

2

表示	意味
(フラッシュ調光補正表示)	フラッシュ調光補正(72)
(フラッシュ表示)	点滅:フラッシュ充電中 点灯:フラッシュ充電完了(→*別冊「はじめに」手順5*)
WL	ワイヤレスフラッシュ(69)
H	ハイスピードシンクロ(166)
MF	マニュアルフォーカス(49)
● (◉) ( )	フォーカス(→*別冊「はじめに」手順5*)
125	シャッタースピード(37)
5.6	絞り値(35)
–2••1••0••1••2+	測光インジケーター(39、44、55)
✱	AEロック(43)
9	連続撮影残り枚数(53)
(手ブレ警告表示)	手ブレ警告(→*別冊「はじめに」手順5*)
(手ブレインジケーター表示)	手ブレインジケーター(→*別冊「はじめに」手順5*)
16:9	縦横比16:9(92)

液晶モニター（撮影情報画面）

• 横方向詳細表示の場合です（20ページ）。

1

表示	意味
1 2 3	登録番号（76）
AUTO P A S M	モードダイヤル（31）
1/125	シャッタースピード（37）
F5.6	絞り値（35）
+2.0	露出補正値（42）
✱	AEロック（43）

2

表示	意味
AUTO REAR WL	フラッシュモード（69）／赤目軽減発光（108）
MM	露出補正（42）／メータードマニュアル（39）
	調光補正（72）
–3 2 1 0 1 2 3+	測光インジケーター（39、44、55）
ISO AUTO	ISO感度（61）

3

表示	意味
Hi 10 BRK C 0.3EV 3 BRK S 0.3EV 3 BRK WB Lo3 BRK D-R+ Lo3	ドライブモード（52）
AF-A AF-S AF-C MF DMF	フォーカスモード（49）
	フォーカスエリア（46）
	測光モード（45）
D-R D-R+	Dレンジオプティマイザー（62）
Standard Vivid Neutral AdobeRGB Clear Deep Light Portrait Landscape Sunset Night Autumn B/W Sepia	クリエイティブスタイル（64）
+1 +1 +1 +1 ZONE +1	コントラスト、彩度、シャープネス、明度、ゾーン設定（64）
AWB +1 5500K M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム）（58）

4

表示	意味
90%	バッテリー容量（→*別冊「はじめに」手順1*）
RAW cRAW RAW+J cRAW+J X.FINE FINE STD	画質（93）
L M S L M S	画像サイズ（91）
M.S. CF	メモリーカード（120）
100	撮影可能枚数（21）

5
操作ガイド

液晶モニター下部に、次に行う操作が表示されることがあります。アイコンは下記の意味を表しています。

表示	意味
◀▶	マルチセレクター左右
▲▼	マルチセレクター上下
◀▲▼▶	マルチセレクター上下左右
●	マルチセレクター中央
MENU	MENUボタン
MENU ↩	MENUボタンで元に戻る
🗑	🗑 ボタン
🔍	🔍 ボタン
C	Cボタン
Fn	Fnボタン
▶	▶ ボタン
ダイヤル	前ダイヤルまたは後ダイヤル
前ダイヤル	前ダイヤル
後ダイヤル	後ダイヤル

液晶モニター(1枚再生)

M.S. 100-0003 ⊶ DPOF3 FINE L
1/30 F4.0 ISO400
2007 1 1 10:37PM 3/7

表示	意味
M.S. CF	メモリーカード(120)
100-0003	フォルダ番号-ファイル番号(132)
⊶	プロテクト(113)
DPOF3	DPOF(プリント)指定(114)
RAW cRAW RAW+J cRAW+J X.FINE FINE STD	画質(93)
L M S L M S	画像サイズ(91)
バッテリー	バッテリー容量(→*別冊「はじめに」手順1*)
1/30	シャッタースピード(37)
F4.0	絞り値(35)
ISO400	ISO感度(61)
2007 1 1 10:37PM	撮影日時
3/7	画像番号/全体の画像数

液晶モニター（ヒストグラム再生）

1

表示	意味
M.S. CF	メモリーカード（120）
100-0003	フォルダ番号–ファイル番号（132）
(プロテクトアイコン)	プロテクト（113）
DPOF3	DPOF（プリント）指定（114）
RAW cRAW RAW+J cRAW+J X.FINE FINE STD	画質（93）
L M S L M S	画像サイズ（91）
(バッテリーアイコン)	バッテリー容量（→*別冊「はじめに」手順1*）
(画像枠)	画像（82）

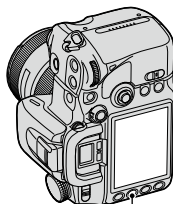
2

表示	意味
(ヒストグラムアイコン)	ヒストグラム（82）
AUTO P A S M (シーンセレクションアイコン)	モードダイヤル（31）
1/125	シャッタースピード（37）
F3.5	絞り値（35）
ISO100	ISO感度（61）
−0.3	露出補正（42）
−0.3	調光補正（72）
(測光モードアイコン)	測光モード（45）
35mm	レンズ焦点距離（10）
Standard Vivid Neutral AdobeRGB Clear Deep Light Portrait Landscape Sunset Night Autumn B/W Sepia	クリエイティブスタイル（64）
AWB +1 5500K M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム）（58）
D-R D-R+	Dレンジオプティマイザー（62）
2007 1 1 10:37PM	撮影日時
3/7	画像番号/全体の画像数

撮影情報画面を切り換える

撮影時には、液晶モニターに各種の撮影情報が表示されます。
DISP（表示切り換え）ボタンを押すと、詳細画面と拡大画面を切り換えることができます。表示を消して、バッテリーの消耗を少なくすることもできます。
また、本機を縦位置に構えると、画面が自動的に縦向きに変わります。

横位置

縦位置

- 本書では、横位置の詳細画面（上図左上）で説明しています。
- ✿カスタムメニューの[撮影情報画面]で縦画面にしないこともできます（110ページ）。
- DISP（表示切り換え）ボタンを長押しすると、モニターの明るさを調整することができます（118ページ）。
- 再生時の画面については、80ページをご覧ください。

画像の記録可能枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。記録枚数は撮影状況によって異なる場合があります。

画像の記録枚数（単位：枚）

“メモリースティック デュオ”

画像サイズ：L 12M（縦横比3:2のとき）

画質＼容量	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	31	57	120	245	496	982	1973
ファイン	21	38	81	167	338	669	1344
エクストラファイン	11	20	43	89	180	358	720
cRAW＋JPEG	6	11	24	51	103	204	410
RAW＋JPEG	4	8	18	38	77	153	309
cRAW	9	17	35	73	148	293	590
RAW	6	11	24	50	100	199	401

画像サイズ：L 10M（縦横比16:9のとき）

画質＼容量	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	36	65	136	280	565	1120	2250
ファイン	24	44	94	193	390	773	1553
エクストラファイン	13	24	51	105	212	420	844
cRAW＋JPEG	6	12	25	53	107	212	427
RAW＋JPEG	5	9	19	39	80	158	318
cRAW	9	17	35	73	148	293	590
RAW	6	11	24	50	100	199	401

画像サイズ：M 6.4M（縦横比3:2のとき）

画質＼容量	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	50	89	188	385	776	1536	3087
ファイン	35	63	134	275	555	1099	2208
エクストラファイン	19	35	75	154	311	617	1240
cRAW＋JPEG	7	13	28	57	117	231	465
RAW＋JPEG	5	9	20	42	85	169	339

画像サイズ：M 5.4M（縦横比16:9のとき）

画質＼容量	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	56	99	209	429	865	1712	3439
ファイン	40	72	152	312	630	1248	2508
エクストラファイン	22	41	87	178	360	713	1433
cRAW＋JPEG	7	13	29	59	120	237	477
RAW＋JPEG	5	9	21	43	86	172	345

画像サイズ：S 3.0M（縦横比3:2のとき）

画質＼容量	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	74	132	276	566	1142	2262	4543
ファイン	56	101	212	435	877	1737	3489
エクストラファイン	33	59	125	256	517	1024	2057
cRAW＋JPEG	8	14	30	62	126	251	504
RAW＋JPEG	5	10	21	44	90	179	359

画像サイズ：S 2.6M（縦横比16:9のとき）

画質＼容量	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	81	145	305	625	1262	2497	5016
ファイン	62	112	236	484	977	1933	3883
エクストラファイン	38	68	143	294	593	1175	2360
cRAW＋JPEG	8	14	31	63	128	255	512
RAW＋JPEG	5	10	22	45	91	181	363

CFカード

画像サイズ：L 12M（縦横比3:2のとき）

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	64	129	255	500	1001	2000
ファイン	43	87	174	341	682	1363
エクストラファイン	23	46	93	182	365	730
cRAW＋JPEG	13	26	53	103	208	415
RAW＋JPEG	10	20	40	78	156	313
cRAW	19	38	76	149	299	598
RAW	13	26	52	101	203	406

画像サイズ：L 10M（縦横比16:9のとき）

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	73	147	291	570	1142	2281
ファイン	50	101	201	393	788	1574
エクストラファイン	27	55	109	214	428	856
cRAW＋JPEG	13	27	55	108	217	433
RAW＋JPEG	10	20	41	80	161	323
cRAW	19	38	76	149	299	598
RAW	13	26	52	101	203	406

画像サイズ：M 6.4M（縦横比3:2のとき）

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	100	202	400	783	1567	3129
ファイン	71	144	286	560	1121	2239
エクストラファイン	40	81	160	314	629	1257
cRAW＋JPEG	15	30	60	118	236	472
RAW＋JPEG	11	22	44	86	172	344

画像サイズ：M 5.4M（縦横比16:9のとき）

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	112	225	446	872	1746	3487
ファイン	81	164	325	636	1273	2542
エクストラファイン	46	93	185	363	727	1452
cRAW＋JPEG	15	31	61	121	242	484
RAW＋JPEG	11	22	44	87	175	350

画像サイズ：S 3.0M（縦横比3:2のとき）

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	148	298	589	1152	2307	4605
ファイン	113	228	452	885	1772	3537
エクストラファイン	66	134	266	522	1044	2086
cRAW＋JPEG	16	33	65	128	256	511
RAW＋JPEG	11	23	46	91	182	364

画像サイズ：S 2.6M（縦横比16:9のとき）

画質＼容量	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	163	329	650	1273	2547	5085
ファイン	126	254	503	985	1972	3937
エクストラファイン	76	154	306	598	1198	2392
cRAW＋JPEG	16	33	66	130	260	519
RAW＋JPEG	11	23	47	92	184	368

バッテリー使用時の撮影可能枚数

下の表は、満充電したバッテリー（付属）がなくなるまでに、何枚撮影できるかを表しています。温度25℃の環境でメモリーカードを交換しながら撮影した場合の目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

メモリーカード	撮影枚数
“メモリースティック デュオ”	約650枚
CFカード	約650枚

- 以下の設定で撮影した数値。
  - [画質]：[ファイン]
  - フォーカスモードがAF-A（AF制御自動切り換え）のとき
  - 30秒ごとに1回撮影
  - 2回に1度、フラッシュを発光する
  - 10回に1度、電源を入/切する
- 測定方法はCIPA規格による。（CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）
- 画像サイズによって撮影枚数が変化することはありません。
- 使用回数や経年変化により、バッテリー容量は低下します（162ページ）。
- 次のような場合、撮影枚数は表示よりも少なくなります。
  - 周囲が低温のとき
  - フラッシュ多用時
  - 電源の入/切を繰り返したとき
  - フォーカスモードがAF-C（コンティニュアスAF）のとき
  - バッテリーの容量が低下したとき
- マイクロドライブをお使いの場合は、撮影枚数が異なることがあります。

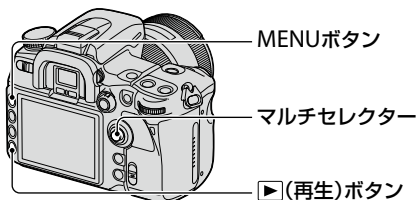
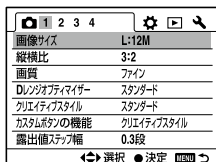
基本操作

マルチセレクターの使いかた

マルチセレクターを使って、さまざまな機能を選択・実行します。
また再生時には、再生画像を選ぶことができます。

使いかたの例：

メニュー項目を選ぶとき

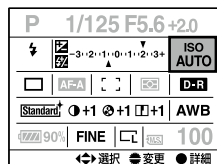
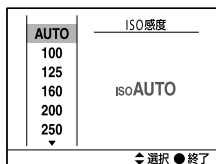
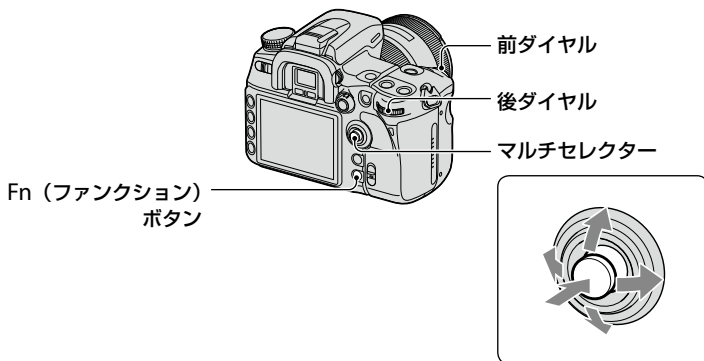
1 2 3 4	
画像サイズ	L:12M
縦横比	3:2
画質	ファイン
Dレンジオプティマイザー	スタンダード
クリエイティブスタイル	スタンダード
カスタムボタンの機能	クリエイティブスタイル
露出値ステップ幅	0.3段
選択 ●決定 MENU	

マルチセレクターを▲/▼/◀/▶に動かすと、カーソルがその向きに移動します。マルチセレクターの中央を押すと、選択した項目が決定されます。

再生画像を選ぶとき

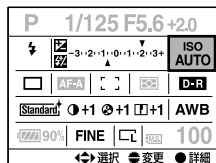
1枚再生時
◀/▶で前後の画像を選びます。

インデックス再生時
▲/▼/◀/▶で画像を選びます。

Fn（ファンクション）ボタンの使いかた

Fn（ファンクション）ボタンを使うと、撮影情報画面（20ページ）をクイックナビ画面に切り換えられます。クイックナビ画面では変更したい項目をダイレクトに操作することができます。
撮影情報画面のまま操作できるクイックナビ画面と、各専用画面に入って操作する専用画面があります。
本書では、クイックナビ画面での操作方法で説明しています。

クイックナビ画面

専用画面

クイックナビ画面での操作方法

1 Fn（ファンクション）ボタンを押し、クイックナビ画面を表示する。

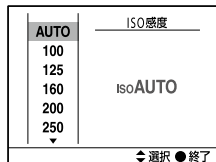
2 マルチセレクターで設定したい項目を選ぶ。

3 前ダイヤルまたは後ダイヤルで設定する。

設定方法の詳細は、各機能のページをご覧ください。

・クリエイティブスタイル（64ページ）では、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

専用画面での操作方法

1 「クイックナビ画面での操作方法」の手順2までを行う。

2 マルチセレクターの中央を押し、専用画面を表示する。

3 マルチセレクターを使って設定する。

設定方法の詳細は、各機能のページをご覧ください。

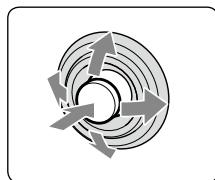
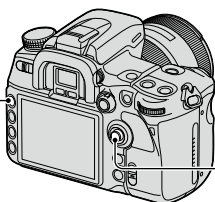
・専用画面では、マルチセレクターの代わりに前ダイヤルまたは後ダイヤルで操作できます。

クイックナビ画面で操作できる機能

露出補正	42ページ
フォーカスエリア	46ページ
ドライブモード	52ページ
ホワイトバランス	58ページ
ISO	61ページ
Dレンジオプティマイザー	62ページ
クリエイティブスタイル*	64ページ
フラッシュモード*	69ページ
調光補正	72ページ
画像サイズ	91ページ
画質	93ページ

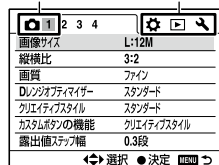
グレーになっている項目は選べません

*拡大画面のとき（20ページ）は使えません。撮影メニューから操作してください。

メニューの使いかた

1 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

2 **マルチセレクターの◀/▶で、設定したいメニューのページを選ぶ。**

選択中のメニュー　選択されていないメニュー

撮影メニュー［1、2、3、4］
カスタムメニュー［1、2、3、4］
再生メニュー［1、2］
セットアップメニュー［1、2、3］

3 **マルチセレクターの▲/▼で、希望の項目を選び、中央を押す。**

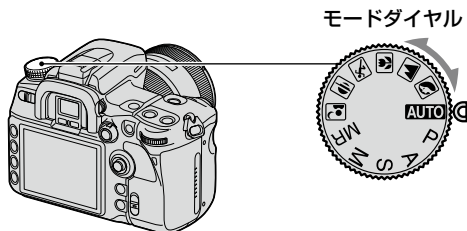
4 **マルチセレクターの▲/▼で、希望の設定を選び、中央を押す。**

5 **MENUボタンを押し、メニュー表示を消す。**

シャッターボタンの半押しでもメニュー表示は消えます。

- メニューの設定は、マルチセレクターを使わずに、前ダイヤルまたは後ダイヤルを使って操作することもできます。前ダイヤルで▲/▼に、後ダイヤルで◀/▶に移動します。
- 設定中にMENUボタンを押すと、設定が中断されます。
- セットアップメニューの[メニュー呼び出し先]で、前回最後に選択したメニューを最初に表示することもできます(123ページ)。

モードダイヤルの設定

モードダイヤルを、操作したい機能に合わせて設定します。

画像撮影モード

AUTO ：**オート撮影**

主な設定が一時的にオートになります。カメラまかせで簡単に撮影できます。
→別冊「はじめに」手順5

：**シーンセレクション**

あらかじめ、撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます（32ページ）。

P ：**プログラムオート撮影**

露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定しますが、その他の設定は自分で調整でき、設定した値は保持されます（33ページ）。

A ：**絞り優先撮影**

絞りを手動設定します（35ページ）。

S ：**シャッタースピード優先撮影**

シャッタースピードを手動設定します（37ページ）。

M ：**マニュアルモード撮影**

露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定します（38ページ）。

MR ：**登録設定の呼び出し**

撮影メニューの［登録］であらかじめ登録しておいた設定を呼び出します（76ページ）。

シーンセレクション

あらかじめ、撮影状況に合わせた下記の設定が用意されています。
クリエイティブスタイル（64ページ）以外の設定は、変更できますが、電源を切ったり、モードダイヤルを切り換えるとリセットされます。

ポートレートモード

背景をぼかし、被写体の人物を際だたせた画像を撮る。

- 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にしたほうが効果があります。
- 逆光のときはフラッシュの使用をおすすめします。フラッシュを使わない場合は、画面に余分な光が写り込むのを防ぐため、レンズフードの使用をおすすめします。

風景モード

風景を鮮やかにくっきりと撮る。

- フラッシュを下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- 被写体が暗いときはシャッタースピードが遅くなります。ファインダー内に が現れたときは、手ブレに注意するか、三脚を使用してください。手ブレ補正機能も効果があります。

マクロモード

花や昆虫など、近くの被写体を撮る。
被写体全体をくっきりとシャープに写すことができます。

- 1 m以内の撮影で内蔵フラッシュを使うと、写真の下部に影ができます。内蔵フラッシュは使わないでください。
- マクロモードにしてもレンズの最短撮影距離は変わりません。より大きく撮影するためには、マクロレンズの使用をおすすめします。

スポーツモード

明るい場所で動きのある被写体を撮る。

- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが調整され続けます（コンティニュアスAF、49ページ）。
- シャッターボタンを押したままにすると、連続して撮影されます（連続撮影、53ページ）。
- フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを使わないでください（内蔵フラッシュを下げてください）。フラッシュ光の届く距離（62ページ）。

夕景モード

夕焼けの赤さを美しく再現することができます。

夜景/ 夜景ポートレートモード

- シャッタースピードが遅くなりますので、三脚を使用してください。手ブレ補正機能も効果があります。

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景）

夜景をバックに、手前の人物を撮る。

フラッシュを上げて発光させてください。

- 撮影される人物が動くと写真もブレますので、動かないように注意してください。

夜景撮影（夜景のみ）

暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。

フラッシュは下げたまま発光させずに撮影してください。

- 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写真がうまく仕上がらないことがあります。

プログラムオートで撮る – P

プログラムオート撮影では、オート撮影（モードダイヤル：AUTO）と同様に被写体の明るさに応じてシャッタースピードと絞り値を自動的に設定します。

オート撮影とプログラムオート撮影の違い

オート撮影、プログラムオート撮影ともに、シャッタースピードと絞り値は自動的に設定されます。

その他の設定は変更可能ですが、オート撮影の場合は、いったんモードダイヤルを切り換えたり、電源を切ると、変更した設定はリセットされます。

これに対してプログラムオート撮影では、モードダイヤルを切り換えたり、電源を切っても、変更した設定値が保持されています。

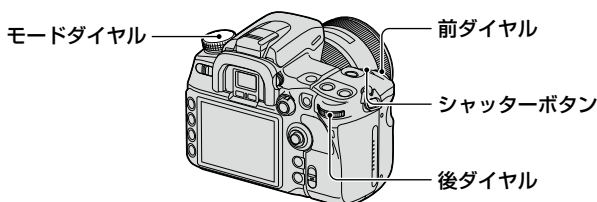
また、フラッシュが上がっているとき、オート撮影の場合は、本機が光量不足と判断した場合に自動で発光しますが、プログラムオート撮影の場合は、必ず発光します。

プログラムシフト

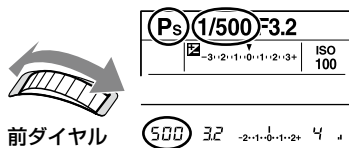
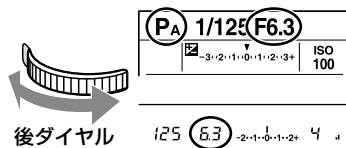
自動で設定されたシャッタースピードと絞りの組み合わせを、一時的に変更することができます。

プログラムシフトには、下記の2種類があります。

P_Sシフト：希望のシャッタースピードを選ぶことができます。絞り値は自動的に決まります。

P_Aシフト：希望の絞り値を選ぶことができます。シャッタースピードは自動的に決まります。

① モードダイヤルを「P」にする。

② グリップを握ってファインダーをのぞく、またはシャッターボタンを半押しして、測光値(シャッタースピードと絞り値)を表示する。

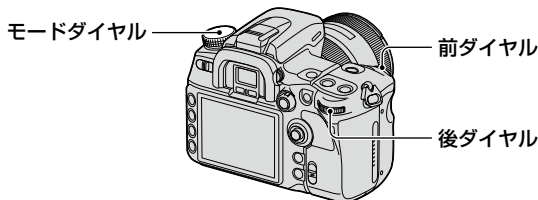
③ 測光値が表示されている状態で、前ダイヤルを回してシャッタースピードを選ぶ。または、後ダイヤルを回して絞り値を選ぶ。

- ✿ カスタムメニューの[前後ダイヤルの設定]で、前ダイヤルと後ダイヤルの機能を入れ換えることもできます(105ページ)。
- 測光値が表示されていれば、シャッターボタンの半押しを続ける必要はありません。

- 数秒経過して測光値が消えると、設定した値も消えます。
- フラッシュが上がっている場合は、プログラムシフトにはなりません。また、プログラムシフト中にフラッシュを上げると、プログラムシフトは中止されます。

絞り優先で撮る – A

絞り値を手動で調整できます。
絞りを開く（絞り値を小さくする）と、ピントの合う範囲が狭くなり、被写体のみがくっきり写ります。絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、ピントの合う範囲が広がり、画面全体がシャープに写ります。
シャッタースピードは自動調整されます。

絞りを開く

絞りを絞り込む

① モードダイヤルを「A」にする。

② 前ダイヤルまたは後ダイヤルで絞り値を選ぶ。

・設定できる絞り値はレンズによって異なります。
・1/3段ごとに絞り値が変わります。撮影メニューの［露出値ステップ幅］で、1/2段ごとにすることもできます（95ページ）。

・設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると画面のシャッタースピードが点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
・フラッシュが上がっている場合は、必ず発光します（69ページ）。
・フラッシュを使用する場合、絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞りを開いて（絞り値を小さくして）撮影することをおすすめします。
・絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）とレンズを通る光の量が減少し、シャッタースピードが遅くなります。三脚のご使用をおすすめします。

撮影のテクニック

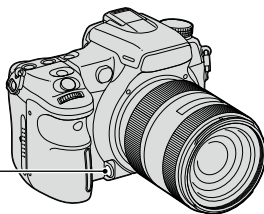
絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く（ピントの合う範囲は狭く）なり、絞りを絞り込むと深く（ピントの合う範囲が広く）なります。

絞りを開く
背景をぼかして被写体をくっきりと強調することができます。

絞りを絞り込む
近くから遠くまで広い範囲にピントを合わせることができます。

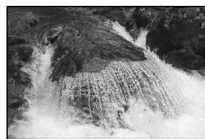
画像全体をシャープにするのか、特定部分だけを強調するのか、撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。

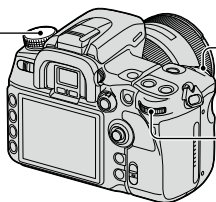
プレビュー（絞り込み）機能について

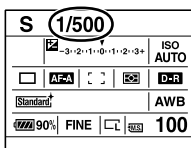
ファインダーには絞りが一番開いた状態の像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合いも変わるため、ファインダーで見えるぼけ具合いと実際の写真のぼけ具合いとは異なります。プレビュー機能を使うと、実際の撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のぼけ具合いを確認することができます。

ピントを合わせたあと、プレビュー（絞り込み）ボタンを押す。
押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。

- ファインダー内の画像は暗くなります。
- ピントを固定させずにプレビュー（絞り込み）ボタンを押した状態では撮影できません。ファインダー内に●が点灯した状態で、プレビュー（絞り込み）ボタンを押してください。
- カスタムメニューの[フォーカスホールドボタン]で、フォーカスホールドボタンでプレビューを行うようにすることができます（フォーカスホールドボタン付きレンズ使用時）（103ページ）。

シャッタースピード優先で撮る – S

シャッタースピードを手動で調整できます。
シャッタースピードを速くすると動いているものが止まっているように写り、シャッタースピードを遅くすると動いているものが流れるように写ります。
絞り値は自動調整されます。

速いシャッタースピード

遅いシャッタースピード

① モードダイヤルを「S」にする。

② 前ダイヤルまたは後ダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

- 30秒〜1/8000秒の範囲から選ぶことができます。フラッシュ発光時には、30秒〜1/200秒（手ブレ補正オン）または1/250秒（手ブレ補正オフ）の範囲で選ぶことができます。
- 1/3段ごとにシャッタースピードが変わります。撮影メニューの［露出値ステップ幅］で、1/2段ごとにすることもできます（95ページ）。

- 設定後に適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の絞り値が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュが上がっている場合は、必ず発光します（69ページ）。
- フラッシュを使用する場合、シャッタースピードを遅くして絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。
- シャッタースピードが1秒以上の場合、撮影後にノイズ軽減処理（長秒時ノイズリダクション）が行われます（100ページ）。

・シャッタースピード優先モードでは、(手ブレ警告)は表示されません。

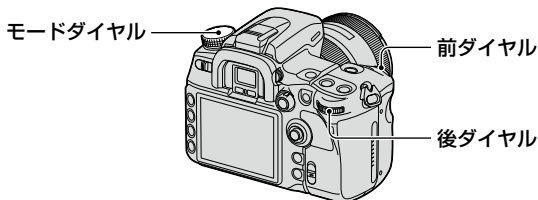
撮影のテクニック

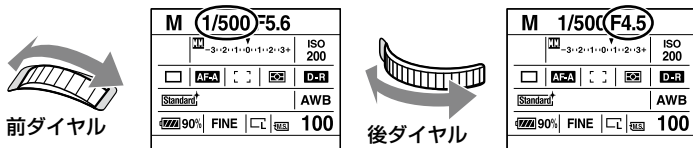
走っている人や車、波しぶきなどを高速のシャッタースピードで撮ると、肉眼ではとらえることができない瞬間を撮影できます。

また、低速のシャッタースピードで川の流れなど動きのあるものを撮影すると、より自然な流動感のある画像になります。この場合手ブレしないように三脚のご使用をおすすめします。

マニュアルモードで撮る – M

マニュアル露出

絞り値とシャッタースピードの両方を、手動で調整できます。絞り値とシャッタースピードの両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

① モードダイヤルを「M」にする。

② 前ダイヤルでシャッタースピードを、後ダイヤルで絞り値を選ぶ。

・30秒の次には[BULB](バルブ撮影)が表示されます(40ページ)。

・マニュアルモードでは、[ISO感度](61ページ)を[AUTO]にしていても、常にISO200に固定されます。

・カスタムメニューの[前後ダイヤルの設定]で前ダイヤルと後ダイヤルの機能を入れ換えることもできます(105ページ)。

• フラッシュが上がっている場合は、必ず発光します（69ページ）。
• マニュアルモードでは、(手ブレ警告）は表示されません。

測光インジケーターについて

液晶モニターとファインダー内の測光インジケーターに、本機が測光した露出値を基準値（0）として、撮影者が選んだシャッタースピードと絞り値による露出値との差が表示されます（メーターードマニュアル）。

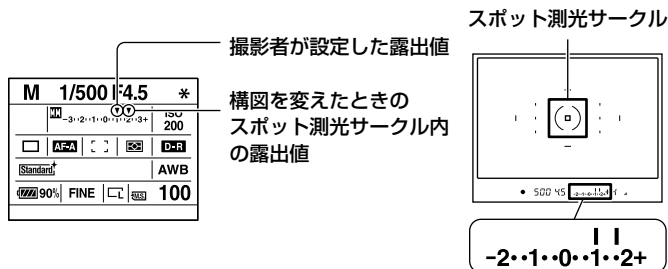
	本機が測光した基準値と撮影者が設定した露出値が同じ	撮影者が設定した露出値は、本機が測光した基準値より＋1段オーバー	インジケーターの範囲を超えると◀▶が点灯し、さらに差が開くと点滅します。
液晶モニター	MM −3··2··1··0··1··2··3+	MM −3··2··1··0··1··2··3+	MM −3··2··1··0··1··2··3+
ファインダー	−2••1••0••1••2+	−2••1••0••1••2+	−2••1••0••1••2+

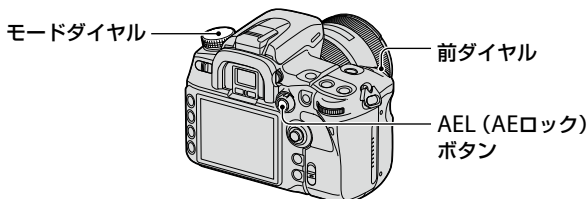
MM：Metered manual（メーターードマニュアル）の略
• 露出補正をかけると、基準値（0）の位置がその分だけずれます。

マニュアルモード時のAELボタンの使いかた

AEL（AEロック）ボタンを押している間、本機が測光した露出値が基準値（0）としてロックされます。ボタンを押したまま構図を変えると、変えたあとのスポット測光サークル内の露出値が2つ目の指標として現れます。

下図では、撮影者が設定した露出値は、本機が測光しロックした基準値（0）より＋1段オーバーであることを示します。そこから構図を変えたときのスポット測光サークル内の値は、さらに+0.7段オーバーとなり、本機が測光した基準値よりも＋1.7段オーバーであることがわかります。

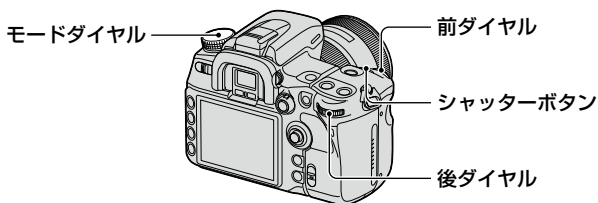
撮影機能の説明

マニュアルシフト

マニュアルモード時に、露出はそのままでシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができます。

① モードダイヤルを「M」にする。

② シャッタースピードと絞り値を選ぶ（38ページ）。

③ AEL（AEロック）ボタンを押しながら前ダイヤルを回し、希望のシャッタースピードと絞り値の組み合わせを選ぶ。

バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。花火の光が尾を引くような画像が撮影できます。本機を三脚に取り付けて撮影してください。

① モードダイヤルを「M」にする。

② 前ダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

M BLUB F5.6
–3··2··1··0··1··2··3+ ISO 200
AF-A D-R
Standard AWB
90% FINE 100

③ 後ダイヤルで絞り値を選ぶ。

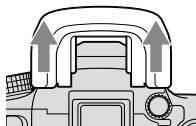
④ アイピースカバーを取り付ける（下記）。

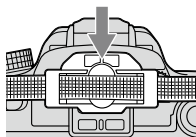
⑤ 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

- 満充電したバッテリーで、約4時間半のバルブ撮影が可能です。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理（長秒時ノイズリダクション）が行われます。その間は「ノイズリダクション実行中」というメッセージが現れ、撮影はできません。📷 撮影メニューの［長秒時ノイズリダクション］でこの機能を解除することもできます（100ページ）。
- 手ブレ補正機能は、自動的にオフになります。
- ISO感度が高いほど、また露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- カメラブレを少なくするため、リモコン（付属）またはリモートコマンダー（別売）の使用をおすすめします（57、165ページ）。

アイピースカバーを取り付けるには

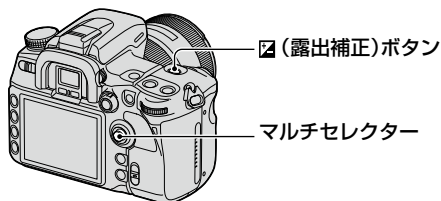
バルブ撮影やセルフタイマー撮影などで、ファインダーをのぞかずにシャッターを切る場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、アイピースカバーを取り付けてください。

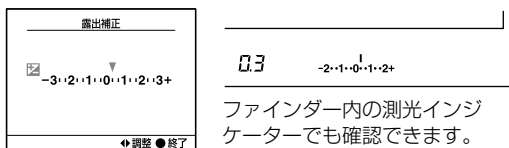
① アイカップを取りはずす。

② ストラップに付いているアイピースカバーを取り付ける。

撮影機能の説明

露出の設定

露出とは、シャッターを切ったときに取り入れる光の量のことです。
オート撮影時、本機は露出が適正になるように自動調整しますが、以下の設定などでお好みの状態に調整できます。

露出を補正する

本機が決定した露出（画像の明るさ）を手動で変えることができます。
画面全体を明るくしたり、暗くしたりするときに使います。

① (露出補正)ボタンを押して、露出補正画面を表示する。

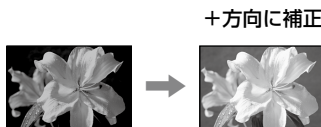
ファインダー内の測光インジケーターでも確認できます。

② マルチセレクターの◀/▶で希望の補正値を選ぶ。

−方向　　＋方向

＋側：画像が明るくなる。
0：本機が自動設定した露出。
−側：画像が暗くなる。

- (露出補正)ボタンの代わりに、Fn（ファンクション）ボタンでも操作できます（27ページ）。
- ±3.0の範囲で、1/3段ごとに設定できます。撮影メニューの[露出値ステップ幅]で1/2段ごとにすることもできます（95ページ）。

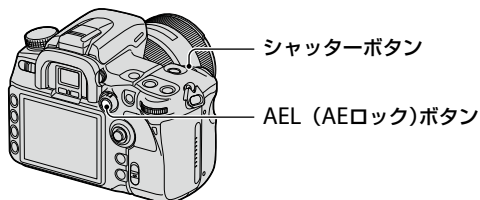
撮影のテクニック

逆光の人物や雪景色などのように全体が白っぽい被写体を撮影すると、本機が明るすぎると判断して、露出が暗めになることがあります。その場合は＋方向に補正すると効果的です。

＋方向に補正

また、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときは、本機が暗すぎると判断して、露出が明るめになることがあります。その場合は−方向に補正すると効果的です。

−方向に補正

露出を固定する（AEロック撮影）

露出を先に決めてから撮りたい構図にして撮影できます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに有効です。

① 測光したい状態に本機を構える。
- ピントを合わせておいてください（固定させる必要はありません）。

② AEL（AEロック）ボタンを押す。
- ファインダー内と液晶モニターの ✱ が点灯し、露出値がロック（固定）されていることをお知らせします。

③ AEL（AEロック）ボタンを押したまま、必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影する。

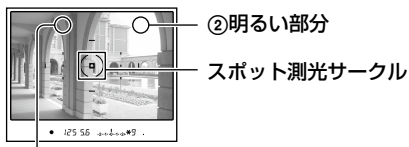
撮影機能の説明

- 撮影後もAEL（AEロック）ボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。指を離すと解除されます。
- シャッタースピード優先/マニュアルモード以外でのフラッシュ発光時は、スローシンクロ撮影になります（74ページ）。
- ✿ カスタムメニューの[AELボタン]で、AELボタンから指を離しても露出値が固定されたままになるようにしたり、一時的にスポット測光にしたりすることもできます（104ページ）。

AEL（AEロック）ボタンを押したときの測光インジケーターについて

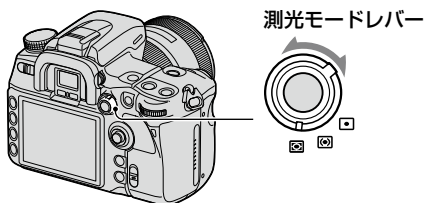
AEL（AEロック）ボタンを押している間、本機が測光した露出値が基準値（0）としてロックされます。同時にそのときのスポット測光サークル内の測光値が、2つ目の指標として現れます。

- 測光インジケーターの表示範囲を超えた場合、インジケーターの端で◀▶が点灯し、さらに開くと点滅します。

例：下の場面で構図を決めてAEL（AEロック）ボタンを押した場合

AEL（AEロック）ボタンを押すと、インジケーターは以下の通りになります。

	AEL（AEロック）ボタンを押す。 ➡	AEL（AEロック）ボタンを押したまま①に構図を合わせる。	AEL（AEロック）ボタンを押したまま②に構図を合わせる。
多分割/中央重点平均測光	固定された露出値 −2••1••0••1••2＋ スポット測光サークル内の測光値はAELボタンでロックされた値よりも−0.3段（構図を変えると連動して変化）	固定された露出値 −2••1••0••1••2＋ ①の測光値はAELボタンでロックされた値よりも−1.3段（構図を変えると連動して変化）	②に合わせると、②の測光値が表示されます。この場合、②の部分は白くとんでしまいます。 −2••1••0••1••2＋ ▶
スポット測光	−2••1••0••1••2＋ 固定された露出値＝スポット測光サークル内の測光値	固定された露出値 −2••1••0••1••2＋ ①の測光値はAELボタンでロックされた値よりも−1.0段（構図を変えると連動して変化）	

測光モードを選ぶ

測光モード（被写体のどの部分の明るさを測るかを選ぶ方法）を選ぶことができます。

測光モードレバーを希望のモードに合わせる。

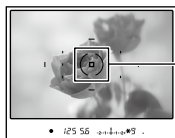
（多分割測光）

画面全体を40分割して測光します（40分割ハニカムパターン測光）。逆光時の撮影を含む一般的な撮影に適しています。

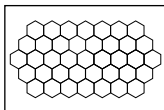
（中央重点平均測光）

画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります（42ページ）。

（スポット測光）

中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行います。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光する場合に適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影をしてください（43ページ）。

スポット測光サークル
被写体をここに合わせる

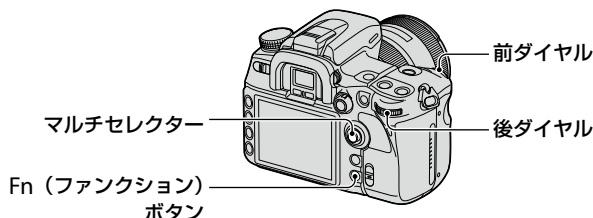
多分割測光について

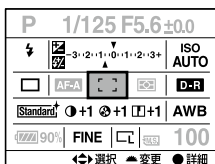
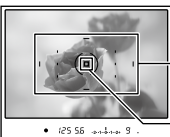
画面内には、39個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計40個の測光素子が配置されています。これらはオートフォーカスと連動しており、本機が被写体の位置と明るさを判断して的確な露出を決定します。

- 多分割測光でピントが固定されると、露出（シャッタースピードと絞り値）も同時に固定されます（シングルAFまたはAF制御自動切り換えの場合のみ）。

ピントの設定

グリップを握ってファインダーをのぞくか、シャッターを半押しすると、本機はピントを自動で合わせます（オートフォーカス）。ピントがあっているかを確認するためにも、シャッターを半押しする習慣をつけましょう。

フォーカスエリアを選ぶ

ピントを合わせる位置を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

① Fn（ファンクション）ボタンを押して、クイックナビ画面を表示する（27ページ）。

② マルチセレクターでフォーカスエリアの項目を選ぶ。

③ 前ダイヤルまたは後ダイヤルで希望のモードを選ぶ。

- 手順②でフォーカスエリアを選んだあとにマルチセレクターの中央を押すと、専用画面になります。この場合、マルチセレクターの▲/▼で希望のモードを選び、中央を押します。
- 撮影メニューからもフォーカスエリアを選ぶことができます（98ページ）。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	[ ]（ワイド）	フォーカスエリア内の11のエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを本機が自動的に決定します。 フォーカスエリア

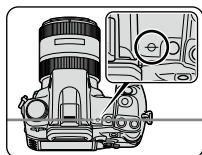
	（中央に固定）	常にスポットフォーカスエリアが使われます。 スポットフォーカスエリア
	（ローカル）	11のエリアから、任意のエリアを選びます。 マルチセレクターでピントを合わせるエリアを選びます。 マルチセレクターの中央を押すと、スポットフォーカスエリアでピントが合います。 フォーカスエリア スポットフォーカスエリア ・撮影後もエリアは常に切り換えが可能です。不用意にマルチセレクターを動かさないようご注意ください。

- ピント合わせに使われたエリアは一瞬点灯します。
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、エリアが点灯しないことがあります。

ピントが合いにくい被写体：

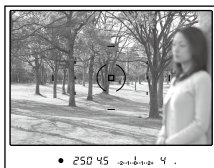
下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック撮影（次ページ）またはマニュアルフォーカス撮影（49ページ）を行ってください。

–青空や白壁などコントラストのないもの
–フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
–ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
–太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

撮影距離を正確に測るには

本機上面の ⊖ マークがイメージセンサー*面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* イメージセンサー：デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

撮影のテクニック

被写体がフォーカスエリアに入らないときは（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたい被写体がフォーカスエリアに入っていないときにそのまま撮影すると、フォーカスエリアと重なっている背景にピントが合って被写体がぼけてしまいます。

このようなときは次のようにピントを固定して撮影してください。

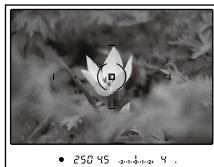
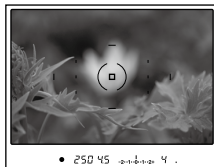
① ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

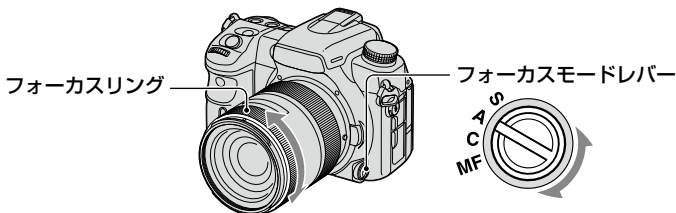
② シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。

③ シャッターボタンを押し込んで撮影する。

被写体以外のものがフォーカスエリアに入るときは

お買い上げ時の設定、［　］（ワイド）の場合、希望しないエリアにピントが合ってしまうときは、マルチセレクターの中央を押すと、（中央に固定）を選んでいなくても、中央付近の被写体にピントが合います。

マルチセレクターの中央を押したまま、撮影する。

フォーカスモードを選ぶ

フォーカスモード(ピント合わせの方法)を変えることができます。

フォーカスモードレバーを希望のモードに合わせる。

オートフォーカス

S(AF-S シングルAF)

シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、ピントはそこで固定されます。動きのない被写体を撮影するときに便利です。

A(AF-A AF制御自動切り換え)

シングルAFとコンティニュアスAFとが自動的に切り換わります。シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止しているときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続けます。幅広いシーンで使うことができます。

- 撮影メニューの[AF-Aの機能]で、AF-Aの代わりにDMF(ダイレクトマニュアルフォーカス)を割り当てることもできます(98ページ)。

C(AF-C コンティニュアスAF)

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

- フォーカスエリアが[ ](ワイド)のときは、被写体が動くと、それに合わせてピントを合わせるエリアも変わります。
- ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

マニュアルフォーカス

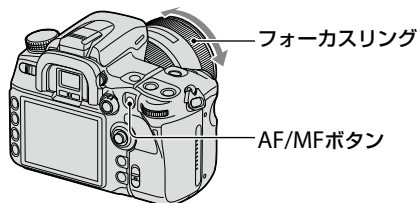
MF(MF マニュアルフォーカス)

被写体までの距離を自由に設定することができます。

フォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うとファインダー内のフォーカス表示●が点灯します。ワイドフォーカスエリア時は中央のエリアが、ローカルフォーカスエリア時はマルチセレクターで選んだエリアが使用されます。
- 本機では、マニュアルフォーカス時でもより安定した露出が得られるよう、露出の決定に距離情報を利用しています。距離情報の精度を高めるため、POWERスイッチを「ON」にすると、ピントがいったん無限遠位置（∞）にリセットされます。
- テレコンバーター使用時などは、フォーカスリングの回転が重くなる場合があります。

AF/MFを簡単に切り換える

フォーカスモードは本機前面のフォーカスモードレバーの他に、後面のAF/MFボタンでも切り換えることができます。
撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます（AF/MFコントロール）。

オートフォーカスモードのとき

AF/MFボタンを押すと、押している間、一時的にマニュアルフォーカスになります。
AF/MFボタンを押したまま、フォーカスリングを回してピントを合わせてください。

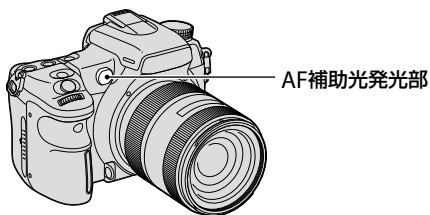
マニュアルフォーカスモードのとき

AF/MFボタンを押すと、押している間、一時的にオートフォーカスになり、ピントが固定されます。マニュアルフォーカスを中心に使用して、必要なときだけオートフォーカスを使うときに便利です。

- ✿ カスタムメニューの[AF/MFボタンの機能]で、AFロックボタンとして機能させることもできます（102ページ）。
- ✿ カスタムメニューの[AF/MFコントロール]で、ボタンを押し続けなくても変更したモードを維持することもできます（103ページ）。

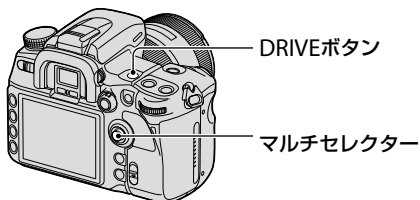
AF補助光を使う

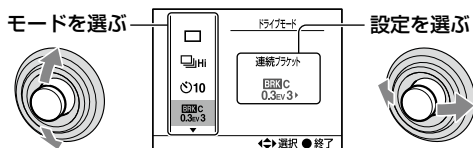
AF補助光により、暗所やコントラストの低い被写体でもオートフォーカスでピントが合いやすくなります。

シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に赤い補助光が出て、ピントを合わせやすくします。

- AF補助光が届く範囲は、約1 m～ 7 mです。
- フォーカスモードがコンティニュアスAFのときや被写体が動いているとき（ファインダー内にフォーカス表示 (◉) または ( ) が点灯しているとき）は、補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300 mm以上のときは、 AF補助光は発光しないことがあります。
- フラッシュ（別売）を取り付けているときは、フラッシュのAF補助光が発光します。
- 撮影メニューの[AF補助光]で発光させないようにすることもできます（99ページ）。
- フォーカスエリアを「ローカル」にして、中央以外のエリアを選んでいるときは、 AF補助光は発光しません。

撮影機能の説明

ドライブモードの設定

DRIVEボタンを使って、連続撮影、セルフタイマー、ブラケット撮影、リモコン撮影の設定ができます。

1 DRIVEボタンを押し、設定画面を表示する。

2 マルチセレクターの▲/▼で希望のドライブモードを選び、◀/▶で設定を選ぶ。

3 マルチセレクターの中央を押し、設定画面を消す。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	□	1枚撮影 ・他のドライブモードの設定解除も行います。
	Hi Lo	連続撮影（53ページ）
	10 2	セルフタイマー（54ページ）
	BRK C 0.3EV 3 BRK C 0.3EV 5 BRK C 0.5EV 3 BRK C 0.5EV 5 BRK C 0.7EV 3 BRK C 0.7EV 5	連続ブラケット（54ページ）
	BRK S 0.3EV 3 BRK S 0.3EV 5 BRK S 0.5EV 3 BRK S 0.5EV 5 BRK S 0.7EV 3 BRK S 0.7EV 5	1枚ブラケット（55ページ）
	BRK WB Lo3 BRK WB Hi3	ホワイトバランスブラケット（56ページ）
	BRK D-R+ Lo3 BRK D-R+ Hi3	DROアドバンスブラケット（56ページ）
		リモコン（57ページ）

・DRIVEボタンの代わりに、Fn（ファンクション）ボタンを使って選ぶこともできます（27ページ）。

操作方法は52ページ

連続撮影する

シャッターボタンを押し続けている間、連続撮影します。

Hi： 毎秒最高約5枚*の速度で撮影

Lo： 毎秒最高約3枚*の速度で撮影

* 弊社測定条件による：画像サイズが[L:12M]、画質が[ファイン]、フォーカスモードが[AF-S]（シングルAF）またはマニュアルフォーカス、シャッタースピード1/250秒以上。
ただし、暗い環境下での撮影時やDレンジオプティマイザーが[アドバンスオート]または[アドバンスレベル設定]になっているとき、連続撮影の速度は低下します。

・ファインダー内に、連続して撮影できる最大枚数が表示されます。メモリー容量（一時的に画像を蓄えておく領域の容量）の関係上、続けて撮影して数が減っても、撮影データのメモリーカードへの保存が終了すれば、枚数は元に戻ります。

・内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
・フォーカスモードがAF-C（コンティニュアスAF）またはAF-A（AF制御自動切り換え）のときは、1枚ごとにピントが変わります。AF-S（シングルAF）は1枚目で固定されます。
・オートレビューは最後に撮影された画像のみが表示されます。
・連続撮影の枚数には上限があります。

最大連続撮影枚数

RAW	18枚
cRAW	25枚
RAW＋JPEG	12枚
cRAW+JPEG	12枚
エクストラファイン	16枚
ファイン/スタンダード	制限なし（カード容量まで）

・これらの値はメモリーカードの書き込み速度や撮影条件などにより異なるので、あくまでも目安です。

操作方法は52ページ

セルフタイマーで撮る

シャッターボタンを押してから、約10秒後または2秒後に撮影されます。10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーはミラーが先に上がるので、撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利です。

被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押す。

⏲10： 10秒セルフタイマー
⏲2： 2秒セルフタイマー

- 10秒セルフタイマーの場合、作動中は、本機前面のセルフタイマーランプが点滅します。電子音でもお知らせします。
- 作動中の10秒セルフタイマーを止めるには、DRIVEボタンを押してください。2秒セルフタイマーは途中で止められません。
- 本機の後ろに明るい光源や反射物などがあり、かつファインダーをのぞかずにシャッターボタンを押す場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、ストラップに付いているアイピースカバーを付けてください（41ページ）。

最適な露出を探す－連続ブラケット/1枚ブラケット

厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に、少し露出をずらして何枚か撮影することがあります。

適正露出　－に補正　＋に補正

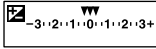
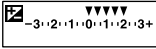
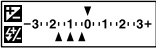
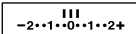
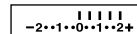
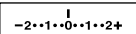
連続ブラケット

シャッターボタンを押し続け、連続して撮影する。

BRK C 0.3EV 3： 0.3段ずつずらして連続して3枚撮影する。
BRK C 0.3EV 5： 0.3段ずつずらして連続して5枚撮影する。
BRK C 0.5EV 3： 0.5段ずつずらして連続して3枚撮影する。
BRK C 0.5EV 5： 0.5段ずつずらして連続して5枚撮影する。
BRK C 0.7EV 3： 0.7段ずつずらして連続して3枚撮影する。
BRK C 0.7EV 5： 0.7段ずつずらして連続して5枚撮影する。

1枚ブラケット

1枚ずつシャッターボタンを押して撮影する。

BRK S 0.3EV 3： 0.3段ずつずらして1枚ずつ3枚撮影する。
BRK S 0.3EV 5： 0.3段ずつずらして1枚ずつ5枚撮影する。
BRK S 0.5EV 3： 0.5段ずつずらして1枚ずつ3枚撮影する。
BRK S 0.5EV 5： 0.5段ずつずらして1枚ずつ5枚撮影する。
BRK S 0.7EV 3： 0.7段ずつずらして1枚ずつ3枚撮影する。
BRK S 0.7EV 5： 0.7段ずつずらして1枚ずつ5枚撮影する。

- フラッシュが発光する場合は、設定にかかわらず、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影してください。
- 下記は撮影の順序の例です。✿カスタムメニューの[ブラケット順序]で変更もできます(109ページ)。
  3枚の場合： 0 → −0.3 → +0.3
  5枚の場合： 0 → −0.5 → +0.5 → −1.0 → +1.0
- 基準となる露出値は、ブラケット1枚目で固定されます。露出補正をかけると、基準値が移動します。
- ピント位置は、通常は撮影のたびに変わります。連続ブラケット撮影で、フォーカスモードがAF-S（シングルAF）またはAF-A（AF制御自動切り換え）で被写体が静止している場合のみ、ピント位置は固定されます。
- フラッシュが発光しない場合は、定常光*ブラケット撮影となり、シャッタースピードと絞り値が変化してブラケット撮影が行われます。フラッシュが発光する場合は、フラッシュブラケット撮影となり、フラッシュ光が変化します。
- 定常光ブラケット撮影では、プログラムオートモードではシャッタースピードと絞り値、絞り優先モードではシャッタースピード、シャッタースピード優先モードでは絞り値が変化します。マニュアルモードでは通常はシャッタースピードが変化しますが、AEL（AEロック）ボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。
  * 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれる。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

ブラケット撮影にすると、測光インジケーター表示が変わります。

	定常光ブラケット 段数0.3段　3枚 露出補正±0.0段	定常光ブラケット 段数0.5段　5枚 露出補正＋1.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段　3枚 調光補正−1.0段
液晶 モニター	−3··2··1··0··1··2··3+ （上段に表示）	−3··2··1··0··1··2··3+ （上段に表示）	−3··2··1··0··1··2··3+ （下段に表示）
ファインダー	−2··1··0··1··2+	−2··1··0··1··2+	−2··1··0··1··2+

- 定常光ブラケットの測光インジケーターは、ファインダー内にも表示されます。フラッシュブラケットは表示されません。
- ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えて行きます。
- 「1枚ブラケット」の場合、シャッターボタンを半押ししたあとに指を離すと、ファインダー内に、定常光ブラケットの場合は「br 1」、フラッシュブラケットの場合は「Fbr 1」の表示が現れます。撮影を開始すると、「br 2」「br 3」などと次の撮影が何枚目かが表示されます。

ホワイトバランスブラケットで撮る

選択されているホワイトバランスの値を基準に、色温度を自動的にずらして3枚の写真を撮影します。1回の撮影で、「基準のホワイトバランスの画像」→「ー側(青みがかった画像)」→「＋側(赤みがかった画像)」の順で、計3枚の画像が記録されます。

BRK WB Lo3：　ホワイトバランスを10ミレッド*ずらして撮影する。
BRK WB Hi3：　ホワイトバランスを20ミレッド*ずらして撮影する。

* ミレッド：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位

- オートレビューは、最後に記録された画像のみが表示されます(109ページ)。

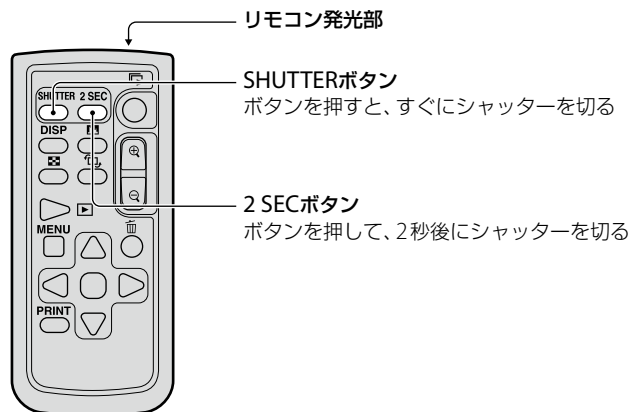
DROアドバンスブラケットで撮る

撮影画像の階調、色再現を画像の領域ごとに最適化して3枚の写真を撮影します。
1回の撮影で、「弱」→「中」→「強」の順で、計3枚の画像が記録されます。
(DRO：Dレンジオプティマイザーを表します)

BRK D-R+ Lo3：　DROブラケットを弱めにずらして撮影する。
BRK D-R+ Hi3：　DROブラケットを強めにずらして撮影する。

- DROアドバンスブラケット撮影にすると、Dレンジオプティマイザーの設定(62ページ)は一時的に無効になります。
- RAWファイルにはDROアドバンスブラケットの補正効果は反映されません。

リモコンを使って撮影する

リモコン(付属)を使って撮影するには、ドライブモードを[ ](リモコン)にしてください。

被写体にピントが合っているのを確認してから、リモコン発光部を本機前面のリモコン受光部に向けて、SHUTTERボタンまたは2 SECボタンを押す。

- 他のドライブモード(連続撮影など)は使えません。
- ピントを固定させる場合(フォーカスロック撮影、48ページ)は、本機のシャッターボタンを半押しして離してください。その後リモコンで撮影します。撮影後もピントは固定されたままですが、何か操作をすれば解除されます。
- バルブ撮影(40ページ)では、SHUTTERボタンを押すとすぐに、2 SECボタンを押すと2秒後に露光が開始されます。もう一度SHUTTERボタンまたは2 SECボタンを押すと、すぐに露光が終了します。
- その他のボタンは、テレビと接続したときに使います(88、147ページ)。

画像処理と色の設定

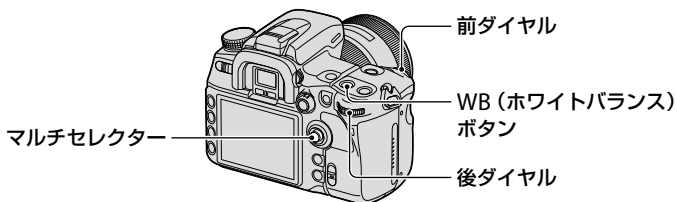
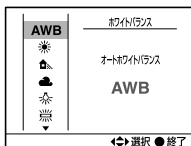
ここでは、撮像素子の感度設定、デジタルカメラならではの色の処理やシーンに応じての画像スタイル設定などを説明します。

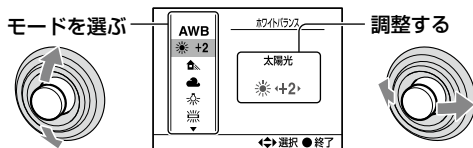
ホワイトバランスを設定する

被写体の色は、その場の光の影響を受けます。

例：同じ色が光の影響で違って見えます

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	白熱灯
光の特性	基準となる白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

本機はこの変化を最適な仕上がりになるように自動調整します（オートホワイトバランス時）が、ホワイトバランスモードでお好みの色に調整することができます。

① WB（ホワイトバランス）ボタンを押して、ホワイトバランス画面を表示する。

② マルチセレクターの▲/▼でモードを選び、必要に応じて◀/▶で調整する。

- ＋側にするほど色温度が上がり、被写体が赤っぽく写ります。－側にするほど色温度が下がり、青白く写ります。

（✓：お買い上げ時の設定）

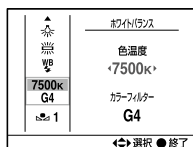
✓	AWB（オートホワイトバランス）	自動的に調整する。
	☀（太陽光）	晴れた明るい屋外に合わせる（+3 ～－3）。
	（日陰）	晴れた明るい屋外の日陰に合わせる（+3 ～－3）。
	（曇天）	曇った屋外に合わせる（+3 ～－3）。
	（白熱灯）	白熱灯や、スタジオなどのビデオライトに合わせる（+3 ～－3）。
	（蛍光灯）	蛍光灯の光に合わせる（+4 ～－2）。
	（フラッシュ）	フラッシュ光に合わせる（+3 ～－3）。
	色温度・カラーフィルター	下記をご覧ください。
	（カスタム1 ～ 3・カスタムセット）	カスタムホワイトバランスを使用する。60ページをご覧ください。

・WB（ホワイトバランス）ボタンの代わりに、Fn（ファンクション）ボタンを使って選ぶこともできます（27ページ）。

色温度・カラーフィルター

ホワイトバランス値を、色温度で指定することができます。また、設定した色温度を基準にG（Green）からM（Magenta）の方向に、写真用のCC（色補正）フィルターを使う感覚で、色を補正できます。

・カラーメーターをお使いの場合、蛍光灯やナトリウム灯、水銀灯下では、カスタムホワイトバランスの使用またはためし撮りを行ってください。カラーメーターはフィルムカメラ用であり、これらの光源下では値が異なるためです。

① マルチセレクターの▲/▼で「色温度」か「カラーフィルター」のどちらかを選ぶ。

② ◀/▶で調整する。

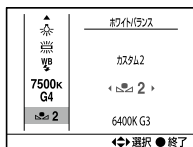
・色温度は2500K ～ 9900Kの範囲で選ぶことができます。
・カラーフィルターは、G9 ～ M9の範囲で選ぶことができます。1段分はCCフィルター番号の5に相当します。

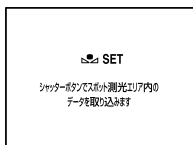
③ 設定が終了したら、マルチセレクターの中央を押す。

カスタムホワイトバランス

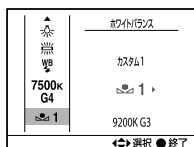
複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

① マルチセレクターの▲/▼でカスタムホワイトバランスの項目を選ぶ。

② ◀/▶で項目を切り換える。

設定を登録するには

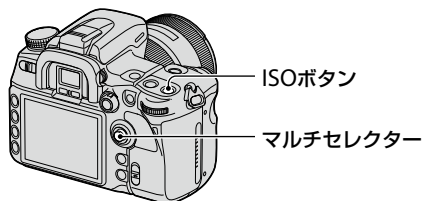
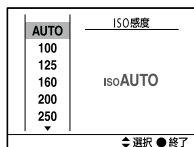
① [SET]を選び、マルチセレクターの中央を押して、登録画面を表示する。

② 白く写したいものがスポット測光サークルを覆うように本機を構え、シャッターボタンを押す。
登録選択画面が表示される。

③ ◀/▶で登録番号を選び、中央を押す。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

呼び出したい番号を選ぶ。

- この操作で登録されたカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで有効です（POWERスイッチを「OFF」にしても消えません）。
- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させせると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。
- 「カスタムWB設定エラー」というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。そのまま登録すると、液晶モニター撮影情報画面の ◢◣ 表示が黄色になります。撮影はできますが、より正確なホワイトバランスを得るために、設定し直すことをおすすめします。

ISO感度の設定

光に対する感度は、ISO感度（推奨露光指数）で表します。標準（ISO 200）より数値が大きいほど高感度になります。

① ISOボタンを押して、ISO感度画面を表示する。

② マルチセレクターの▲/▼で希望の数値を選ぶ。

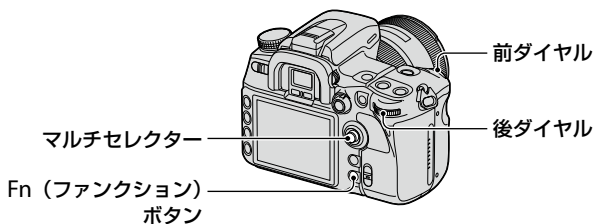
- ［AUTO］（オート）、100 ～ 6400の範囲で設定できます。
- ISO 3200を超える拡張感度範囲では画像のざらつきが目立ちやすくなります。
- 前ダイヤル、後ダイヤルでも選べます。前ダイヤルの操作で1段ごと、後ダイヤルの操作で1/3段ごとに変更できます。

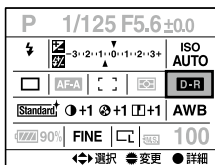
- ISOボタンの代わりに、Fn（ファンクション）ボタンを使って選ぶこともできます（27ページ）。この場合も、前ダイヤルで1段ごと、後ダイヤルで1/3段ごとに変更できます。
- ISO感度が［AUTO］の場合、モードダイヤルが「P」、「A」、「S」のときはISO 200 ～ 800の間で自動的に設定されます。 撮影メニューの［ISO AUTO 上限］、［ISO AUTO 下限］で変更することもできます（97ページ）。モードダイヤルが「M」のときはISO 200に固定されます。

・内蔵フラッシュによる調光距離（適正露出の得られる範囲）は、絞り値とISO感度によって異なります。下記の表を目安に撮影距離を決めてください。

絞り値	ISO感度							
	ISO AUTO	ISO 100	ISO 200	ISO 400	ISO 800	ISO 1600	ISO 3200	ISO 6400
F2.8	2~12 m	1~4.3 m	1~6 m	1.4~8.6 m	2~12 m	2.8~17 m	4~24 m	5.6~34 m
F4	1.4~8.6 m	1~3 m	1~4.3 m	1~6 m	1.4~8.6 m	2~12 m	2.8~17 m	4~24 m
F5.6	1~6 m	1~2.1 m	1~3 m	1~4.3 m	1~6 m	1.4~8.6 m	2~12 m	2.8~17 m

Dレンジオプティマイザー機能を使う

撮影シーンを分析し、自動補正を行って画質を向上させます。

① Fn（ファンクション）ボタンを押して、クイックナビ画面を表示する（27ページ）。

② マルチセレクターでDレンジオプティマイザーの項目を選ぶ。

③ 前ダイヤルでモードを選ぶ。

・アドバンスレベル設定の場合は、後ダイヤルでレベルを調整します。

・手順②でDレンジオプティマイザーの項目を選んだあとにマルチセレクターの中央を押すと、専用画面になります。この場合、マルチセレクターの▲/▼で希望のモードを選び、中央を押します。アドバンスレベル設定は、◀/▶でレベルを調整します。

・撮影メニューからも専用画面を選ぶことができます（94ページ）。

D-R OFF（切）	補正しない。
D-R（スタンダード）	画面全体の明るさ、コントラストを自動調整する。
D-R+（アドバンスオート）	撮影画像の階調や色再現を、画像の領域ごとに自動で最適化する。
D-R+（アドバンスレベル設定）Lv 1～Lv 5	撮影画像の階調や色再現を、画像の領域ごとに最適化する。［Lv1］（弱）～［Lv5］（強）まで、最適化レベルが5段階で選べる。

- 「スタンダード」は逆光などで全体的に暗いときに、「アドバンス」は画面内の明るい部分と暗い部分の差が大きいときにより効果があります。
- 撮影モードによって、最初に選ばれている設定が違います。
  - オート撮影：アドバンスオート
  - プログラムオート/絞り優先/シャッタースピード優先/マニュアルモード：スタンダード
  - シーンセレクション：シーンセレクションのモードによって変わります。
- AEロック時は、AEロックした画像データに対して自動補正処理を行います。
- 連続撮影時は、1枚目で補正が固定され、2枚目以降も同じ補正になります。
- RAWファイルには「スタンダード」以外のDレンジオプティマイザー効果は反映されません。「Image Data Converter SR」のDレンジオプティマイザー機能を使って補正してください。
- DROアドバンスブラケット撮影にすると、ここでの設定は一時的に無効になります。

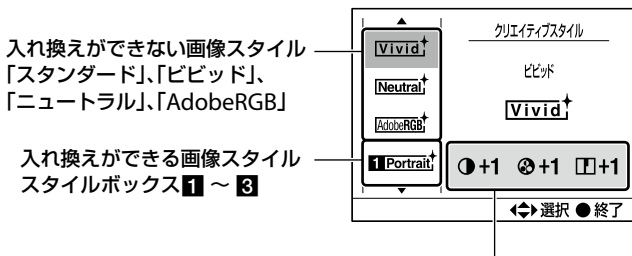
クリエイティブスタイル機能を使う

本機には、撮影シーンや用途に最適な画像スタイルがあらかじめ設定されており、それらを選ぶだけで適切な色調整や画像仕上げが行われます。

画像スタイルの種類は、入れ換えることができない「スタンダード」、「ビビッド」、「ニュートラル」、「AdobeRGB」と、お好みの画像スタイルを割り当てることができるスタイルボックスが3つ用意されています。
お買い上げ時の設定では、スタイルボックスに「ポートレート」、「風景」、「白黒」が割り当てられています。
このスタイルボックスのまま使う方法→「基本的な使いかた」（65ページ）

「各画像スタイルの特徴」（65ページ）からお好みの画像スタイルを選び、スタイルボックスに割り当てて使う方法→「応用的な使いかた」（67ページ）

• シーンセレクション選択時はクリエイティブスタイルは設定できません。

また、画像スタイルごとに、コントラストなどの調整が可能です。入れ換えができない画像スタイルと入れ換えができる画像スタイルでは、調整できる項目が異なります。

調整可能な項目

項目	コントラスト	彩度	シャープネス	明度	ゾーン選択
入れ換えができない画像スタイル	−3 〜 +3	−3 〜 +3	−3 〜 +3	調整不可	調整不可
入れ換えができる画像スタイル	−3 〜 +3	−3 〜 +3*	−3 〜 +3	−3 〜 +3	−1 〜 +2

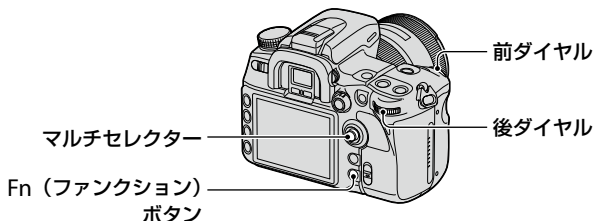
* 「白黒」、「セピア」選択時は、彩度の調整はできません。

• これらの調整は必ずしも必要ではありません。これらの調整値は画像スタイルごとに（同じ画像スタイルが複数ある場合は各1つずつに）設定されます。
• コントラスト、彩度、シャープネスをとりあえず調整したい場合は、「スタンダード」を選んで調整してください。

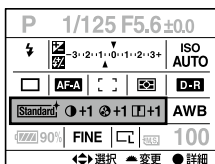
各画像スタイルの特徴

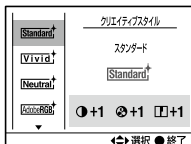
（✓：お買い上げ時の設定）

✓	Standard（スタンダード）	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現します。
	Vivid（ビビッド）	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現します。
	Neutral（ニュートラル）	彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表現します。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適しています。
	AdobeRGB（AdobeRGB）	Adobe RGB色空間になります。
	Clear（クリア）	ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気に表現します。光の煌めき感などの表現に適しています。
	Deep（ディープ）	濃く深みのある色再現にします。重厚感、存在感など、重みのある表現に適しています。
	Light（ライト）	明るく、すっきりとした色再現にします。爽快感、軽快感など明るい雰囲気の表現に適しています。
	Portrait（ポートレート）	肌をより柔らかに再現します。人物の撮影に適しています。
	Landscape（風景）	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現します。遠くの風景もよりくっきりします。
	Sunset（夕景）	夕焼けの赤さを美しく表現します。
	Night（夜景）	コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現します。
	Autumn（紅葉）	紅葉の赤・黄をより鮮やかに表現します。
	B/W（白黒）	白黒のモノトーンで表現します。
	Sepia（セピア）	セピア色のモノトーンで表現します。

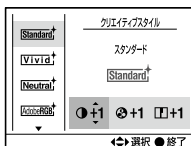
基本的な使いかた

撮影機能の説明

① Fn（ファンクション）ボタンを押して、クイックナビ画面を表示する（27ページ）。
- 拡大画面（20ページ）にしているときは、クイックナビ画面は使えません。メニューから設定してください。

② マルチセレクターでクリエイティブスタイルの項目を選ぶ。

- コントラストなどの調整をしない場合は、前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、この画面から設定することができます。

③ 中央を押して、クリエイティブスタイルの専用画面を表示する。

- 撮影メニューからこの画面を選ぶこともできます（94ページ）。

④ ▲/▼で希望の画像スタイルを選ぶ。
- お買い上げ時の設定では、「スタンダード」、「ビビッド」、「ニュートラル」、「AdobeRGB」、「ポートレート」、「風景」、「白黒」が選べます。他の画像スタイルを選ぶときは、「応用的な使いかた」（次ページ）をご覧ください。

⑤ （コントラスト）、（彩度）、（シャープネス）の調整をする場合は、◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で数値を選ぶ。

⑥ 設定が終わったら、マルチセレクターの中央を押す。

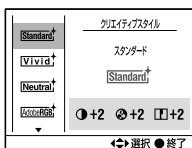
応用的な使いかた

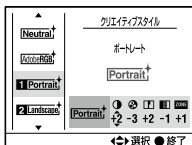
「基本的な使いかた」で説明した7つの画像スタイルのうち、後半の3つはスタイルボックス1 ～ 3となっており、入れ換えが可能です。

例：入れ換え可能なスタイルボックスに、「スタンダード」と「風景」を2つ割り当てた場合

入れ換え不可	**スタンダード**	彩度、コントラスト、シャープネスの調整が可能。
	ビビッド	
	ニュートラル	
	AdobeRGB	
入れ換え可能	**スタンダード**	彩度、コントラスト、シャープネスの他に明度、ゾーン設定の調整が可能。 また、同じ「風景」でも、それぞれ異なる調整値を設定できる。
	風景	
	風景	

スタイルボックスの画像スタイルを入れ換えるには

① クリエイティブスタイルの専用画面を表示する（66ページ① ～ ③）。

② マルチセレクターの▲/▼で、入れ換え可能なスタイルボックスを選ぶ。

③ ▶でカーソルを右側に移動し、▲/▼で希望の画像スタイルを選ぶ。

④ ◑（コントラスト）、（彩度）、（シャープネス）、（明度）、ZONE（ゾーン設定）の調整をする場合は、◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で数値を選ぶ。

⑤ 設定が終わったら、マルチセレクターの中央を押す。

ゾーン設定について

入れ換え可能なスタイルボックスの画像スタイルでは、ゾーン設定が可能です。
ゾーン設定を行うと、白とびや黒つぶれを和らげることができます。RAW画像でも有効です。

−1	低輝度域の多い被写体で黒つぶれを和らげる。白とびが起こりやすいので、高輝度域の少ない場面での使用をおすすめします。
0	ゾーン設定は行わない。
＋1 〜＋2	高輝度域の多い被写体で白とびを和らげる。低輝度域ではノイズが増幅することがあるので、低輝度域の少ない場面での使用をおすすめします。

- ゾーン設定を0以外にしているときは、コントラストの調整はできません。
- 内蔵フラッシュ使用時の撮影距離は、下記の表を目安にしてください。

（ISO 100時）

絞り値	ゾーン設定		
	−1	＋1	＋2
F2.8	1.7〜10 m	2.4〜14 m	2.8〜17 m
F4	1.2〜7 m	1.7〜10 m	2〜12 m
F5.6	1〜5 m	1.2〜7 m	1.4〜8.6 m

Adobe RGBについて

デジタルカメラの標準となっているsRGB色空間に対し、Adobe RGB色空間はより広い色再現範囲を持っています。プリントを主目的とする撮影、特に鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果があります。

- 撮影した画像のファイル名は、”_DSC”で始まります。

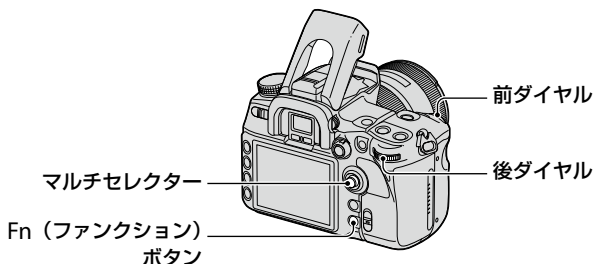
Adobe RGBカラーマッチングについて

Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB非対応機器や本機の後面の液晶モニターで表示した場合、低彩度な画像になります。
Adobe RGBで撮影した画像の編集やプリントには、カラーマネジメントに対応し、DCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンターをご利用ください。
カラーマネジメント非対応のソフト、プリンターでは、正しい色で表示やプリントができないことがあります。

フラッシュ撮影

フラッシュを使ったさまざまな機能を説明します。

フラッシュモードを選ぶ

オート撮影時またはシーンセレクション時は内蔵フラッシュを上げると、光量が足りないと判断した場合に自動で発光しますが、フラッシュモードを意図的に変えて撮影することができます。

① Fn（ファンクション）ボタンを押して、クイックナビ画面を表示する（27ページ）。

- 拡大画面（20ページ）にしているときは、クイックナビ画面は使えません。メニューから設定してください。

② マルチセレクターでフラッシュの項目を選ぶ。

③ 前ダイヤルまたは後ダイヤルで希望のモードを選ぶ。

- 撮影情報画面のフラッシュ表示は、フラッシュが上がっているときのみ現れます。
- 手順②でフラッシュの項目を選んだあとにマルチセレクターの中央を押すと、専用画面になります。この場合、マルチセレクターの▲/▼で希望のモードを選び、中央を押します。
- 撮影メニューからもフラッシュモードを選ぶことができます（96ページ）。

（✓：お買い上げ時の設定）

✓	AUTO（自動発光）	光量不足/逆光と判断したとき発光する。 ・モードダイヤルが「P」、「A」、「S」、「M」のときは選べません。
	⚡（強制発光）	内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光する。
	REAR（後幕シンクロ）	通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、そのあとにフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。そのため、光の流れなどが不自然に写ることがあります。 後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッタースピードで撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。
	WL（ワイヤレス）	外部フラッシュ（別売）を本機の上に取り付けて撮影すると、平面的な写真になることがあります。このような場合にフラッシュを本機から取りはずして離して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます。 本機ではカメラとフラッシュの信号の伝達をフラッシュ光で行うことにより、コードなしでもこのような撮影が可能です（ワイヤレスフラッシュ撮影）。 ・ワイヤレスフラッシュ撮影には、フラッシュ（別売）HVL-F56AM、HVL-F36AMのいずれかが必要です。

ワイヤレスフラッシュ撮影を行うには

① 外部フラッシュを本機に取り付け（165ページ）、本機とフラッシュの電源を入れる。

② フラッシュモードの WL（ワイヤレス）を選ぶ。

③ フラッシュを本機から取りはずし、本機の内蔵フラッシュを上げる。
ファインダーと液晶モニターに「WL」が表示されます。

④ カメラとフラッシュの位置を決める。

⑤ 本機の内蔵フラッシュとフラッシュの充電完了を確認する。

- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の ⚡ が点灯すれば充電完了です。
- フラッシュは、後面の ⚡ が点灯して前面の赤いランプが点滅すれば充電完了です。

⑥ 本機のAEL（AEロック）ボタンを押して、フラッシュが発光することを確認する（テスト発光）。

・発光しない場合は、本機とフラッシュ、被写体の配置場所を変えてください。

⑦ もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影する。

- ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。（カメラとフラッシュを別々に解除する、フラッシュを本機に取り付けてワイヤレス以外に設定する（69ページ）のどちらの方法でも可能。）ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影しても、適正露出は得られません。
- フラッシュとカメラを別々にワイヤレス設定することもできます。カメラは69ページの方法で、フラッシュはフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

AEL（AEロック）ボタンの機能と操作を変更している場合

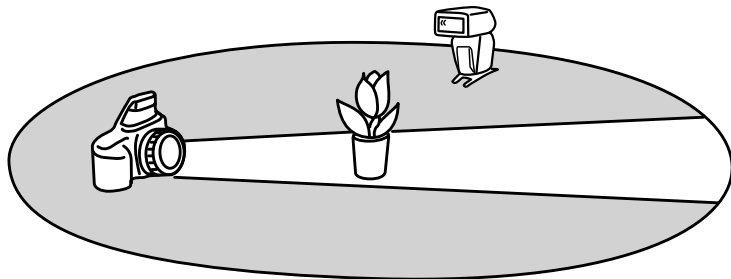
ワイヤレスフラッシュご使用の際には、✿ カスタムメニューの[AELボタン]（104ページ）を、[押す間AEL]または[押す間スポットAEL]に設定しておくことをおすすめします。

ボタンから指を離してもその機能が残る設定（再押しAEL/再押しスポットAEL）の場合、ファインダーと液晶モニターに「AEL」が点灯している間は、スローシンクロ撮影になります。またテスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り換わります。

カメラとフラッシュの位置について

本機は内蔵フラッシュの発光を信号として、本機から離したフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう、以下の点に気をつけてください。

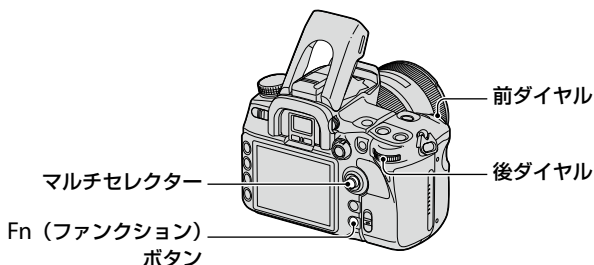
- 室内など暗いところで撮影してください。
- 以下の図のように、半径5 m以内の灰色の部分にカメラとフラッシュを設置することをおすすめします。距離情報については、フラッシュの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 被写体の真後ろにフラッシュを置かないでください。

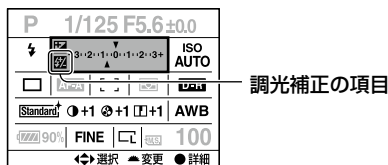
撮影機能の説明

ワイヤレスフラッシュのチャンネルについて
撮影会などで近くに別にワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいて、その人の内蔵フラッシュの信号光でお使いのフラッシュが発光してしまうような場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。

チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

調光補正する

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を変えることができます。

① Fn(ファンクション)ボタンを押して、クイックナビ画面を表示する(27ページ)。

② マルチセレクターで調光補正の項目を選ぶ。

③ 前ダイヤルまたは後ダイヤルで希望の補正値を選ぶ。

- 手順②で調光補正の項目を選んだあとにマルチセレクターの中央を押すと、専用画面になります。この場合、マルチセレクターの◀/▶で希望の補正値を選び、中央を押します。
- 撮影メニューからも専用画面を選ぶことができます（97ページ）。
- ±3.0の範囲で、1/3段ごとに設定できます。撮影メニューの［露出値ステップ幅］で、1/2段ごとにすることもできます（95ページ）。
- 内蔵フラッシュを上げると、設定した調光補正値が液晶モニターに表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に が表示されます。
- 内蔵フラッシュで調光補正を行う場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側（＋側）の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側（－側）の効果が出ないことがあります。

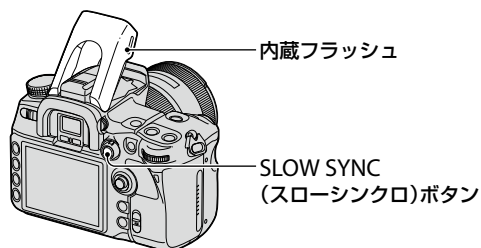
露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度（AUTOの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、フラッシュの発光量も同時に変化*します。

一方、調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えば、フラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使いかたができます。

* カスタムメニューの［露出補正の影響］で、露出補正をかけてもフラッシュの発光量を変化させないようにすることもできます（108ページ）。

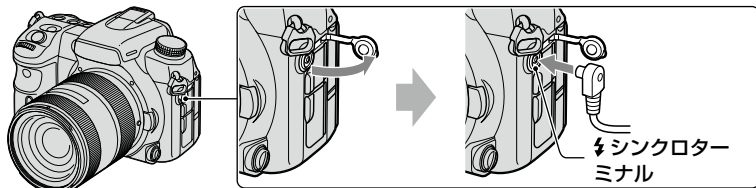
スローシンクロ撮影する(夜景を背景にしたフラッシュ撮影)

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写りますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影(シャッタースピードの遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

① 内蔵フラッシュを上げる。

② SLOW SYNC (スローシンクロ)ボタンを押しながら撮影する。
ファインダー内と液晶モニターの ✱ が点灯し、露出値がロック(固定)されていることをお知らせします。

- シャッタースピードが遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
- シャッタースピード優先/マニュアルモードでは、SLOW SYNC (スローシンクロ)ボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
- ✿ カスタムメニューの[AELボタン]で、SLOW SYNC (スローシンクロ)ボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように(押し続けなくてもいいように)することもできます(104ページ)。

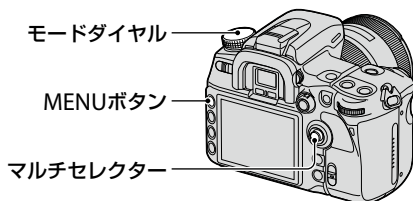
シンクロターミナルを使う

シンクロコード付きフラッシュを使うことができます。

シンクロターミナルのカバーを開け、コードを差し込む。

- 撮影モードはマニュアルモードで、シャッタースピードは1/200秒（手ブレ補正オン時）/1/250秒（手ブレ補正オフ時）またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。
- シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロコードを シンクロターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をオフにしてください。オンにしていると、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュは、常にフル発光になります。フラッシュ調光補正（72ページ）はできません。ブラケット撮影は、AEL（AEロック）ボタンを押しながら撮影（絞り値が変化する、43ページ）すれば可能です。
- オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るために、カスタムホワイトバランスをお使いください。
- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。

その他

お好みの設定を登録する

よく使うモードや数値などの組み合わせを本機に登録しておき、モードダイヤルを「MR」にするだけで簡単に呼び出すことができます。

登録するには

① 本機を登録したい設定にする。登録される項目は次ページをご覧ください。

・登録される項目は、専用のボタンやレバーのある機能と撮影メニューすべてです。一部だけの登録はできません。

② MENUボタンを押し、メニュー画面を表示する。

③ マルチセレクターで、（撮影メニュー）→［4］→［登録］の順に選ぶ（29ページ）。

④ マルチセレクターの中央を押し、登録画面を表示する。
①で設定した登録情報（現在の本機の設定）が表示される。

⑤ ◄/►で登録したい番号を選び、中央を押す。

・3つまで登録できます。

・登録したあとも、何度でも変更可能です。

登録できる項目　（　）はページ数

画像撮影モード[1]（31）	ドライブモード（52）	ISO（61）
ホワイトバランス[2]（58）	露出補正（42）	測光モード（45）
フォーカスモード（49）	画像サイズ（91）	縦横比（92）
画質（93）	Dレンジオプティマイザー（62）	クリエイティブスタイル[3]（64）
カスタムボタンの機能（78）	露出値ステップ幅（95）	フラッシュモード（69）
調光モード（96）	発光レベル（97）	調光補正（72）
ISO　AUTO上限（97）	ISO　AUTO下限（97）	AF-Aの機能（98）
フォーカスエリア（46）	フォーカスエリア位置（47）	フォーカス/レリーズ優先（99）
AF補助光（51）	シャッター半押しAF（99）	長秒時ノイズリダクション（100）
高感度ノイズリダクション（100）		

[1] モードダイヤルが「A」のときは絞り値が、「S」のときはシャッタースピードが、「M」のときは絞り値とシャッタースピードが同時に登録されます。プログラムシフトとマニュアルシフトは登録できません。

[2] カスタムホワイトバランスは、番号とその設定値が登録されます。

[3] コントラスト、彩度、シャープネス、明度、ゾーン設定値も合わせて登録されます。

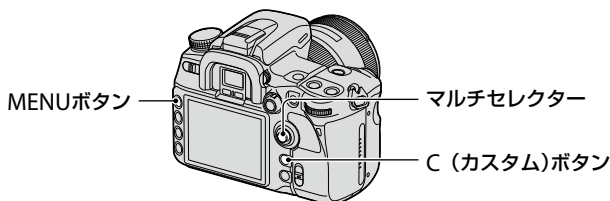
登録を呼び出すには

① モードダイヤルを「MR」にして、登録呼び出し画面を表示する。

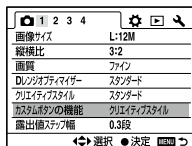
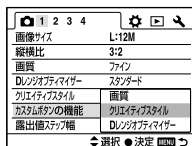
② マルチセレクターの◀/▶で呼び出したい番号を選び、中央を押す。

- 登録を呼び出すと、一部の機能については、本機のダイヤルやレバーの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しなくなります。液晶モニターの情報を元に撮影してください。
- 登録を呼び出したあとで、その設定を変更することもできます。新しい設定は、「登録するには」の手順で登録できます。

C (カスタム)ボタンを使う

C (カスタム)ボタンを、お好みの機能のボタンとして使うことができます。ボタンを押すと、その機能の設定画面がすぐに表示されます。
お買い上げ時の設定ではクリエイティブスタイル(64ページ)が設定されています。

機能を割り当てるには

① MENUボタンを押し、メニュー画面を表示する。

② マルチセレクターで、 (撮影メニュー) → [1] → [カスタムボタンの機能]の順に選ぶ(29ページ)。

③ マルチセレクターの中央を押す。

④ ▲/▼で割り当てたい項目を選び、中央を押す。

（✓：お買い上げ時の設定）

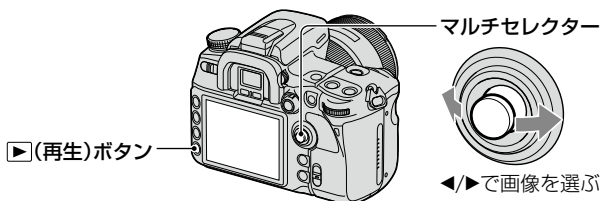
	AFロック	AFロックボタンとして機能（102ページ）。
	AF/MFコントロール	AF/MFボタンとして機能（50ページ）。
	プレビュー	プレビュー（絞り込み）ボタンとして機能（36ページ）。
	ISO感度	ISOボタンとして機能（61ページ）。
	ホワイトバランス	WBボタンとして機能（58ページ）。
	露出補正	露出補正ボタンとして機能（42ページ）。
	調光補正	調光補正設定専用画面を表示（72ページ）。
	ドライブモード	DRIVEボタンとして機能（52ページ）。
	フォーカスエリア	フォーカスエリア設定専用画面を表示（46ページ）。
	画像サイズ	画像サイズ設定専用画面を表示（91ページ）。
	画質	画質設定専用画面を表示（93ページ）。
✓	**クリエイティブスタイル**	クリエイティブスタイル設定専用画面を表示（64ページ）。
	Dレンジオプティマイザー	Dレンジオプティマイザー設定専用画面を表示（62ページ）。
	フラッシュモード	フラッシュモード設定専用画面を表示（69ページ）。
	登録	登録設定専用画面を表示（76ページ）。

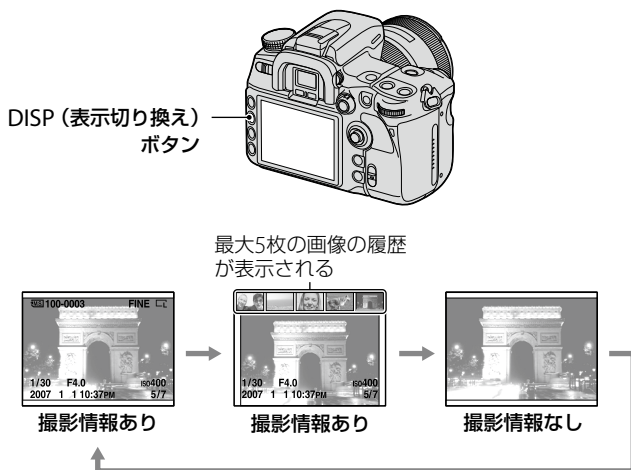
割り当てた機能を呼び出すには

C（カスタム）ボタンを押す。

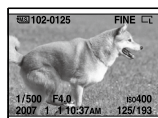
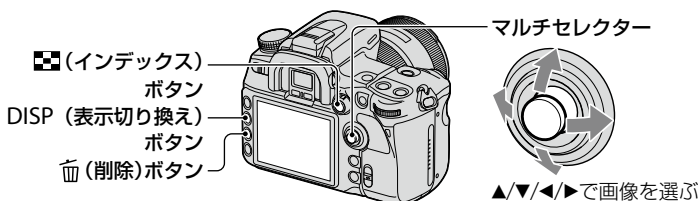
割り当てた機能が実行、または専用画面が表示されます。

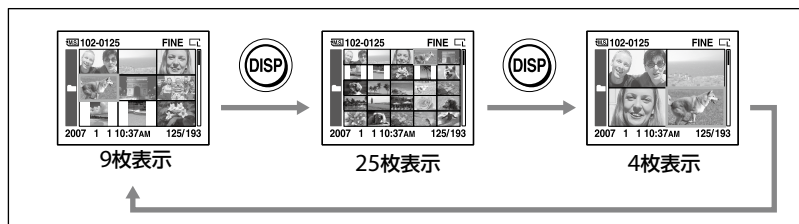
再生する

▶（再生）ボタンを押すと、再生モードになり、液晶モニターに画像が表示されます。

再生画面を切り換える

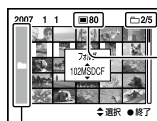
再生中は、DISP（表示切り換え）ボタンを押すたびに、下記のように再生画面が切り換わります。

・DISP（表示切り換え）ボタンは、拡大再生したときなど、他の再生モードのときも撮影情報の有無を切り換えます。

インデックス（一覧表示）画面にする

（インデックス）ボタンを押すと、インデックス画面に切り換わります。
DISP（表示切り換え）ボタンを押すたびに、下記のように画面が切り換わります。

（インデックス）

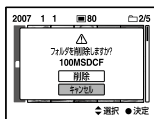
（インデックス）または、マルチセレクターの中央を押す

後ダイヤルを回すと、1画面ずつ移動します。すばやく次の画面に移動させたいときに便利です。

フォルダを選ぶには

① マルチセレクターの◀/▶でフォルダバーを選び、中央を押す。

② ▲/▼で希望のフォルダを選び、中央を押す。

フォルダごと画像を削除するには

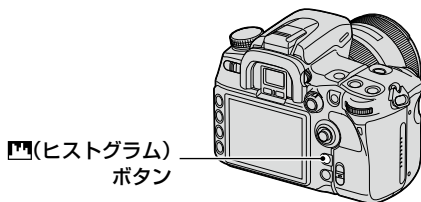
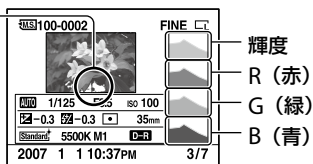
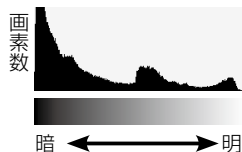
① マルチセレクターの▲/▼で削除したいフォルダのフォルダバーを選ぶ。

② 🗑(削除)ボタンを押す。

③ ▲で[削除]を選び、中央を押す。

- 🔧 セットアップメニューの[削除確認画面]で[削除]を先に選択するように変更できます(123ページ)。
- 画像を選択して削除するときは、112ページをご覧ください。

- 一度削除した画像は元に戻せません。
- プロテクトされている画像は削除できません。

ヒストグラム(輝度分布)を表示する

(ヒストグラム)ボタンを押すと、画像のヒストグラム(輝度分布)と撮影データが表示されます。再度 (ヒストグラム)ボタンを押すと、元に戻ります。

画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します(白とび黒つぶれ警告)。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。本機のヒストグラム表示は、輝度とRGB別に4つあり、それぞれ横軸が明るさ（左端が暗、右端が明）、縦軸が画素数を表します。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその輝度ヒストグラムの一例です。

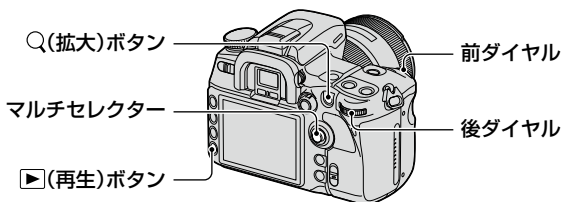
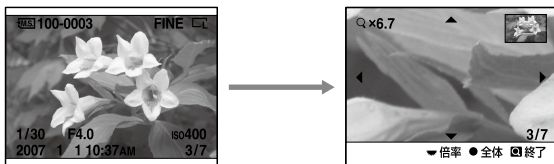
＋側に露出補正をかける

画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

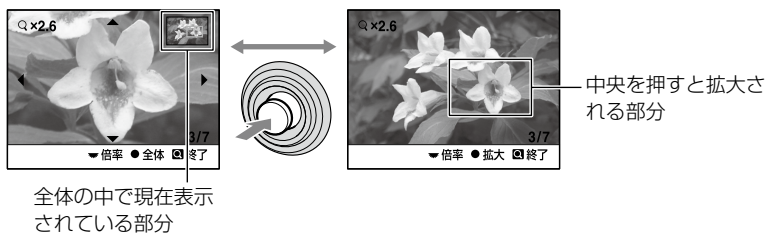
ヒストグラムの左右両端には、黒または白100%のデータ*しか存在しません。ヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

* 正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

画像を拡大する

画像再生中に、画像の一部を拡大できます。

① 拡大したい画像を表示して、Q（拡大）ボタンを押す。
画面中央部分が拡大される。

② 後ダイヤルで、拡大倍率を変更する。

③ マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で、拡大する場所を選ぶ。

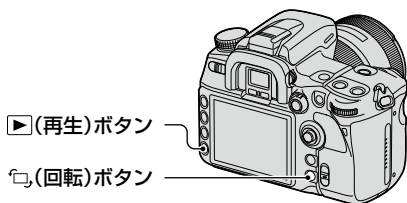
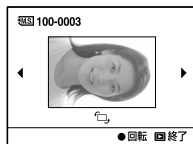
・ マルチセレクターの中央を押すたびに、拡大再生画面と全体表示画面が交互に表示されます。

・ 前ダイヤルを回すと、画像の選択ができます。

④ Q（拡大）ボタン、または▶（再生）ボタンを押すと、拡大再生を終了し拡大前の画像に戻る。

拡大倍率範囲は下記の通りです。

画像サイズ	拡大倍率範囲
L	約1.1～13倍
M	約1.1～10倍
S	約1.1～6.7倍

画像を回転する

お買い上げ時の設定では縦位置で撮影した画像は自動的に縦向きに再生されますが、必要に応じて以下の方法で回転させることができます。

① 回転したい画像を表示して、(回転)ボタンを押す。
回転可能画面になる。

② マルチセレクターを押して希望の向きにする。

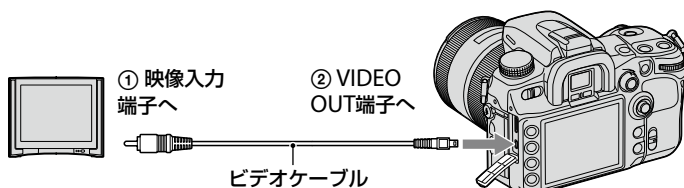
③ ▶ (再生)ボタンまたは(回転)ボタンを押し、通常再生画面に戻る。

- 回転した画像は、本機の電源を切ったあとも、回転された状態のまま保持されます。
- パソコンに取り込んだ画像は、CD-ROM(付属)内の「Picture Motion Browser」では、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

再生機能の説明

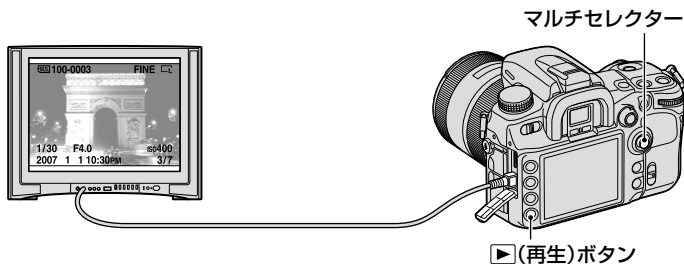
テレビで見る

本機とテレビをつないで、撮影した画像をテレビで見ることができます。
本機とテレビの電源を切った状態で接続してください。

1 本機とテレビを接続する。

2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

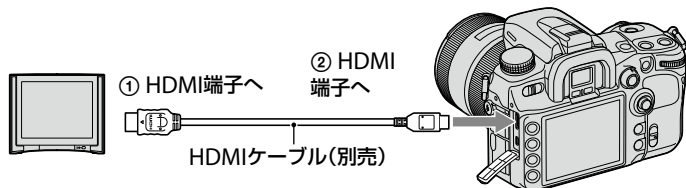
- テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

3 本機の電源を入れ、▶（再生）ボタンを押す。

撮影した画像がテレビに表示される。
マルチセレクターの◀/▶で画像を選ぶ。

- 海外で見るときは［ビデオ出力］の切り換えが必要な場合があります（119ページ）。

- 本機後面の液晶モニターは点灯しません。
- この接続でテレビに映る画像は、HDMI接続したテレビやパソコンの画像と比べると、システムの違いにより低画質になります。

HDMI端子のあるハイビジョンテレビをお使いの場合

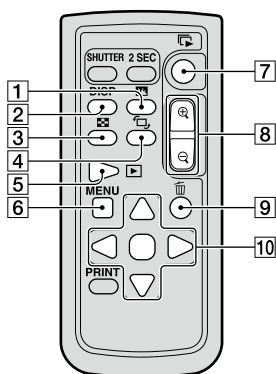
HDMI端子のあるハイビジョンテレビをお使いの場合は、HDMIケーブル（別売）で接続すると、より高画質な映像が楽しめます。

① 本機とテレビをHDMIケーブルで接続する。

② テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

③ 本機の電源を入れる。
自動的に再生モードになる。

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIミニ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- 本機をビデオ-Aモードに対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続すると、テレビが静止画に適した画質に自動的に設定されます。詳しくは、対応テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 一部の機器では正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。
- 🔧 セットアップメニューの[HDMI出力]で、出力信号の種類を変更することもできます（119ページ）。

リモコンを使って操作する

本機とテレビを接続して再生モードにすると、自動的にリモコンでの再生が可能となります。
リモコンのボタンのほとんどは、カメラのボタンと同じ動きをします。

	リモコンのボタン	参照ページ
1	(ヒストグラム)	82
2	DISP（表示切り換え）	80
3	（インデックス）	81
4	（回転）	85
5	（再生）	80
6	MENU	29
7	（スライドショー）	117
8	⊕/⊖（拡大/縮小）	83
9	（削除）	→*別冊「はじめに」手順6*
10	▲▼◀▶●（マルチセレクター）	26

- その他のボタンは、撮影時、またはPictBridgeプリンターと接続したときに使います（57、147ページ）。

スライドショーについて

リモコンの（スライドショー）ボタンを使うと、スライドショーの開始/終了が簡単にできます（117ページ）。スライドショー再生中は、リモコンで以下の操作が可能です。

- ◀▶で画像を戻す/送る
- ●で一時停止/再生開始

メニュー一覧

操作方法については、29ページをご覧ください。

撮影メニュー（91ページ～ 101ページ）

1	2
画像サイズ 縦横比 画質 Dレンジオプティマイザー クリエイティブスタイル カスタムボタンの機能 露出値ステップ幅	フラッシュモード 調光モード • 発光レベル 調光補正 ISO AUTO 上限 ISO AUTO 下限
3	4
AF-Aの機能 フォーカスエリア フォーカス/レリーズ優先 AF補助光 シャッター半押しAF 長秒時ノイズリダクション 高感度ノイズリダクション	登録 撮影モードリセット

カスタムメニュー（102ページ～ 111ページ）

1	2
アイスタートAF アイスタートAFの作動 AF/MFボタンの機能 AF/MFコントロール AF駆動速度 フォーカスエリア点灯 フォーカスホールドボタン	AELボタン 前後ダイヤルの設定 ダイヤル露出補正 ダイヤルロック 設定ボタンの操作 カードなし時のレリーズ レンズなし時のレリーズ
3	4
赤目軽減発光 露出補正の影響 ブラケット順序 オートレビュー 接眼時自動消灯 撮影情報画面 撮影構図の縦横	カスタム設定リセット

操作方法は29ページ

▶ 再生メニュー（112ページ～ 117ページ）

▶ 1	▶ 2
削除 フォーマット プロテクト DPOF指定 • 日付プリント • インデックスプリント 縦記録画像の再生	スライドショー • 間隔設定

セットアップメニュー（118ページ～ 125ページ）

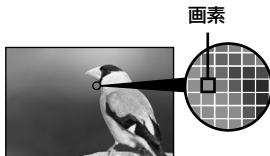
1	2	3
モニター明るさ 情報表示時間 パワーセーブ ビデオ出力 HDMI出力 日時設定	メモリーカード切り換え ファイルナンバー フォルダ形式 フォルダ選択 • 新規作成 USB接続 • マスストレージ時のカード	メニュー呼び出し先 削除確認画面 電子音 クリーニングモード 設定値リセット

撮影メニュー 1

操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

画像サイズ

デジタル写真は「画素(ピクセル)」という小さな点が集まって作られています。「画像サイズ」とはこの画素数を指し、本機の画面では違いはわかりませんが、プリントしたりパソコン画面で見たときに写真の詳細さやデータ処理時間に影響します。

画素数が多い
(細密で、データ量が多い)

画素数が少ない
(粗いが、データ量が少ない)

① 画像サイズ：L
② 画像サイズ：S

[縦横比]が3：2のとき

✓	L：12M	4272×2848画素の集合
	M：6.4M	3104×2064画素の集合
	S：3.0M	2128×1424画素の集合

[縦横比]が16：9のとき

✓	L：10M	4272×2400画素の集合
	M：5.4M	3104×1744画素の集合
	S：2.6M	2128×1200画素の集合

- [画質]でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。液晶モニターには表示されません。
- Fn(ファンクション)ボタンでも操作できます(27ページ)。

操作方法は29ページ

用途に合わせてサイズを選ぶ

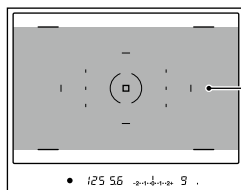
どの画像サイズにするか、下記を参照してください。

画像サイズ		用途の例	撮影可能枚数	プリント時
L	大きい	大切な画像を保存したり、A3/A3ノビ*サイズへの引き伸ばしやA4サイズ高精細プリントする場合	少ない	精細
M	↕	A4サイズプリントやA5サイズ高精細プリントする場合	↕	↕
S	小さい	より多くの画像を撮影する場合 ホームページ作成用の場合	多い	粗い

* A3よりもひと回り大きいサイズです。A3サイズに余白をつけて印刷することができます。

縦横比

目的に応じて、縦横比を選びます。

✓	3：2	通常の縦横比率。
	16：9	ハイビジョンテレビ比率。ハイビジョンテレビで見るときは、16：9をおすすめします。

16：9を選んだときは、この領域内で構図を決めてください。

- 16：9で撮影したRAW画像は、CD-ROM（付属）内の「Image Data Converter SR」などの対応ソフトウェアでは16：9で表示されますが、対応していないと3：2で表示されます。

画質

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとデータ量が多くなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。

<table>
<tr><td></td><td>RAW（RAW）</td><td colspan="2" rowspan="2">ファイル形式：RAW（生データ）
より専門的な用途に合わせてパソコンで加工を行うための素材となる形式です。CD-ROM（付属）内の「Image Data Converter SR」で開くことができます（139ページ）。cRAWの「c」は、compressed（圧縮された）を表します。
・画像サイズは常に最大サイズで固定されます。液晶モニターには画像サイズは表示されません。</td></tr>
<tr><td></td><td>cRAW*（cRAW）</td></tr>
<tr><td></td><td>RAW+JPEG（RAW+J）</td><td colspan="2" rowspan="2">ファイル形式：RAW（生データ）＋JPEG
上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録されます。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利です。JPEG画像の画質は［ファイン］に固定されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>cRAW+JPEG*（cRAW+J）</td></tr>
<tr><td></td><td>エクストラファイン（X.FINE）</td><td rowspan="3">ファイル形式：JPEG
画像がJPEG形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどデータ量は少なくなり、1枚のメモリーカードに記録できる枚数が増えますが、画質は劣化します。
いったん劣化した画質を撮影後にパソコンなどで復元することはできませんので、あとで画像の加工や編集を行う場合、画質設定は慎重に行ってください。</td><td rowspan="3">圧縮率
小
↕
大</td></tr>
<tr><td>✓</td><td>ファイン（FINE）</td></tr>
<tr><td></td><td>スタンダード（STD）</td></tr>
</table>

* 圧縮しないときに比べて、約60% ～ 70%にデータを圧縮します。記録可能枚数を増やしたいときに使います

- Fn（ファンクション）ボタンでも操作できます（27ページ）。
- 画質を変更した場合の撮影枚数については、21ページをご覧ください。

操作方法は29ページ

RAWについて

RAWファイルとは、デジタル処理などの加工をしていない形式のファイルです。これはJPEGのような一般的なファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行うための素材となる形式です。

本機で撮影したRAW画像を開くにはCD-ROM（付属）の「Image Data Converter SR」が必要です。このソフトウェアを使えば、RAWファイルを開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。

- RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。
  - DPOF（プリント）指定やPictBridge対応プリンターでの印刷はできません。
  - RAW画像にはJPEGなどで行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生やオートレビュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。
- RAWまたはcRAWで撮影した画像を拡大再生すると、「スタンダード」以外のDレンジオプティマイザー効果は確認できません。

Dレンジオプティマイザー

撮影シーンを分析し、自動補正を行って画質を向上させます。

切（D OFF）	詳しくは62ページをご覧ください。
スタンダード（D-R）	
アドバンスオート（D-R+）	
アドバンスレベル設定（D-R+）Lv 1～Lv 5	

クリエイティブスタイル

撮影シーンや用途に最適な画像スタイルを選びます。

✓	**スタンダード（Standard）**	詳しくは64ページをご覧ください。
	ビビッド（Vivid）	
	ニュートラル（Neutral）	
	Adobe RGB（AdobeRGB）	
	1	
	2	
	3	

カスタムボタンの機能

C（カスタム）ボタンに、お好みの機能を登録します。

	AFロック	詳しくは78ページをご覧ください。
	AF/MFコントロール	
	プレビュー	
	ISO感度	
	ホワイトバランス	
	露出補正	
	調光補正	
	ドライブモード	
	フォーカスエリア	
	画像サイズ	
	画質	
✓	クリエイティブスタイル	
	Dレンジオプティマイザー	
	フラッシュモード	
	登録	

露出値ステップ幅

シャッタースピード、絞り値、露出補正値のステップ幅を0.5段、0.3段から選びます。

	0.5段	1/2Evステップで変わる。
✓	0.3段	1/3Evステップで変わる。

撮影メニュー2

操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

フラッシュモード

フラッシュモードを設定します。

✓	**自動発光（AUTO）**	詳しくは69ページをご覧ください。
	強制発光（⚡）	
	後幕シンクロ（REAR）	
	ワイヤレス（WL）	

調光モード

フラッシュの発光量を決めるために調光モードを選びます。

✓	**ADI調光**	撮影の直前にフラッシュを一度発光（プリ発光）させ、反射してきた光の量と距離情報を合わせて調光する。被写体の反射率にはほとんど影響されない正確な調光が可能。
	P-TTL調光	撮影の直前にフラッシュを一度発光（プリ発光）させ、反射してきた光の量のみを測る。被写体までの距離情報は加味されない。
	内蔵マニュアル	内蔵フラッシュが被写体の明るさに関係なく、常に一定の発光量で調光する。自動発光時は選べません。

ADI：Advanced Distance Integrationの略

P-TTL：Pre-flash, Through the lensの略

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（外部フラッシュ（別売）でワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。
- 以下の場合はADI調光だと正確な距離情報が得られませんので、[P-TTL調光]に設定してください。
  - フラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
  - ディフューザー（拡散板）を使ってフラッシュ撮影した場合
  - 露出倍数のかかるフィルター（NDなど）使用時
  - クローズアップレンズ使用時
- ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。

発光レベル

[調光モード]を[内蔵マニュアル]に設定したときの、発光量を選びます。

✓	1/1	ガイドナンバー　約12
	1/2	ガイドナンバー　約8.4
	1/4	ガイドナンバー　約6
	1/8	ガイドナンバー　約4.2
	1/16	ガイドナンバー　約3

• ISO 100, m時

調光補正

詳しくは72ページをご覧ください。

ISO AUTO 上限

モードダイヤルが「P」、「A」、「S」でISO感度が[AUTO]のときの上限値を設定します。

	1600	設定した値を上限にして自動調整する。
✓	800	
	400	

ISO AUTO 下限

モードダイヤルが「P」、「A」、「S」でISO感度が[AUTO]のときの下限値を設定します。

	400	設定した値を下限にして自動調整する。
✓	200	

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

AF-Aの機能

フォーカスモードレバーの「A」は、お買い上げ時の設定ではAF-A（AF制御自動切り換え）（49ページ）になっていますが、これをDMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）の機能に変更することができます。

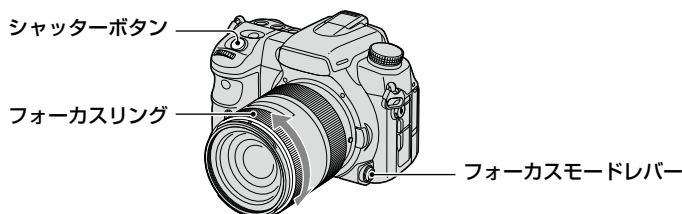
✓	AF-A（AF-A）	AF制御自動切り換えにする。
	DMF（DMF）	ダイレクトマニュアルフォーカスにする。オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動でピントの微調整ができます。

DMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）のピントを微調整するには

① [DMF]に設定する。

② フォーカスモードレバーを「A」にする。

③ シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

④ シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。

⑤ シャッターボタンを押し込んで撮影する。

• シャッターボタンから指を離すと、次に半押ししたときに再度ピント合わせが行われます。

フォーカスエリア

フォーカスエリアを選びます。

✓	ワイド（[ ]）	詳しくは46ページをご覧ください。
	中央に固定（[·]）	
	ローカル（[⁘]）	

☞操作方法は29ページ

フォーカス/レリーズ優先

シャッターレリーズの設定をします。

✓	**フォーカス優先**	ピントが合わなければシャッターを切ることができない。
	レリーズ優先	ピントが合わなくてもシャッターを切ることができる。シャッターチャンスを優先する場合は、こちらを選んでください。

AF補助光

AF補助光を発光させるかどうかを設定します。
AF補助光について詳しくは、51ページをご覧ください。

✓	**オート**	AF補助光が必要なとき、自動的に発光する。
	切	AF補助光を発光しない。

• [AF補助光]を[切]にすると、外部フラッシュ（別売）のAF補助光も発光しません。

シャッター半押しAF

お買い上げ時の設定ではシャッターボタンを半押ししてピントを合わせますが、それを解除することができます。

✓	**入**	半押しするとピント合わせをする。
	切	半押ししても、ピント合わせをしない。

• [切]にした場合は、マルチセレクターの中央を押してピントを合わせてください。ピントが合っていなくてもシャッターは切れます。同じピント位置で撮影を続ける場合に便利です。AF/MFボタンをAFロックにしたり、C（カスタム）ボタンにAFロックを割り当ててもピントを合わせることができます。

☞操作方法は29ページ

長秒時ノイズリダクション

長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。シャッタースピードが1秒以上の場合は、長秒時ノイズリダクションが機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズなどを低減させます。

✓	**入**	1秒以上の撮影を行うと、シャッターが開いていた時間分だけノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われる。この間、液晶モニターには「ノイズリダクション実行中」というメッセージが現れます。終了するまで次の撮影はできません。
	切	ノイズ軽減処理を行わない。撮影のタイミングを優先させたい場合に便利ですが、ノイズが目立ちやすくなるので、長時間露光時にはノイズリダクション[入]をおすすめします。

- 連続撮影および連続ブラケット撮影時は、[入]にしていてもノイズリダクションは行われません。

高感度ノイズリダクション

高感度撮影時にはノイズが目立ちやすくなります。ISO1600以上のとき、本機では高感度ノイズリダクションが機能してノイズを低減させます。

	強	高感度ノイズリダクションを強くする。
✓	**標準**	高感度ノイズリダクションを標準にする。
	弱	高感度ノイズリダクションを弱くする。

- [強]にした場合、連続撮影の速度が約3.5枚/秒になります。

操作方法は29ページ

登録

詳しくは76ページをご覧ください。

撮影モードリセット

モードダイヤルが「P」、「A」、「S」、「M」のときの撮影モードの主な設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

① ［撮影モードリセット］を選び、マルチセレクターの中央を押す。
「撮影モードを初期値に戻しますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で［実行］を選び、中央を押す。
撮影モードの主な設定がリセットされる。

・リセットされる項目は、専用のボタンのある機能と撮影メニューすべてです。詳しくは、「リセット一覧表」（172ページ）をご覧ください。

☞操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

アイスタートAF

グリップを握ってファインダーをのぞくとピントが合い、シャッタースピードと絞り値が自動で調整されます。

✓	**入**	自動ピント合わせをする。 • [切]よりもバッテリーの消耗が早くなります。
	切	自動ピント合わせをしない。

アイスタートAFの作動

グリップを握らなくてもアイスタートを開始できます。

✓	**グリップセンサー連動**	グリップを握ってファインダーをのぞくとピント合わせをする。
	グリップセンサー非連動	グリップを握っていなくても、ファインダーをのぞいただけでピント合わせする。

• 三脚使用時にグリップから指が離れているときや、手袋をはめたまま撮影するときには、[グリップセンサー連動]にしていてもアイスタートAFは作動しません。また、手が乾燥していると作動しにくくなることがあります。このような場合は[グリップセンサー非連動]にするか、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。

AF/MFボタンの機能

AF/MFボタンは、お買い上げ時の設定ではAF（オートフォーカス）とMF（マニュアルフォーカス）を切り換えるボタン（50ページ）になっていますが、AFロックボタンとして使うこともできます。

✓	**AF/MFコントロール**	50ページをご覧ください。
	AFロック	AFロックボタンとして使う。ボタンを押すと、オートフォーカス作動中はその位置でピントが固定されます。作動中でなければ、ピント合わせが作動して、合ったあと固定されます。 AF/MFボタンを押したままシャッターボタンを押して撮影してください。

☞操作方法は29ページ

AF/MFコントロール

[AF/MFボタンの機能]を[AF/MFコントロール]に設定しているとき(102ページ)、操作方法を変更することができます。

✓	**押す間**	ボタンを押している間だけ、AFとMFを切り換える。
	再押し	一度押して離すとAFとMFが切り換わり、もう一度押すと元の設定に戻る。

AF駆動速度

オートフォーカス時の、ピントを合わせる速度を切り換えます。

✓	**高速**	高速でピントを合わせる。
	低速	低速でピントを合わせる。 ・近接撮影時など、ピントが合いにくい場合に使います。

フォーカスエリア点灯

ピント合わせの際に、フォーカスエリアが一瞬赤く点灯します。その点灯時間を変更したり、点灯しないようにすることができます。

	0.6秒	フォーカスエリアが0.6秒間点灯する。
✓	**0.3秒**	フォーカスエリアが0.3秒間点灯する。
	切	マルチセレクターを押したときだけ、フォーカスエリアが点灯する。

フォーカスホールドボタン

フォーカスホールドボタンの付いたレンズをお使いの場合、そのボタンの機能をプレビューボタンに変更することができます。

✓	**フォーカスホールド**	フォーカスホールドボタンとして使う。
	プレビュー	フォーカスホールドボタンをプレビューボタンとして使う。

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

AELボタン

AEL（AEロック）ボタンの機能と操作方法を変更することができます。
AEL（AEロック）ボタンの機能には、測光モードにかかわらず測光値（シャッタースピードと絞り値）をロックする「AEL」、一時的にスポット測光になってその測光値をロックする「スポットAEL」の2つがあります。操作方法には、押している間だけ機能する「押す間」、一度押して機能・再度押して解除という「再押し」の2つがあります。これらを以下の通り組み合わせることができます。

✓	**押す間AEL**	押し続けている間、選択されている測光モードでそのときの測光値がロックされる。
	再押しAEL	一度押して放すと、選択されている測光モードでそのときの測光値がロック、再度押すと解除される。
	押す間スポットAEL	押し続けている間、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、そのときの測光値がロックされる。
	再押しスポットAEL	一度押して放すと、どの測光モードにしていても一時的にスポット測光になり、そのときの測光値がロック、再度押すと解除される。

- 「AEL」は複数の画像の露出を一定にしたい場合に、「スポットAEL」は被写体により一時的にスポット測光を行う場合に便利です。
- 測光値がロックされている間は、液晶モニター /ファインダー内に ✱ が点灯します。特に「再押し」を選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。
- シャッタースピード優先/マニュアルモード以外でのフラッシュ発光時は、スローシンクロ撮影になります。この場合はスポット測光にならず、「押す間」と「再押し」の切り換えのみとなります（74ページ）。
- ここでの「押す間」、「再押し」設定は、マニュアルモードでのマニュアルシフト（40ページ）にも影響します。

前後ダイヤルの設定

モードダイヤルが「P」、「M」のとき、お買い上げ時の設定では前ダイヤルでシャッタースピードを、後ダイヤルで絞り値を設定しますが、これを入れ換えることができます。

	設定	説明
✓	**シャッター** **絞り**	前ダイヤルでシャッタースピードを、後ダイヤルで絞りを設定する。
	絞り **シャッター**	前ダイヤルで絞りを、後ダイヤルでシャッタースピードを設定する。

• モードダイヤルが「A」、「S」のときには設定は反映されません。

ダイヤル露出補正

前後どちらかのダイヤルで露出補正（42ページ）ができるようになります。

	設定	説明
✓	**切**	ダイヤルで露出補正をしない。
	前ダイヤル	前ダイヤルで露出補正をする。
	後ダイヤル	後ダイヤルで露出補正をする。

［前後ダイヤルの設定］が［シャッター 絞り］に設定しているとき、前後ダイヤルの機能は、以下の通りになります。

撮影モード	Pモード		Aモード		Sモード		Mモード	
設定	前ダイヤル	後ダイヤル	前ダイヤル	後ダイヤル	前ダイヤル	後ダイヤル	前ダイヤル	後ダイヤル
切	P_Sシフト	P_Aシフト	絞り	絞り	シャッタースピード	シャッタースピード	シャッタースピード	絞り
前ダイヤル	露出補正	P_Aシフト	露出補正	絞り	露出補正	シャッタースピード	シャッタースピード	絞り
後ダイヤル	P_Sシフト	露出補正	絞り	露出補正	シャッタースピード	露出補正	シャッタースピード	絞り

[前後ダイヤルの設定]が[絞り シャッター]に設定しているとき、前後ダイヤルの機能は、以下の通りになります。

撮影モード	Pモード		Aモード		Sモード		Mモード	
設定	前ダイヤル	後ダイヤル	前ダイヤル	後ダイヤル	前ダイヤル	後ダイヤル	前ダイヤル	後ダイヤル
切	P_Aシフト	P_Sシフト	絞り	絞り	シャッタースピード	シャッタースピード	絞り	シャッタースピード
前ダイヤル	露出補正	P_Sシフト	露出補正	絞り	露出補正	シャッタースピード	絞り	シャッタースピード
後ダイヤル	P_Aシフト	露出補正	絞り	露出補正	シャッタースピード	露出補正	絞り	シャッタースピード

ダイヤルロック

本機を持ち運ぶときなどに、あやまって前後ダイヤルを回して設定を変えてしまわないようにロックをかけることができます。

	入	液晶モニターにシャッタースピードと絞り値が表示されている間のみ前後ダイヤルが機能する。
✓	**切**	前後ダイヤルは常に操作可能。

設定ボタンの操作

お買い上げ時の設定では、ISOボタン、WB（ホワイトバランス）ボタン、DRIVEボタン、（露出補正）ボタン、C（カスタム）ボタンを押すと各モードの専用画面が表示されますが、クイックナビ画面（27ページ）を表示するように変更できます。

✓	**専用設定画面**	各モードの専用画面を表示する。
	クイックナビ	該当するモードが選ばれている状態でクイックナビ画面を表示する。

• [クイックナビ]を選択していても、拡大画面設定時に該当項目がない場合は、専用設定画面が表示されます。

☞操作方法は29ページ

カードなし時のレリーズ

メモリーカードが本機に入っていない状態で、シャッターが切れるかどうか設定します。

✓	**許可**	メモリーカードを本機に入れていなくてもシャッターが切れる。
	禁止	メモリーカードを本機に入れていないとシャッターが切れない。

レンズなし時のレリーズ

レンズを取り付けていない状態で、シャッターが切れるかどうか設定します。本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、[許可]を選んでおくと、シャッターが切れるようになります。

	許可	レンズを取り付けていなくてもシャッターが切れる。
✓	**禁止**	レンズを取り付けていないとシャッターが切れない。

操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

赤目軽減発光

フラッシュ撮影時、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光して目が赤く写るのを抑制します。

	入	赤目軽減する。
✓	**切**	赤目軽減しない。

- 赤目軽減発光は内蔵フラッシュでのみ可能です（別売のフラッシュでは目が赤く写ることはほとんどありません）。

露出補正の影響

お買い上げ時の設定では、フラッシュ発光時に露出補正をかけると、シャッタースピード、絞り値、ISO感度（[AUTO]時のみ）、フラッシュ発光量のすべてが変化して露出補正（42ページ）を行います。これを、フラッシュ発光量を一定にして、定常光（フラッシュ以外の光）で照射されている背景だけに、露出補正をかけることができます。

✓	**定常光＋フラッシュ**	定常光範囲（フラッシュ光の届かない背景）とフラッシュ光の届く範囲の両方に補正がかかる。 • 変化するもの：シャッタースピード/絞り値/ISO感度（[AUTO]時のみ）/フラッシュ発光量 • 変化しないもの：なし
	定常光のみ	フラッシュ光の届く範囲の露出をほぼ一定にしたまま、届かない定常光範囲（背景）にのみ補正をかけることができる。 • 変化するもの：シャッタースピード/絞り値/ISO感度（[AUTO]時のみ） • 変化しないもの：フラッシュ発光量

- 調光補正の場合は、フラッシュ光の届かない定常光範囲の露出をほぼ一定にしたまま、届く範囲にのみ補正をかけることができます（72ページ）。
  変化するもの：フラッシュ発光量
  変化しないもの：シャッタースピード/絞り値/ISO感度

ブラケット順序

ブラケット撮影（54ページ）で、撮影する順序が選べます。DROアドバンスブラケットには適用されません。

✓	0 →－→＋	最もシャッターチャンスの大きい1枚目を±0段で撮影する。 撮影例：±0段 → －0.3段 → ＋0.3段 → －0.7段 → ＋0.7段
	－→ 0 →＋	露出が暗い方から順に並ぶ。 撮影例：－0.7段 → －0.3段 → ±0段 → ＋0.3段 → ＋0.7段

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり削除したりすることができます。

	10秒	撮影後、撮影した画像を10秒間液晶モニターに表示する。
	5秒	撮影後、撮影した画像を5秒間液晶モニターに表示する。
✓	2秒	撮影後、撮影した画像を2秒間液晶モニターに表示する。
	切	オートレビューしない。

オートレビュー中に削除を行うときは

🗑（削除）ボタンを押し、確認の画面が出たら、マルチセレクターの▲で［削除］を選んで、中央を押す。

- オートレビュー画面で画像を拡大すると、フォーカスエリアを ⁘（ローカル）にして撮影しているときは、選んだエリアを中心に拡大されます。
- 連続撮影、各ブラケットのオートレビューは、最後に撮影された画像のみが表示されます。上記の方法で削除すると、表示された画像だけが削除されます。
- 縦方向で撮影しても、オートレビュー時は縦方向で表示されません（110ページ）。

接眼時自動消灯

ファインダーの下にはアイセンサーがあり、撮影者がファインダーをのぞいているかどうかを検知します。ファインダーをのぞいている間、液晶モニターの画面を消灯するかどうかを選びます。

✓	**入**	ファインダーをのぞいている間は液晶モニターを消灯する。
	切	ファインダーをのぞいている間も液晶モニターを消灯しない。

- ここでの設定にかかわらず、一定時間（お買い上げ時の設定では5秒）を過ぎると、撮影情報画面は消灯します（118ページ）。

撮影情報画面

本機を縦に構えたとき、撮影情報画面を縦画面にするかどうか設定します。

✓	**縦横自動切り換え**	本機を縦位置に構えると、表示が縦画面に切り換わる。
	横のみ	本機を縦位置に構えても、表示が縦画面に切り換わらない。

撮影構図の縦横

縦横の構図情報を画像に記録するかどうかを選びます。

✓	**記録する**	縦横の構図情報を画像に記録する。 • ▶ 再生メニューの[縦記録画像の再生]を[縦向き]にしていると、縦向きで再生されます（116ページ）。
	記録しない	縦横の構図情報を画像に記録しない。

- [記録する]を選ぶと、パソコンに取り込んだ画像は、「Picture Motion Browser」/「Image Data Converter SR」（付属）では、縦方向で表示されます。使用するソフトウェアによっては縦方向で表示されないことがあります。
- 再生画像を手動で回転するときは、85ページをご覧ください。

☞操作方法は29ページ

カスタム設定リセット

⚙ カスタムメニューの設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

① ［カスタム設定リセット］を選び、マルチセレクターの中央を押す。
「カスタム設定を初期値に戻しますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で［実行］を選び、中央を押す。
カスタムメニューの設定がリセットされる。

☞操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

削除

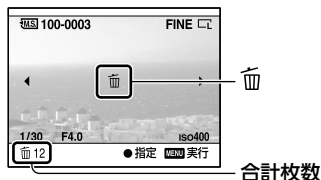
不要な画像を削除します。削除方法は、下記の手順をご覧ください。

✓	**選択画像**	指定した画像だけを削除する。
	全画像	メモリーカード内の画像すべてを削除する。

- 1度削除した画像は元に戻せません。
- プロテクトされている画像は削除できません。
- 1枚ずつ手早く削除するには、🗑（削除）ボタンをお使いください。（→*別冊「はじめに」手順6*）

画像を選択して削除するには

① [削除]の[選択画像]を選ぶ。

② マルチセレクターの◀/▶で画像を選び、中央を押す。
画像に 🗑 マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央を押してください。

③ 他の画像も削除したいときは、手順②を繰り返す。

- 中止するときは、▶（再生）ボタンを押してください。

④ MENUボタンを押す。
「削除しますか？」というメッセージが表示される。

⑤ ▲で[削除]を選び、中央を押す。
画像が削除され、再生画面に戻る。

すべての画像を削除するには

① [削除]の[全画像]を選ぶ。
「カード内の全画像を削除しますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で[削除]を選び、中央を押す。
すべての画像が削除され、再生画面に戻る。

☞操作方法は29ページ

フォーマット

メモリーカードをフォーマット（初期化）します。

・フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

① ［フォーマット］を選ぶ。
「データがすべて削除されます よろしいですか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で［実行］を選び、中央を押す。
フォーマットが実行される。

・フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
・メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
・アダプターを使ってCFカードスロットに入れた“メモリースティック デュオ”はフォーマットできません。フォーマットする場合は、“メモリースティック デュオ”を直接“メモリースティック デュオ”スロットに入れてください。

プロテクト

画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。下記の手順をご覧ください。

✓	**選択画像**	指定した画像だけにプロテクトをかける。
	全画像	メモリーカード内の画像すべてにプロテクトをかける。
	全画像解除	メモリーカード内の画像すべてのプロテクトを取り消す。

画像を選択してプロテクトするには

① ［プロテクト］の［選択画像］を選ぶ。

② マルチセレクターの◀/▶で画像を選び、中央を押す。
画像にO⊸マークが付く。

・解除するときは、もう一度中央を押してください。

③ 他の画像もプロテクトしたいときは、手順②を繰り返す。

・中止するときは、▶（再生）ボタンを押してください。

④ MENUボタンを押す。
「プロテクト設定しますか？」というメッセージが表示される。

⑤ ▲で［実行］を選び、中央を押す。
画像がプロテクトされ、再生画面に戻る。

すべての画像をプロテクトするには

① ［プロテクト］の［全画像］を選ぶ。
「プロテクト設定しますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で［実行］を選び、中央を押す。
画像がプロテクトされ、再生画面に戻る。

すべての画像のプロテクトを解除するには

① ［プロテクト］の［全画像解除］を選ぶ。
「全画像解除しますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で［実行］を選び、中央を押す。
全画像のプロテクトが解除され、再生画面に戻る。

DPOF指定

撮影した画像を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかを指定しておくことができます。
指定方法は、下記の手順をご覧ください。

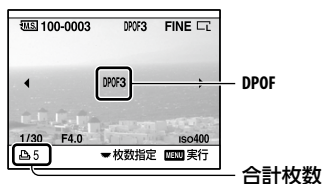
✓	**選択画像**	指定した画像だけをDPOF指定する。
	全画像	メモリーカード内の画像すべてをDPOF指定する。
	全画像解除	メモリーカード内の画像すべてのDPOF指定を取り消す。

・RAW画像にはDPOF指定はできません。
・枚数指定は9枚までです。

画像を選択してDPOF指定するには

① ［DPOF指定］の［選択画像］を選ぶ。

操作方法は29ページ

② マルチセレクターの◀/▶で画像を選び、後ダイヤルで枚数を指定する。
画像にDPOF指定マークが付き、枚数が指定される。

・解除するときは、後ダイヤルを回して、DPOF指定マークを消してください。

③ 他の画像もDPOF指定したいときは、手順②を繰り返す。

・中止するときは、▶（再生）ボタンを押してください。

④ MENUボタンを押す。
「DPOF設定しますか？」というメッセージが表示される。

⑤ ▲で［実行］を選び、中央を押す。
画像がDPOF指定され、再生画面に戻る。

すべての画像をDPOF指定するには

① ［DPOF指定］の［全画像］を選ぶ。
「何枚ずつプリントしますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲/▼で枚数を指定し、中央を押す。
「DPOF指定しますか？」というメッセージが表示される。

③ ▲で［実行］を選び、中央を押す。
画像がDPOF指定され、再生画面に戻る。

• 他のデジタルカメラでDPOF指定したメモリーカードを本機に入れ、新たに指定を行うと、他のカメラでの指定は解除されます。

すべての画像のDPOF指定を取り消すには

インデックスプリントも取り消されます。DPOF印刷後も指定は残ったままなので、いったん取り消すことをおすすめします。

① ［DPOF指定］の［全画像解除］を選ぶ。
「全画像解除しますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で［実行］を選び、中央を押す。
全画像のDPOF指定が取り消され、再生画面に戻る。

☞操作方法は29ページ

日付プリント

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所（画面内/画面外、サイズなど）は、お使いのプリンターによって異なります。

	入	日付を入れる。
✓	**切**	日付を入れない。

- 通常プリントされるのは年月日だけですが、お使いのプリンターにより異なるものがあります。また、プリンターによっては、この機能に対応していないものもあります。

インデックスプリント

メモリーカード内に記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます。

最新版を作成する	インデックスプリントを作成する。
作成を取り消す	作成したインデックスプリントを取り消す。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンターによって異なります。RAW画像は、インデックスプリントには入りません。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

縦記録画像の再生

縦位置で撮影した画像を再生するとき、本機が回転情報を読み取って画像を縦に再生します。

✓	**縦向き**	縦向きで再生する。
	横向き	縦位置で撮影しても、横向きのまま再生する。

- テレビやパソコンで再生する場合は、[横向き]にしていても縦向きになります。
- ✿カスタムメニューの[撮影構図の縦横]を[記録しない]にしている場合は、縦向きになりません（110ページ）。

操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

スライドショー

撮影した画像を順番に表示します。

[スライドショー]を選び、マルチセレクターの中央を押す。
スライドショーが開始され、全画像の表示が終わると自動的に終了します。

一時停止するには、マルチセレクターの中央を押す。もう一度押すと、再開します。
途中で終了するには、MENUボタンを押す。

• スライドショー再生中に、◀/▶で、画像を戻す/送ることができます。

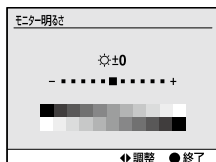
間隔設定

スライドショー時の画面切り換え間隔を選びます。

	30秒	30秒で画像が切り換わる。
	10秒	10秒で画像が切り換わる。
	5秒	5秒で画像が切り換わる。
✓	3秒	3秒で画像が切り換わる。
	1秒	1秒で画像が切り換わる。

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

モニター明るさ

液晶モニターの明るさを調整できます。

① [モニター明るさ]を選び、マルチセレクターの中央を押す。

② マルチセレクターの◀/▶で明るさを調整して、中央を押す。

- 撮影情報画面や再生画面でDISP（表示切り換え）ボタンを長押ししても、明るさを調整できます。

情報表示時間

撮影時には、液晶モニターに撮影情報画面が表示されます。その表示時間を変更することができます。

	1分	1分間表示する。
	30秒	30秒間表示する。
	10秒	10秒間表示する。
✓	5秒	5秒間表示する。

- 消灯後は、シャッターボタン半押しなど何か本機を操作すれば、再度点灯します。

パワーセーブ

本機は、一定時間何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、ほぼ電源オフに近い状態になります（パワーセーブ（→*別冊「はじめに」手順4*））。このパワーセーブまでの時間を変更することができます。

	30分	30分後にパワーセーブになる。
	10分	10分後にパワーセーブになる。
	5分	5分後にパワーセーブになる。
✓	3分	3分後にパワーセーブになる。
	1分	1分後にパワーセーブになる。

- シャッターボタン半押しなど何か本機を操作すれば、撮影が再開できます。
- ここでの設定にかかわらず、テレビ接続時は30分となります。HDMIケーブル(別売)での接続でACアダプター/チャージャー(別売)を使用する場合は、パワーセーブは作動しません。

ビデオ出力

接続するビデオ機器のカラーテレビ方式に合わせて設定します。

✓	NTSC	ビデオ出力をNTSCモードに設定する(日本、米国など)。
	PAL	ビデオ出力をPALモードに設定する(欧州など)。

HDMI出力

HDMI端子でハイビジョンテレビと接続した場合(87ページ)、本機からの出力信号は自動的に決まります。カメラで撮影した静止画の場合、被写体によっては違う信号の方が見やすいことがあります。以下の通り変更できます。

✓	**HD(1080i)優先**	ハイビジョンのHD(1080i)信号を優先して出力する。
	HD(720p)優先	ハイビジョンのHD(720p)信号を優先して出力する。
	SD優先	SD(スタンダード)信号を優先して出力する。

- 上記の設定をしていても、テレビがその信号に対応していない場合は、テレビで表示可能な信号で出力されます。

日時設定

日時を再設定します。

[日時設定]を選び、マルチセレクターの中央を押す。
日時設定画面で、再設定する。

- 日時設定の手順について詳しくは、*別冊「はじめに」手順4*をご覧ください。

セットアップメニュー

セットアップメニュー 2

操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

メモリーカード切り換え

記録、再生するメモリーカードの種類を選びます。

	メモリースティック	“メモリースティック デュオ”に記録、再生する。
✓	**コンパクトフラッシュ**	CFカード/マイクロドライブに記録、再生する。

ファイルナンバー

撮影画像のファイル番号の付けかたを設定します。

✓	**連番**	フォルダの変更、全画像の削除、メモリーカードの交換やフォーマットを行っても、ファイル番号はそのまま続く。
	リセット	撮影フォルダを変えたり、日付形式フォルダで日付が変わってフォルダが変わったりすると、ファイル番号は0001に戻る。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まる。

フォルダ形式

お買い上げ時の設定の標準形式フォルダ（100MSDCFなど）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存や再生を行うことができます。

✓	**標準形式**	標準形式のフォルダにする。
	日付形式	日付形式のフォルダにする。撮影する日付が変わるごとに自動的にフォルダが1つ作成される。

- 標準形式フォルダで保存されたフォルダと画像はそのまま残ります。
- フォルダを日付形式にすると、フォルダ名は以下の通りに表されます。

例：101 7 01 01
　　Ⓐ　Ⓑ

Ⓐ：フォルダ番号
Ⓑ：西暦（下1桁）　月　日

フォルダ選択

標準形式フォルダを選択中でフォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が保存されるフォルダ（撮影フォルダ）を選ぶことができます。

① [フォルダ選択] を選び、マルチセレクターの中央を押す。

② マルチセレクターの▲/▼で希望のフォルダを選び、中央を押す。

- 日付形式フォルダ設定中は、撮影フォルダの選択はできません。

新規作成

メモリーカードの中に、新しいフォルダを作成します。
既存番号＋1のフォルダが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録されます。

USB接続

本機をUSBケーブルでパソコンなどに接続する際の、接続の種類を選びます。

✓	マスストレージ	本機で撮影した画像をパソコンに取り込むときに使用する。 本機がUSBマスストレージとしてパソコンに認識されます。
	PTP	撮影した画像をPictBridge対応のプリンターで印刷する場合や、その他のPTP*対応機器に転送する場合に使用する。 • PictBridge対応のプリンターでの印刷方法については、145ページをご覧ください。 * PTP：Picture Transfer Protocolの略。画像ファイルの転送における通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。
	PCリモート	CD-ROM（付属）内の「Remote Camera Control」を使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

操作方法は29ページ

マスストレージ時のカード

マスストレージ接続時、本機に"メモリースティック デュオ"とCFカード/マイクロドライブの両方を入れていると、お使いのパソコンによっては両方を表示することができます。

	両メモリーカード	"メモリースティック デュオ"とCFカード/マイクロドライブの両方を表示する。Windows 2000 SP3またはそれ以降のパソコンで可能です。
✓	**選択メモリーカード**	[メモリーカード切り換え]で選んでいるカードのみを表示する。

セットアップメニュー 3

操作方法は29ページ

お買い上げ時の設定は✓で示しています。

メニュー呼び出し先

MENUボタンを押すと、お買い上げ時の設定では常に 1または ▶ 1のメニュー画面が現れます。これを、MENUボタンを押せば前回選択したメニューが最初にくるようにすることができます。

✓	**先頭**	1または ▶ 1のメニュー画面を最初に表示する。
	前回位置	前回選択したメニューを最初に表示する。

削除確認画面

画像削除、フォルダ削除の際に、「削除しますか？」などの確認画面が現れます。通常はあらかじめ[キャンセル]が選択された状態になっていますが、これを[削除]を先に選択した状態にすることができます。

	「削除」が先	「削除」が選択された状態にする。
✓	**「キャンセル」が先**	「キャンセル」が選択された状態にする。

電子音

ピントが合ったときやセルフタイマー作動時には、本機から電子音が鳴ります。その有無を切り換えることができます。

✓	**入**	電子音を鳴らす。
	切	電子音を鳴らさない。

クリーニングモード

本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（フィルムに該当する部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、市販のブロアーを使用して、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。
アンチダスト機能の効果によりブロアーだけで簡単にほこりを落とすことができます。

- **バッテリー残量が (残量が3個)以上でないと、クリーニングモードは行えません。クリーニングの途中でバッテリーの残量がなくなると、シャッター幕破損の原因となるため、清掃はすみやかに行ってください。**

操作方法は29ページ

① バッテリー容量が充分にあることを確認する。

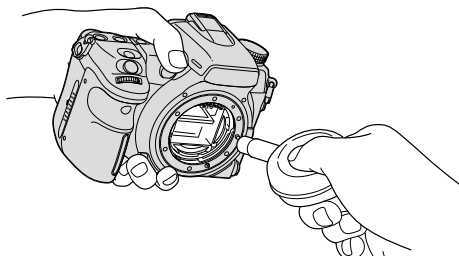
・ACアダプター /チャージャー（別売）の使用をおすすめします。

② ［クリーニングモード］を選び、マルチセレクターの中央を押す。
「クリーニング後はカメラの電源をOFFにしてください　開始しますか？」というメッセージが表示される。

③ マルチセレクターの▲で［実行］を選び、中央を押す。

・イメージセンサーが短時間振動したあと、ミラーが上がります。

④ レンズをはずす。

⑤ ブロアーでイメージセンサー表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。

・ブロアーの先端をイメージセンサーに当てないように、手早く行ってください。
・ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにしてください。
・スプレー式のブロアーは、水蒸気が本機内部に飛び散るので使用しないでください。
・**清掃の際に、ブロアーの先端をレンズマウントより中に入れないでください。ブロアーを近づける必要はありません。**

⑥ レンズを取り付け、本機のPOWERスイッチを「OFF」にする。

・クリーニング中にバッテリーが消耗しそうな場合は、本機のブザーが鳴ってお知らせします。すぐにクリーニングを中断して、POWERスイッチを「OFF」にしてください。
・上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスク（裏表紙）にお問い合わせください。

本機内部にほこりが入りにくくするには

・レンズ交換は素早く、ほこりの少ない場所で行う。
・レンズやボディキャップをはずしたまま本機を放置しない。
・ボディキャップを取り付ける場合、先にボディキャップのほこりを落としてから取り付ける。

☞操作方法は29ページ

設定値リセット

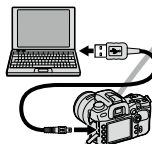
本機の主な設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

① [設定値リセット]を選び、マルチセレクターの中央を押す。
「設定を初期値に戻しますか？」というメッセージが表示される。

② マルチセレクターの▲で[実行]を選び、中央を押す。
主な設定がリセットされる。

• リセットされる項目については、「リセット一覧表」（172ページ）をご覧ください。

パソコンでできること

まずは、本機とパソコンを接続する（128ページ）

本機とパソコンを準備して、USB接続する

パソコンに画像を取り込む（129ページ）

画像をパソコンで見る

ソフトウェアをインストールし、画像を活用する（134ページ）

下記のソフトウェアがインストールされます。

- 「Picture Motion Browser」
- 「i-Jumpエンジン」
- 「Image Data Converter SR」
- 「Image Data Lightbox SR」
- 「Remote Camera Control」

パソコンの推奨環境

本機とパソコンをつないで画像を取り込むには、下記の推奨環境が必要です。

■ Windows

OS（工場出荷時にインストールされていること）: Microsoft Windows 2000 Professional SP4/Windows XP* SP2/Windows Vista*

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

* 64bit版は除きます。

USB端子: 標準装備

■ Macintosh

OS（工場出荷時にインストールされていること）: Mac OS X（v10.1.3以降）

USB端子: 標準装備

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ、延長ケーブル経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（hi-speed転送）が行えます。
- セットアップメニューの[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認してください。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

『α』専用サポートサイト

では、最新サポート情報をご覧いただけます。

http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

パソコンと接続する

本機の画像をパソコンに取り込むには、下記の方法があります。

メモリーカードを直接パソコンに挿入する場合：
本機からメモリーカードを取りはずして、パソコンに挿入して、画像データをコピーする。

メモリーカードを入れた本機でUSB接続する場合：
129 ～ 131ページの手順で、画像をパソコンにコピーできます。

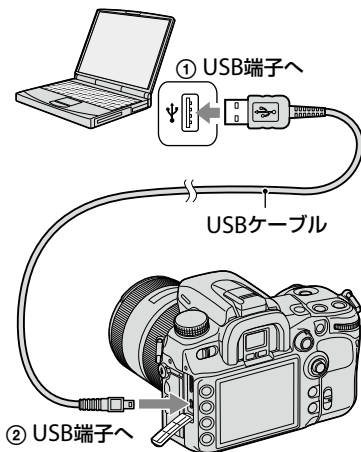
- セットアップメニューの[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認してください（121ページ）。

1 画像を記録したメモリーカードを本機に入れる。

2 充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター / チャージャー（別売）で本機とコンセントをつなぐ。

- 残量のないバッテリーを使用して画像をコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。

3 本機とパソコンの電源を入れる。

4 本機とパソコンをつなぐ。

画像をパソコンに取り込む

画像をパソコンに取り込む – Windows XP/Vista

ここでは、パソコンの「マイドキュメント」（Windows Vistaでは「ドキュメント」）に画像を取り込む例を説明します。

1 パソコンとの接続完了後、パソコンで自動再生ウィザードが起動するので、[フォルダを開いてファイルを表示する] → [OK]の順にクリック。

- 自動再生ウィザードが起動しないとき：
  →「画像をパソコンに取り込む – Windows 2000」（130ページ）

2 [DCIM]フォルダをダブルクリック。

- 「Picture Motion Browser」を使ってそのまま画像を取り込むこともできます。

3 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリック。次に、取り込みたい画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、[コピー]をクリック。

- 画像ファイルの保存先については、132ページをご覧ください。

4 [マイドキュメント]（Windows Vistaでは[ドキュメント]）フォルダをダブルクリックして開く。次に、右クリックでメニューを表示し、[貼り付け]を選ぶ。

「マイドキュメント」（Windows Vistaでは「ドキュメント」）フォルダに画像がコピーされる。

- コピー先に同じファイル名の画像があるときは、元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。
  上書きすると、元のファイルデータは消えます。上書きしない場合は、ファイル名を希望の名称に変更してからコピーします。ただし、ファイル名を変更すると本機で再生できなくなる場合があります（133ページ）。

画像をパソコンに取り込む – Windows 2000

ここでは、パソコンの「マイドキュメント」に画像を取り込む例を説明します。

1 **[マイコンピュータ] → [リムーバブルディスク]の順にダブルクリック。**

2 **「画像をパソコンに取り込む – Windows XP/Vista」の手順2以降を行う。**

画像をパソコンに取り込む – Macintosh

1 **[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン] → [DCIM] → [取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリック。**

2 **画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップ。**

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

パソコンで画像を見る

■ Windows

「マイドキュメント」（Windows Vistaでは「ドキュメント」）に保存された画像を見ます。

1 **[スタート]→[マイドキュメント]（Windows Vistaでは[ドキュメント]）をクリック。**

「マイドキュメント」（Windows Vistaでは「ドキュメント」）フォルダの内容が表示される。

- Windows 2000の場合は、デスクトップ画面上の[マイドキュメント]をダブルクリックする。

2 **見たい画像ファイルをダブルクリック。**

画像が表示される。

■ Macintosh

[ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックすると画像が開く。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く
- メモリーカードを取り出す
- 本機の電源を切る

■Windows

① タスクトレイの をダブルクリック。

ここをダブルクリック

② (USB大容量記録装置デバイス)(VistaではUSB大容量記録装置) → [停止]をクリック。

③ 取りはずすドライブを確認して、[OK]をクリック。

④ [OK]をクリック。

パソコンの接続が切断されました。

- Windows XP/Vistaをお使いの方は、手順④は不要です。

■ Macintosh

メモリーカードまたはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップする。

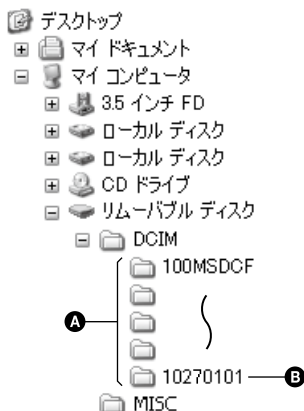
パソコンとの接続が切断される。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、メモリーカード内のフォルダにまとめられています。

Windows XPの例

A 本機で撮影した画像ファイルのフォルダ（最初の3桁はフォルダ番号）。

B 日付別にフォルダを作成することもできます（120ページ）。

- 「MISC」フォルダは、本機で記録/再生できません。
- 画像ファイル名は、下記のようになります。□□□□（ファイル番号）は0001 ～ 9999の半角数字、RAWデータファイルとそのJPEG画像ファイル名の数字部分は同じです。
  - JPEGファイル：DSC0□□□□.JPG
  - JPEGファイル（Adobe RGB）：_DSC□□□□.JPG
  - RAWデータファイル：DSC0□□□□.ARW
  - RAWデータファイル（Adobe RGB）：_DSC□□□□.ARW
- お使いのパソコンによっては、拡張子が表示されない場合があります。
- フォルダについては、120、121ページをご覧ください。

パソコン内の画像を、メモリーカードにコピーして本機で見る

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。
パソコンにコピー後、メモリーカードから削除した画像をもう一度本機で見るには、パソコンからメモリーカードに画像をコピーしてから本機で再生します。

- 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順1は必要ありません。
- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから（121ページ）画像ファイルのコピーを行ってください。

1 画像ファイルを右クリックし、[名前の変更]をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する。

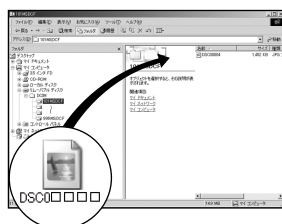
□□□□には、0001から9999までの半角数字を入れる。

- 上書きの警告が出た場合は、別の数字を入れ直してください。
- パソコンによっては、画像の拡張子「JPG」が表示されます。拡張子は変更しないでください。

2 下記の手順で、ファイルをメモリーカード内のフォルダにコピーする。

① 画像を右クリック→［コピー］をクリック。
② ［マイコンピュータ］内の［リムーバブルディスク］または［SonyMemoryStick］をダブルクリック。
③ ［DCIM］フォルダ内の［□□□MSDCF］フォルダを右クリックし、［貼り付け］をクリック。

- □□□には、100 ～ 999までの半角数字が入る。

パソコンを使う

ソフトウェア(付属)を使う

本機で撮影した画像をよりいっそうご活用いただくために、「Picture Motion Browser」、「Image Data Converter SR」、「Image Data Lightbox SR」、「Remote Camera Control」などが付属されています。

• 「Picture Motion Browser」は、Macintoshには対応しておりません。

パソコンの推奨環境

■ Windows

「Picture Motion Browser」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Microsoft Windows 2000 Professional SP4/Windows XP* SP2/Windows Vista*

* 64bit版は除きます。

CPU/メモリ: Pentium III 500MHz 以上/RAM 256MB 以上(Pentium III 800MHz 以上/RAM 512MB 以上を推奨)

ハードディスク: インストール時に必要な容量:約200 MB

ディスプレイ: 1024×768ドット以上、High Color(16 bitカラー)以上

「Image Data Converter SR Ver.2」/「Image Data Lightbox SR」/「Remote Camera Control」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Microsoft Windows 2000 Professional SP4/Windows XP* SP2/Windows Vista*(「Remote Camera Control」は、Windows XP* SP2/Windows Vista*)

* 64bit版は除きます。

CPU/メモリ: MMX Pentium III 1 GHz以上を推奨/RAM 512 MB以上(RAM 1 GB以上を推奨)

仮想メモリー: 700 MB以上

ディスプレイ:1024×768ドット以上、High Color(16 bitカラー)以上

■ Macintosh

「Image Data Converter SR Ver.2」/「Image Data Lightbox SR」/「Remote Camera Control」使用時の推奨環境

OS(工場出荷時にインストールされていること): Mac OS X v10.4以上

CPU: Power Mac G4/G5シリーズ(1.0 GHz以上を推奨)/Intel Core Solo/Core Duo/Core2 Duo以上

メモリ: 512 MB以上(1 GB以上を推奨)

ディスプレイ: 1024×768ドット以上、32000色以上

ソフトウェアをインストールする

下記の手順で、ソフトウェア（付属）をインストールします。

■ Windows

- コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、（マイコンピュータ）→（SONYPICTUTIL）の順にダブルクリックする。
- Windows Vistaでは、自動再生画面が表示される場合があります。そのときは「Install.exe.の実行」を選択し、画面の指示に従ってインストールしてください。

2 [インストール]をクリックする。

「言語の選択」画面が表示される。

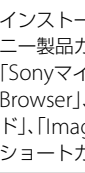
3 [日本語]を選び、[次へ]をクリックする。

[地域設定]画面が表示される。

4 [エリア]と[国/地域]を選び、[次へ]をクリックする。

「SonyPicture UtilityのInstallShield Wizardへようこそ」と画面に表示されたら、[次へ]をクリックする。

使用許諾画面が表示される。
内容をよく読み、「使用許諾契約の全条項に同意します」にチェックを入れ、[次へ]をクリックする。

5 以降、画面の指示に従ってインストールを進める。

- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

6 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。

下記のソフトウェアがインストールされる。

- Sony Picture Utility
  「Picture Motion Browser」
  「i-Jumpエンジン」
- Sony Image Data Suite
  「Image Data Converter SR」
  「Image Data Lightbox SR」
  「Remote Camera Control」

<table>
<tr><td colspan="2">インストールすると、デスクトップ上に「ソニー製品カスタマー登録WEBサイト」、「Sonyマイページ」、「Picture Motion Browser」、「Picture Motion Browserガイド」、「Image Data Converter SR」などのショートカットが表示されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>カスタマー登録していただくと安心・便利な各種サポートが受けられます。
http://www.sony.co.jp/di-regi/</td></tr>
<tr><td></td><td>マイページではお持ちの登録製品に合わせたサポート情報をご覧いただけます。http://www.sony.co.jp/mypage</td></tr>
<tr><td></td><td>ダブルクリックすると「Picture Motion Browser」が起動します。</td></tr>
<tr><td></td><td>ダブルクリックすると「Picture Motion Browserガイド」を表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>ダブルクリックすると「Image Data Converter SR Ver.2」が起動します。</td></tr>
<tr><td></td><td>ダブルクリックすると「Image Data Lightbox SR」が起動します。</td></tr>
</table>

■ Macintosh

- インストールは管理者としてログオンした状態で行ってください。

① Macintoshの電源が入った状態で、CD-ROM（付属）を、ディスクドライブに入れる。

② CD-ROMアイコンをダブルクリック。

③ [MAC]フォルダの中の[SIDS_INST.pkg]を任意のフォルダにコピー。

④ コピー先のフォルダの中の[SIDS_INST.pkg]をダブルクリック。
「ようこそ　Image Data Suiteのインストールへ」画面が表示される。
以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

「Picture Motion Browser」について

本機で撮影した静止画をよりいっそうご活用いただくために、「Picture Motion Browser」が収録されています。ここでは、「Picture Motion Browser」の概要を紹介します。

- 「Picture Motion Browser」は、Macintoshには対応しておりません。

「Picture Motion Browser」のご紹介

「Picture Motion Browser」をご利用になると、次のことができます。

- 本機で撮影した画像をパソコンに取り込み、表示できます。
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧できます。
- 静止画の補正（赤目補正など）、印刷、メール送信、撮影日時の変更ができます。
- GPSユニット（別売）を利用すれば撮影した画像の位置情報を地図上に表示することができます。
- 画像に日付を挿入して保存/印刷できます。
- 書き込み型CDドライブまたはDVDドライブでデータディスクを作成できます。
- 詳しいご利用方法については、「Picture Motion Browserガイド」をご覧ください。

スタートメニューから「Picture Motion Browserガイド」を起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］（Windows 2000では［プログラム］）→［Sony Picture Utility］→［ヘルプ］→［Picture Motion Browserガイド］の順にクリックします。

「Picture Motion Browser」を起動/終了するには

起動する

デスクトップ上の［Picture Motion Browser］をダブルクリックする。
スタートメニューから起動するときは、［スタート］→［すべてのプログラム］（Windows 2000では［プログラム］）→［Sony Picture Utility］→［Picture Motion Browser］の順にクリックする。

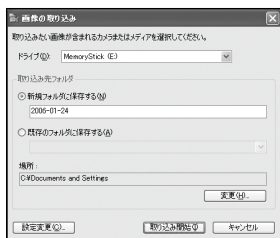
- 初回起動時にお知らせ通信機能の確認画面が表示されます。［実行開始］を選択してください。この機能は、ソフトウェアの更新などのお知らせがある場合に通知を行います。あとで設定し直すこともできます。

終了する

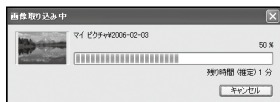
画面右上の［×］ボタンをクリックする。

画像をパソコンに取り込む

1 「本機とパソコンをつなぐ」のように本機とパソコンを接続する。

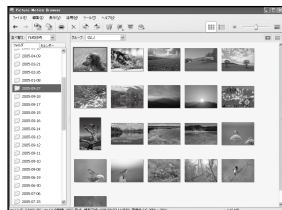
本機とパソコンの接続が終わると、「Picture Motion Browser」の[画像の取り込み]画面が自動起動する。

- Windows XP/Vistaの場合は、自動再生ウィザードが起動したら終了してください。

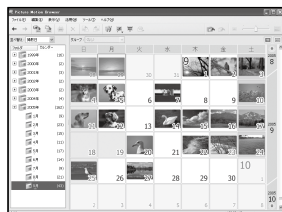
2 画像を取り込む。

[取り込み開始] ボタンを押すと、画像の取り込みが開始される。

お買い上げ時の設定では、「マイ ピクチャ」に取り込み日を名前にしたフォルダが作成され、その中に画像が取り込まれます。

- 「Picture Motion Browser」の機能について詳しくは、「Picture Motion Browserガイド」をご覧ください。

画像をパソコンで見る

取り込みが完了すると、「Picture Motion Browser」が起動して、取り込んだ画像のサムネイルが表示されます。

- お買い上げ時の設定では、「閲覧フォルダ」として「マイピクチャ」フォルダが設定されています。

撮影日ごとにカレンダー上に整理して見るなどができます。詳しくは「Picture Motion Browserガイド」をご覧ください。

例：月表示画面

「Image Data Converter SR」について

「Image Data Converter SR Ver.2.0」のご紹介

「Image Data Converter SR Ver.2.0」を使うと、RAWモードで撮影した画像をトーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集できます。また、汎用ファイルフォーマット形式で保存することができます。

- RAWデータで保存した場合、ARW2.0形式になります。
- 詳しいご利用方法については、ヘルプをご覧ください。

ヘルプを起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム]（Windows 2000では[プログラム]）→ [Sony Image Data Suite] → [ヘルプ] → [Image Data Converter SR Ver.2]の順にクリックします。

「Image Data Converter SR」を起動/終了するには

■ Windows

起動する

デスクトップ上のショートカット[Image Data Converter SR Ver.2]をダブルクリックする。
スタートメニューから起動するときは、[スタート] → [すべてのプログラム]（Windows 2000では[プログラム]）→ [Sony Image Data Suite] → [Image Data Converter SR Ver.2]の順にクリックする。

終了する

画面右上の [×] ボタンをクリックする。

■ Macintosh

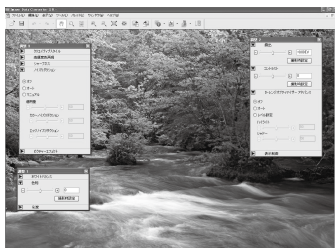
起動する

[アプリケーション]フォルダから[Sony Image Data Suite]フォルダ内の[Image Data Converter SR Ver.2]をダブルクリックする。

終了する

[IDC SR]メニューから[Image Data Converter SRを終了]をクリックする。

画像を調整する

ツールバー上のボタンなどを使って、ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整ができます。

画像を保存する

表示、編集した静止画はパソコンに保存できます。RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。

- 詳しいご利用方法については、「Image Data Converter SR」のヘルプをご覧ください。

「Image Data Lightbox SR」について

「Image Data Lightbox SR」のご紹介

「Image Data Lightbox SR」をご利用になると、次のことができます。

- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像を表示、比較する。
- 5段階でランク付けする。
- 「Image Data Converter SR」で表示して、画像の調整ができる。
- 詳しいご利用方法については、ヘルプをご覧ください。

ヘルプを起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム](Windows 2000では[プログラム]) → [Sony Image Data Suite] → [ヘルプ] → [Image Data Lightbox SR]の順にクリックします。

「Image Data Lightbox SR」を起動/終了するには

■ Windows

起動する

デスクトップ上の[Image Data Lightbox SR]をダブルクリックする。
スタートメニューから起動するときは、[スタート] → [すべてのプログラム](2000では[プログラム] → [Sony Image Data Suite]→ [Image Data Lightbox SR]の順にクリックする。

終了する

画面右上の[×]ボタンをクリックする。
コレクションの保存についてのダイアログが表示されます。コレクションについては、141ページをご覧ください。

■ Macintosh

起動する

[アプリケーション]フォルダから[Sony Image Data Suite]フォルダ内の[Image Data Lightbox SR]をダブルクリックする。

終了する

[Image Data Lightbox SR]メニューから、[Image Data Lightbox SR を終了]をクリックする。

画像を表示する

起動すると、動作選択画面が表示されます。
[フォルダを開く]または[画像ファイルを開く]をクリックして、画像を表示する。

引き続き、[ファイル]メニューから[画像ファイルを開く]または[フォルダを開く]で、表示画像を追加することができます。別のフォルダの画像も同時に表示、操作が可能です。

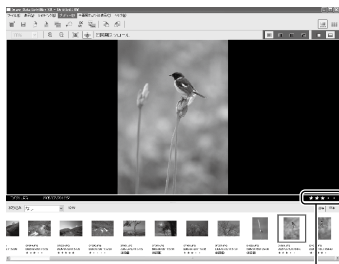
画像を比較して絞り込む

画面上で静止画を比較して評価付けし、大切な画像を絞り込むことができます。

1 画像を比較する。

4枚まで同時に表示し、比較することができる。

2 ランクを付ける。

ランクには5段階あり、★マークでランクを付ける。

★マーク

3 ランク別に、画像を絞り込む。

絞り込まれた画像だけが表示され、この状態で保存、削除することができる。

「コレクション」を活用する

「コレクション」とは、「Image Data Lightbox SR」で作業状態を管理するデータベースです。複数のフォルダから選択した画像ファイル群、ランク付け情報などの作業状態をそのまま保存することができます。
「コレクション」ファイルを開くことにより、中断した状態からの作業開始が可能です。

作業状態を再開するには、「Image Data Lightbox SR」を起動して、[既存のコレクションファイルを開く]をクリックし、保存したコレクションファイルを選択してください。

- 詳しいご利用方法については、「Image Data Lightbox SR」のヘルプをご覧ください。

「Remote Camera Control」について

「Remote Camera Control」のご紹介

「Remote Camera Control」を使うとパソコンに接続された本機の設定・撮影をパソコンで行うことができます。
また、撮影した画像を直接パソコンに記録できます。

- 詳しいご利用方法については、ヘルプをご覧ください。

スタートメニューからヘルプを起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Sony Image Data Suite] → [ヘルプ] → [Remote Camera Control]の順にクリックします。

「Remote Camera Control」を起動/終了するには

■ Windows

起動する

[スタート] → [すべてのプログラム] → [Sony Image Data Suite] → [Remote Camera Control]の順にクリックする。

終了する

画面右上の[☒]ボタンをクリックする。

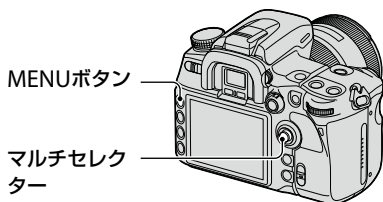
■ Macintosh

起動する

[アプリケーション]フォルダから[Sony Image Data Suite]フォルダ内の[Remote Camera Control]をダブルクリックする。

終了する

[Remote Camera Control]メニューから、[Remote Camera Controlを終了]をクリックする。

本機を準備する

1 **MENUボタンを押し、メニューを表示する。**

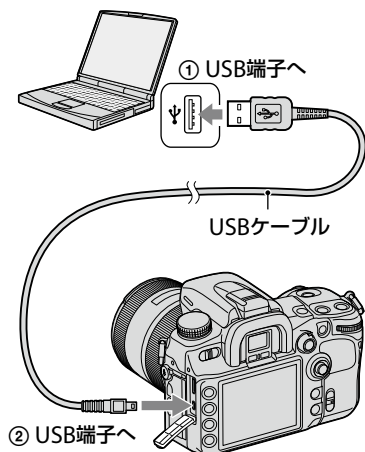
2 **マルチセレクターで 🔧（セットアップ） → [2] → [USB接続]の順に選ぶ(29ページ)。**

3 **マルチセレクターの▲/▼で[PCリモート]を選び、中央を押す。**

USB接続が[PCリモート]に設定される。

4 **電源を切る。**

パソコンから本機をコントロールする

1 **本機とパソコンをUSB接続する。**

- 充分に充電したバッテリーまたはACアダプター /チャージャー（別売）を使用してください。

2 **本機とパソコンの電源を入れて、「Remote Camera Control」を起動する。**

3 **操作パネル部で、ドライブモードやホワイトバランスなどの設定を行う。**

4 **ピントを合わせ、（シャッター）ボタンをクリックする。**

画像が撮影され、パソコンに保存される。

- 詳しいご利用方法については、「Remote Camera Control」のヘルプをご覧ください。

本機で撮影した画像をパソコンに保存する

1 **「パソコンから本機をコントロールする」の手順1、2を行う。**

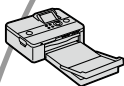
2 **本機またはパソコンで設定を行い、本機で撮影する。**

画像が撮影され、パソコンに保存される。

画像をプリントするには

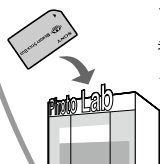
ダイレクトプリントする（PictBridge対応プリンター使用）（145ページ）

PictBridge対応プリンターに本機を直接接続してプリントします。

ダイレクトプリントする（“メモリースティック デュオ”/CFカード/マイクロドライブ対応プリンター使用）

“メモリースティック デュオ”/CFカード/マイクロドライブ対応プリンターでプリントします。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使ってプリントする

付属のCD-ROM収録のソフトウェア「Picture Motion Browser」を使って画像をパソコンに取り込んでから、プリントします。詳しくは、「Picture Motion Browserガイド」をご覧ください。

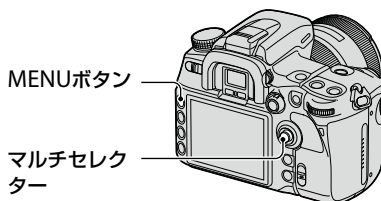
お店でプリントする

プリントサービス店に、画像を撮影したメモリーカードを持参します。プリントしたい画像にあらかじめDPOF指定マークを付けておくこともできます。

ダイレクトプリントする(PictBridge対応プリンター使用)

PictBridge対応プリンターなら、本機で撮影した画像をパソコンなしでプリントできます。

PictBridge

- 「PictBridge」は、「ピクトブリッジ」と読みます。カメラ映像機器工業会(CIPA)で制定された統一規格のことです。
- RAWデータファイルはプリントできません。

操作1：本機を設定する

- プリントの途中で電源が切れないように、ACアダプター /チャージャー（別売)のご使用をおすすめします。

1 MENUボタンを押し、メニューを表示する。

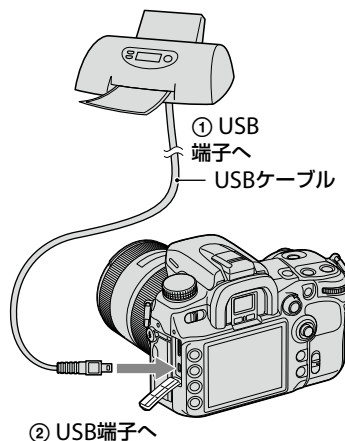
2 マルチセレクターで 🔧（セットアップ）→［2］→［USB接続］の順に選ぶ(29ページ)。

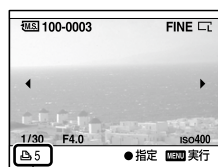
3 マルチセレクターの▲/▼で[PTP]を選び、中央を押す。

USB接続が[PTP]に設定される。

4 電源を切って、画像を記録したメモリーカードを本機に入れる。

操作2：本機とプリンターをつなぐ

1 本機とプリンターを接続する。

2 本機とプリンターの電源を入れる。

下記の画面が表示される。

静止画をプリントする

操作3：プリントする

1 **マルチセレクターの◀/▶でプリントする画像を選び、中央を押す。**

- 解除するときは、もう一度中央を押してください。

2 **他の画像もプリントするときは、手順1を繰り返す。**

3 **MENUボタンを押して、各項目の設定をする。**

設定内容の詳細は、「PictBridgeメニュー」をご覧ください。

4 **メニューの「プリント」を選び、マルチセレクターの中央を押す。**

「プリントしますか？」というメッセージが表示される。

5 **マルチセレクターの▲で「実行」を選び、中央を押す。**

プリントが開始される。

6 **プリント終了画面が出たら、マルチセレクターの中央を押す。**

プリントが終了しました

確認

プリントを中止するには

プリント中にマルチセレクターの中央を押すとプリントは途中で中止します。USBケーブルをはずすか、本機の電源を切ってください。再度プリントする場合は、操作1 ～ 3の手順に従ってプリントしてください。

PictBridgeメニュー

1ページ目

プリント

選択した画像をプリントします。詳しくは操作3をご覧ください。

枚数指定

20枚まで選べます。
選択した画像すべてに対して同じ枚数の指定になります。

用紙サイズ

✔	オート	プリンターの設定に従う
	L	89×127 mm
	はがき	100×147 mm
	10×15cm	10×15 cm
	4"×6"	101.6×152.4 mm
	A6	105×148.5 mm
	2L	127×178 mm
	Letter	216×279.4 mm
	A4	210×297 mm
	A3	297×420 mm

レイアウト

✓	オート	プリンターの設定に従う
	ふち無し1枚	ふち無しで、1画像/1枚
	1枚	1画像/1枚
	2枚	2画像/1枚
	3枚	3画像/1枚
	4枚	4画像/1枚
	8枚	8画像/1枚
	インデックス	選択した画像をまとめてプリントする。出力はプリンターの設定に従う。

日付プリント

	日時分	日時分を入れる
	年月日	年月日を入れる
✓	切	日付を入れない

2ページ目

印刷指定全解除

「全画像解除しますか？」というメッセージが表示されるので、「実行」を選んで、マルチセレクターの中央を押す。
プリント後は各画像の🖶は消えます。プリントせずに指定を解除するときは、これを選択してください。

フォルダ内一括印刷

1つのフォルダ内の画像をまとめて印刷します。マルチセレクターの▲/▼でフォルダを選び、中央を押します。「プリントしますか？」というメッセージが表示されるので、[実行]を選んで、中央を押します。

リモコン（付属）を使ってプリントする

HDMIケーブル（別売）を使ってハイビジョンテレビと接続すると、テレビで画像を見ながら簡単にプリントできます。

1 本機をテレビに接続する（87ページ）。

2 本機とプリンターを接続する（145ページ）。

3 プリントしたい画像を表示する。

4 リモコンのPRINTボタンを押す。

- 本機のメニューの設定にかかわらず、プリントの設定は以下の通りになります。
  - 印刷枚数：1枚
  - 用紙サイズ：オート
  - レイアウト：オート
  - 日付プリント：切
- ビデオケーブル（付属）でテレビに接続した場合、PRINTボタンは使えません。

故障かな？と思ったら

困ったときは、次の項目をチェックし、本機を点検してください。それでも調子が悪いときは『α』専用サポートサイトまたはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクに電話でお問い合わせください（裏表紙）。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら正しい向きに入れてください（→*別冊「はじめに」手順1*）。

電源が入らない。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください（→*別冊「はじめに」手順1*）。
- バッテリーの寿命です（162ページ）。新しいバッテリーと交換してください。

電源が切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定（パワーセーブ）になり、ほぼ電源オフに近い状態になります。シャッターボタンを半押しするなど、本機の操作をすれば、パワーセーブが解除されます（→*別冊「はじめに」手順4*）。
- バッテリーの寿命です（162ページ）。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーの残量表示が正しくない。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です（162ページ）。
- 残量表示と実際の残量にズレが生じています。バッテリーを一度使い切ってから充電すると正しい表示にもどります。
- バッテリーの寿命です（162ページ）。新しいバッテリーと交換してください。

撮影する

電源を入れても液晶モニターがつかない。

- 液晶モニターは、お買い上げ時の設定では5秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。この時間を変更することもできます（118ページ）。
- 液晶モニターがオフになっています。DISP（表示切り換え）ボタンを押して、液晶モニターを点灯させてください（20ページ）。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調節してください（→*別冊「はじめに」手順5*）。

撮影できていない。

- メモリーカードが入っていない。

シャッターが切れない。

- メモリーカードの空き容量を確認してください（21ページ）。いっぱいのときは、下記のいずれかを行ってください。
  – 不要な画像を削除してください（→*別冊「はじめに」手順6*）。
  – メモリーカードを交換してください。
- 内蔵フラッシュ充電中は撮影できません（→*別冊「はじめに」手順5*）。
- ピントが合わないとシャッターは切れません。（合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます（99ページ）。）
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、シャッターが切れません。（この状態でもシャッターが切れるようにすることもできます（107ページ）。）
- 液晶モニター右下に「----」、ファインダー内に「0」が点滅してシャッターが切れないときはメモリーカードが入っていないか、異なるメモリーカードが指定されています。セットアップメニューの［メモリーカード切り換え］でお使いのメモリーカードを選び、本機にそのメモリーカードを入れてください（→*別冊「はじめに」手順3*、120ページ）。
- 液晶モニター右上に「--」が表示されるときは、レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください（→*別冊「はじめに」手順2*）。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています（100ページ）。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています（93ページ）。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。

ピント（フォーカス）が合わない。

- 被写体が近すぎる。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。フォーカスモードレバーでオートフォーカスにしてください（49ページ）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（47ページ）を撮ろうとしています。フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影を行ってください（48、49ページ）。

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュ発光部が閉じています。持ち上げてください。
- フラッシュが自動発光になっています。必ず発光させたいときは、強制発光にしてください（69ページ）。

フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした丸い斑点が写っている。

- 空気中のほこりがフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。

フラッシュ撮影した画像が全体的に暗い。

- フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠い場合は、フラッシュ光が被写体に届かずに暗い画像となります。また、ISO感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します（61ページ）。

フラッシュ撮影した画像の下部が暗い。

- レンズフードを付けたまま撮影しています。内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードをはずしてください。なおレンズによっては、フードをはずしても下部が暗くなるものもあります（→*別冊「はじめに」手順5*）。

フラッシュの充電時間が長い。

- 短時間に連続してフラッシュを発光させています。連続してフラッシュを発光すると、本機が熱くなるのを防ぐため、通常より充電時間が長くなることがあります。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください（119ページ、→*別冊「はじめに」手順4*）。

シャッターを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、設定の範囲を超えています。設定し直してください。

画像に余分な光が入っている。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入った。レンズフードを取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください（108ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内（62ページ）で撮影してください。

画面に点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません（10ページ）。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。シャッタースピードが遅くなるので、手ブレ補正機能または三脚の使用をおすすめします。フラッシュを使う方法もあります（→*別冊「はじめに」手順5*）。
- マクロ撮影など、近距離の被写体を撮影しています。近距離の被写体に対しては、手ブレ補正機能が効きにくい場合があります。手ブレ補正をオフにして、三脚の使用をおすすめします（→*別冊「はじめに」手順5*）。
- 被写体の動きが速くて被写体ブレを起こしています。シャッタースピードを速くするか、ISO感度を高くするとブレが少なくなります（ISO感度を高くするとノイズが多くなります）。

ファインダー内の測光インジケーター ◀▶が点滅する。

- 被写体が明る過ぎる、または暗過ぎて、本機の測光範囲を超えています。

画像を見る

「パソコン」（152ページ）もあわせてご覧ください。

再生できない。

- パソコンでフォルダ/ファイルの名前を変更したためです（133ページ）。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください（131ページ）。

テレビに画像が出ない。

- [ビデオ出力]が[NTSC]になっているか確認してください（119ページ）。
- 接続が正しいか確認してください（86ページ）。
- USB端子が接続されている場合は、取りはずしてください（131ページ）。

画像を削除する/編集する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください（113ページ）。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。画像にプロテクトをかけてください（113ページ）。

DPOF指定マークが付かない。

- RAWデータファイルにはDPOF指定マークを付けられません。

パソコン

最新サポート情報は、『α』専用サポートサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください（127、134ページ）。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください（→*別冊「はじめに」手順1*）、またはACアダプター /チャージャー（別売）を使用してください（164ページ）。
- 接続には、付属のUSBケーブルを使ってください（128ページ）。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- [USB接続]を[マスストレージ]にしてください（121ページ）。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください（128ページ）。

画像をコピーできない。

- 本機からパソコンに画像を取り込んでいる間にメモリーカードカバーを開けると、コピーが中止されます。メモリーカードカバーを途中で開けないでください。
- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください（128ページ）。
- OSに対応した手順でコピーしてください（129、130ページ）。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください（113ページ）。

画像を再生できない。

- 「Picture Motion Browser」をお使いの場合は、「Picture Motion Browserガイド」をご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときに「Picture Motion Browser」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください（128ページ）。

ソフトウェア（付属）の使い方が分からない。

- 各ソフトウェアのヘルプまたはガイドをご覧ください。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください（→*別冊「はじめに」手順3*）。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください（112ページ、→*別冊「はじめに」手順6*）。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています（→*別冊「はじめに」手順3*）。
- 誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。

マイクロドライブが熱くなっている。

- 長時間使用しています。故障ではありません。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

“メモリースティック”スロット付きパソコンで“メモリースティック PRO デュオ”が認識されない。

- “メモリースティック PRO デュオ”非対応の場合は、本機をパソコンにつないでください（128ページ）。パソコンが“メモリースティック PRO デュオ”を認識します。

リモコンについて

付属のリモコンが操作できない。

- 撮影するには、ドライブモードを[ ]（リモコン）にしてください。再生するには、本機をテレビに接続してください。
- 電池の＋極と－極を正しく入れてください。
- リモコンと本機リモコン受光部の間にある障害物を取り除いてください。
- 本機のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコン操作できないことがあります。
- レンズやフードが、リモコン受光部をさえぎり、受光を妨げることがあります。受光部をさえぎらない位置から操作してください。

リモコン操作中に他のDVD機器が誤動作する。

- DVD機器のリモコンスイッチをDVD2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

プリントする

次の「PictBridge対応プリンター」も合わせてご覧ください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります（68ページ）。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に画像が［16:9］のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなし印刷機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れて印刷できない。

- 「Picture Motion Browser」を使って印刷すると日付挿入ができます（137ページ）。
- 本機には画像に日付を挿入できる機能はありませんが、画像には日付情報が記録されています。お使いのプリンターやソフトウェアがExif情報を認識できれば日付を入れて印刷できます。対応の有無は、各メーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れて印刷できます。

PictBridge対応プリンター

プリンターと接続できない。

- 本機は、PictBridge非対応プリンターには直接接続できません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることを確認してください。
- ［USB接続］を［PTP］にしてください（121ページ）。
- USBケーブルを抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

プリントできない。

- 本機とプリンターがUSBケーブルで正しく接続されているか確認してください。
- RAWデータファイルはプリントできません。
- 本機以外で撮影した画像、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合があります。

日付の挿入やインデックスプリントができない。

- プリンターが日付の挿入やインデックスプリントに対応していません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合があります。プリンターのメーカーにお問い合わせください。

日付部分に「---- -- --」などが印刷される。

- 画像ファイルに印刷可能な撮影日時情報が入っていません。[日付プリント]を[切]にしてプリントしてください(147ページ)。

プリントしたい用紙サイズが選択できない。

- プリンターがプリントしたい用紙サイズに対応しているか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。

プリンターの用紙サイズどおりに印刷できない。

- 本機とプリンターを接続したあとにプリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り換えた場合は、一度USBケーブルを抜いてプリンターを接続し直してください。
- 本機での印刷設定と、プリンターの設定が合っていません。本機の用紙サイズ設定を変更する(146ページ)か、プリンターの用紙設定を変更してください。

印刷を中止すると、他の操作ができない。

- プリンターが印刷中止の処理をしているので、しばらくお待ちください。プリンターによっては時間がかかることがあります。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください(167ページ)。

電源を入れると、「日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(→*別冊「はじめに」手順4*)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです(93ページ)。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- POWERスイッチが「ON」のままバッテリーを取り出しました。バッテリーを取り出すときは、POWERスイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください（→*別冊「はじめに」手順1*）。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター／チャージャー（別売）などの使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店またはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

ファインダー右下の手ブレインジケーターが、5つとも点滅する。

- 手ブレ補正機能が作動していない。そのまま撮影できますが、手ブレ補正は機能しません。POWERスイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも戻らない場合は、お買い上げ店またはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

液晶モニター右下に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

“インフォリチウム”バッテリーをお使いください

- 指定以外のバッテリーを使用している。

電池がなくなりました

- バッテリーがなくなった。充電する。

日付/時刻を設定してください

- 日付と時刻を設定する。頻繁に出る場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗しているので交換する（155、168ページ）。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、ACアダプター /チャージャー（別売）を使用する。

メモリースティックが入っていません
CFカードが入っていません

- セットアップメニューの[メモリーカード切り換え]で選んでいるメモリーカードと、本機に入っているメモリーカードが異なっている。正しい設定にする。

このメモリースティックは使えません フォーマットしますか？
このCFカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した、または他のCFカード機器でフォーマットを行った。
  [実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。
  それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

カードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。または、フォーマットに失敗した。

このメモリースティックは読み出し専用です

- この“メモリースティック デュオ”への画像記録や削除はできません。

メモリースティックを入れ直してください
CFカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。
- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードの端子が汚れている。

メモリースティックスロットでフォーマットしてください

- “メモリースティック デュオ”をアダプターに入れて、CFカードスロットでフォーマットしようとした。“メモリースティック デュオ”は“メモリースティック デュオ”スロットでフォーマットする。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。

メモリースティクが入っていないのでシャッターが切れません
CFカードが入っていないのでシャッターが切れません

- [カードなし時のレリーズ]が[禁止]になっている。[許可]にするか、メモリーカードを入れる。

レンズが装着されていないのでシャッターが切れません

- [レンズなし時のレリーズ]が[禁止]になっている。レンズを取り付ける。天体望遠鏡などに本機を取り付ける場合は、⚙カスタムメニューでこの設定を[許可]にする。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

画像がありません

- 画像の記録されていないメモリーカードで再生しようとしている。

プロテクトされています

- プロテクトされている画像を削除しようとしている。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしている。

USB接続中

- USB接続を開始した。USBケーブルを抜かないでください。

接続先を確認してください

- PictBridge接続ができない。USBケーブルを抜いて接続し直す。

しばらく使用できません
カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がった。
  本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

カメラエラー
システムエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合はソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにお問い合わせください。

カバーが開いています

- 撮影･再生を続ける場合は、メモリーカードカバーを閉める。
- メモリーカードを交換する際には、アクセスランプが点灯してないことを確認してからカバーを開ける。

拡大できません
回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがある。

指定が変更されていません

- 画像の指定を変更せずに、プロテクトやDPOFを実行しようとした。

これ以上フォルダ作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダがメモリーカード内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。

プリントを中止しました

- プリントが中止された。USBケーブルをはずすか、本機の電源を切る。

プリント指定できません

- PictBridge画面でRAW画像を指定しようとした。

プリントできる画像がありません

- PictBridgeのフォルダ内一括印刷で、プリントできる画像が存在しないフォルダを印刷しようとした。

プリンターエラー

- プリンターを確認する。
- プリントしたい画像が壊れていないか確認する。

プリンタービジー

- プリンターを確認する。

メモリーカード(別売)について

"メモリースティック デュオ"について

"メモリースティック デュオ"は、小さくて軽いIC記録メディアです。"メモリースティック デュオ"のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての"メモリースティック デュオ"の動作を保証するものではありません。

"メモリースティック"の種類	記録・再生
メモリースティック デュオ(マジックゲート非対応)	○
メモリースティック デュオ(マジックゲート対応)	○*1*2
マジックゲート メモリースティック デュオ	○*1
メモリースティック PRO デュオ	○*1*2
メモリースティック PRO-HG デュオ	○*1*2

*1 マジックゲート搭載の"メモリースティック デュオ"です。"マジックゲート"とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

- パソコンでフォーマットした"メモリースティック デュオ"は、本機での動作を保証しません。
- お使いの"メモリースティック デュオ"と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

"メモリースティック デュオ"使用上のご注意

- データの読み込み中、書き込み中には"メモリースティック デュオ"を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中に"メモリースティック デュオ"を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- "メモリースティック デュオ"本体にラベルなどを貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。
- "メモリースティック デュオ"スロットには、"メモリースティック デュオ"以外は入れないでください。故障の原因となります。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック PRO デュオ”使用上のご注意

- 本機で動作確認されている“メモリースティック PRO デュオ”および“メモリースティック PRO-HG デュオ”は8GBまでです。

“メモリースティック マイクロ”使用上のご注意

- “メモリースティック マイクロ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック マイクロ”をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入されますと、“メモリースティック マイクロ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック マイクロ”は小さいお子様の手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください(裏表紙)。

CFカード/マイクロドライブについて

- 初めてお使いになるときは、必ず本機でフォーマットしてからお使いください。
- 以下の場合、データが破損したりメモリーカードそのものが使用できなくなることがあります。
  - データの読み込み中、書き込み中にメモリーカードを取り出した場合
  - 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけた場合
- 使用直後はメモリーカードが熱くなっている場合があります。取り扱いには充分ご注意ください。
- メモリーカードのラベルをはがさないでください。また、上からラベルを重ねて貼らないでください。
- メモリーカードの持ち運び時や保管時は、メモリーカード付属の専用保護ケースに入れてください。
- 水にぬらさないでください。
- ラベル面を強く押さないでください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。

マイクロドライブ使用上のご注意

マイクロドライブはCompactFlash TypeIIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。

- マイクロドライブは小型ハードディスクドライブです。回転系記録媒体であるため、フラッシュメモリーを使用した“メモリースティック”に比べ振動や衝撃に強くありません。
  マイクロドライブ使用時、特に記録や再生中は本機に振動や衝撃を与えないでください。
- 5℃以下の環境でのご使用は、マイクロドライブの性能劣化を招く場合がありますのでご注意ください。
  マイクロドライブ使用時の動作温度：
  5℃～40℃
- 気圧の低い場所(海抜3000 m以上)ではご使用になれません。
- マイクロドライブのラベルには何も記入しないでください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

バッテリーはNP-FM500Hをご使用ください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じたバッテリー残量を%単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10℃～ 30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放電した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度満充電にして本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

バッテリーチャージャーについて

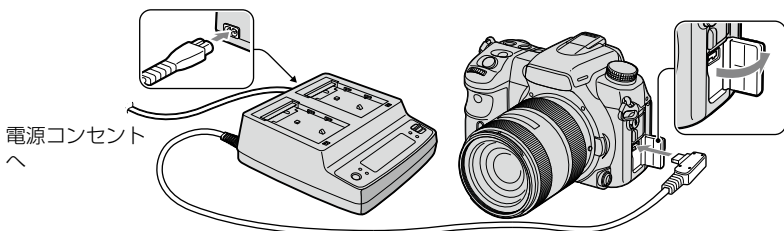
バッテリーチャージャーについて

- バッテリーチャージャー（付属）で、"インフォリチウム" Mシリーズ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- 充電したバッテリーはバッテリーチャージャーから取り出してください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

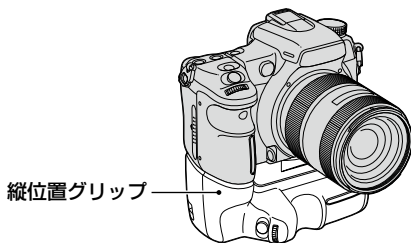
別売りアクセサリー

ここでは代表的なアクセサリーの本機での接続方法、操作方法を紹介しています。
詳しくは、各アクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

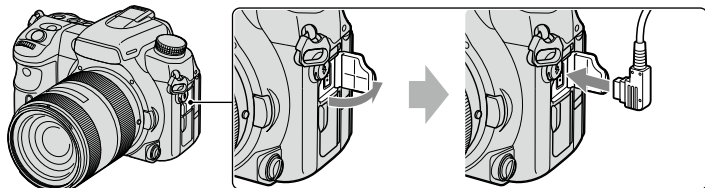
ACアダプター /チャージャー AC-VQ900AM

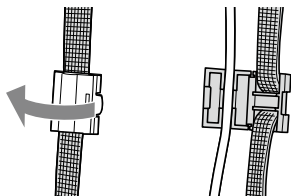
屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプター /チャージャーを使用するとバッテリー切れの心配がなく、安心です。

接続するときは、POWERスイッチを「OFF」にしてから、カバーを開け、DC IN端子にプラグを差し込みます。

- はずすときも、電源を切ってからはずしてください。
- 本機では、AC-VQ900AM以外のACアダプター /チャージャーは使えません。

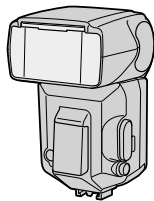
縦位置グリップ VG-C70AM

縦位置用シャッターボタンやON/OFFスイッチのほか、前後ダイヤル、AEL（AEロック）ボタンなど、横位置と同じ感覚で操作できます。本機と同じバッテリーパック NP-FM500Hを1本または2本使用します。

リモートコマンダー RM-S1AM

本機から離れてシャッターを切ることができます。カメラブレを防ぐと同時に、バルブ撮影時（40ページ）には、シャッターボタンを押したまま固定することができます。

取り付けるときは、REMOTE端子のカバーを開け、リモートコマンダーを差し込みます。

ストラップに付いているリモートコマンダークリップで、コードをはさんで止めることができます。

フラッシュ HVL-F56AM/HVL-F36AM

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

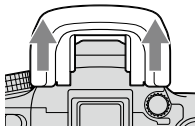
フラッシュ
HVL-F56AM

フラッシュ（別売）を使う際には、アクセサリーシューキャップをはずしてお使いください。はずしたキャップは、ストラップに付いているアイピースカバーに収納することができます。

ハイスピードシンクロ（HSS）撮影

通常のフラッシュ撮影では、フラッシュ発光時に高速のシャッタースピードを使うことはできませんが、フラッシュ HVL-F56AMまたはHVL-F36AMを使うと、高速も含めシャッタースピード全域でフラッシュ撮影ができます。明るい場面でも絞りを開けたフラッシュ撮影が可能となります。

- ハイスピードシンクロ撮影となるときは、ファインダー内と液晶モニターに「H」または「HSS」が点灯します。
- 2秒セルフタイマー、後幕シンクロ選択時には、ハイスピードシンクロ撮影にはなりません。

アングルファインダー FDA-A1AM/マグニファイヤー FDA-M1AM

アングルファインダー、マグニファイヤー使用時は、アイカップを取りはずしてください。

使用上のご注意

■ 使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■ 持ち運びについて

使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、本機内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。

■ お手入れについて

液晶モニターをきれいにする

液晶モニターに指紋やゴミが付いて汚れたときは、液晶クリーニングキット(別売)を使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

- レンズ面を清掃するときは、レンズブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。
- レンズ信号接点、ミラーなどマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりはオートフォーカスに影響を与えることがあるため、ブロアーで吹き飛ばしてください。イメージセンサーに付着したほこりは画像に写り込むことがあるので、本機をクリーニングモードにして(123ページ)ブロアーで清掃してください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
- 上記が手についたまま本機を扱うこと
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

■ 動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0 ～ 40℃です(マイクロドライブ使用時:5 ～ 40℃)。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

■ 結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

■ 内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し8か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター /チャージャー（別売）を使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

バッテリー NP-FM500Hの充電方法

→*別冊「はじめに」手順1*

■ メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ　フラッシュ内蔵レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ

撮像画面サイズ
23.5×15.6 mm（APS-Cサイズ）

使用レンズ　ソニーレンズ

[撮像部]

総画素数　約13 053 000画素

有効画素数　約12 246 000画素

[手ブレ補正]

形式　イメージセンサーシフト方式

効果　シャッタースピード約2.5段～4段（撮影条件・レンズにより異なる）

[アンチダスト]

システム　帯電防止コートとイメージセンサーシフト駆動の併用

[ファインダー]

形式　アイレベル固定式（光学ガラスペンタプリズム使用）

フォーカシングスクリーン
スフェリカルアキュートマット

視野率　95%

倍率　0.9倍（50 mmレンズ、無限遠、−1 m^{-1}時）

アイポイント　最終光学面から約25 mm、接眼枠から約21 mm（−1 m^{-1}時）

視度調整　−3.0 ～＋1.0 m^{-1}

[オートフォーカス]

形式　TTL位相差検出方式、CCDラインセンサー（測距エリア11点）

検出輝度範囲　EV 0 ～ EV 18（ISO 100相当）

[露出]

測光素子　40分割ハニカムパターンSPC

測光範囲　EV 0 ～ EV 20（スポット測光時はEV 2 ～ EV 20），（ISO100相当、F1.4レンズ使用）

[シャッター]

形式　電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター

シャッター速度範囲
1/8000 ～ 30秒、バルブ

フラッシュ同調速度
1/250秒（手ブレ補正OFF時）、
1/200秒（手ブレ補正ON時）

[内蔵フラッシュ]

ガイドナンバー　12（ISO100・m）

充電時間　約3秒

[記録メディア]

CFカード（TYPE I、II）、マイクロドライブ、“メモリースティック デュオ”

[液晶モニター]

形式　7.5 cm（3.0型）TFT駆動

ドット数　921 600（640×3（RGB）×480）ドット

[入/出力端子]

VIDEO OUT端子
特殊マルチコネクター

USB端子　特殊マルチコネクター、Hi-Speed USB（USB2.0準拠）

HDMI OUT端子
HDMIタイプCミニ端子

シンクロターミナル

REMOTE端子

[電源]

バッテリー　リチャージブルバッテリーパックNP-FM500H

［その他］

PictBridge　対応
Exif Print　対応
PRINT Image Matching III
対応
Exif　Exif2.21
RAW　ARW2.0フォーマット
外形寸法　約141.7×104.8×79.7 mm（幅×高さ×奥行き、突起部を除く）
本体質量　約690 g（電池、メモリーカードなど、付属品含まず）
動作温度　0 ～ 40℃（マイクロドライブ使用時5 ～ 40℃）

バッテリーチャージャー BC-VM10

定格入力　AC100 V–240 V、50/60 Hz
定格出力　DC 8.4 V、750 mA
動作温度　0 ～ 40℃
保存温度　－20 ～＋60℃
最大外形寸法　約70×25×95 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量　約90 g

リチャージャブルバッテリーパック NP-FM500H

使用電池　リチウムイオン蓄電池
最大電圧　DC 8.4 V
公称電圧　DC 7.2V
容量　11.8 Wh（1 650 mAh）
最大外形寸法　約38.2×20.5×55.6 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量　約78 g

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを

"故障かな？と思ったら"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご相談ください（裏表紙）。

■保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

■部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後7年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご相談ください（裏表紙）。

リセット一覧表

○　リセットされるもの

×　リセットされないもの

カッコ内はページ数

* →*別冊「はじめに」*のページ数です。

ダイヤルやボタンで設定するもの

項目	リセット内容	オート撮影（31）	シーンセレクション（32）	撮影モードリセット（101）	設定値リセット（125）	ページ
手ブレ補正	–	×	×	×	×	*14**
視度調整	–	×	×	×	×	*17**
撮影情報画面	詳細画面	×	×	×	○	20
露出モード	–	–	–	×	×	31
露出補正	±0	○	○	○	○	42
測光モード	多分割測光	○	○	×	×	45
フォーカスモード（AF-S/AF-A/AF-C/MF）	AF-A	○	○[1)]	×	×	49
ドライブモード	1枚撮影	○	○[2)]	○	○	52
ホワイトバランス	オート（自動設定）	○	○	○	○	58
色温度/カラーフィルター	5500K、カラーフィルター 0	–	–	○	○	59
カスタムホワイトバランス値	5500K	×	×	○	○	60
ISO	AUTO	○	○	○	○	61
C（カスタム）ボタン	クリエイティブスタイル	×	×	○	○	78
再生画面	1枚再生（データあり）	×	×	×	○	80

1) スポーツモード時はAF-C、マクロモード時はAF-Sになります。

2) スポーツモード時は連続撮影Hiになります。

撮影メニュー

項目	リセット内容	オート撮影（31）	シーンセレクション（32）	撮影モードリセット（101）	設定値リセット（125）	ページ
画像サイズ	L：12M	×	×	○	○	91
縦横比	3：2	×	×	○	○	92
画質	ファイン	×	×	○	○	93
Dレンジオプティマイザー	スタンダード	○[3)]	○[3)]	○	○	62
クリエイティブスタイル	スタンダード	○	–	○	○	64
カスタムボタンの機能	クリエイティブスタイル	×	×	○	○	78
露出値ステップ幅	0.3段	×	×	○	○	95
フラッシュモード	自動発光	○	○	○[4)]	○[5)]	69
調光モード	ADI調光	○	○	○	○	96
発光レベル	1/1	×	×	○	○	97
調光補正	±0	○	○	○	○	72
ISO AUTO 上限	800	–	–	○	○	97
ISO AUTO 下限	200	–	–	○	○	97
AF-Aの機能	AF-A	○	○	○	○	98
フォーカスエリア	ワイド	○	○	○	○	46
フォーカス/レリーズ優先	フォーカス優先	○	○	○	○	99
AF補助光	オート	○	○	○	○	51
シャッター半押しAF	入	○	○	○	○	99
長秒時ノイズリダクション	入	○	○	○	○	100
高感度ノイズリダクション	標準	○	○	○	○	100

[3)] オート撮影時はアドバンスオートにリセット、シーンセレクション時はモードによってリセット内容が異なります。

[4)]強制発光

[5)]自動発光または強制発光になります。後幕シンクロとワイヤレスは解除されます。

カスタムメニュー

項目	リセット内容	オート撮影（31）	シーンセレクション（32）	撮影モードリセット（101）	設定値リセット（125）	ページ
アイスタートAF	入	×	×	×	○	102
アイスタートAFの作動	グリップセンサー連動	×	×	×	○	102
AF/MFボタンの機能	AF/MFコントロール	×	×	×	○	102
AF/MFコントロール	押す間	×	×	×	○	103
AF駆動速度	高速	×	×	×	○	103
フォーカスエリア点灯	0.3秒	×	×	×	○	103
フォーカスホールドボタン	フォーカスホールド	×	×	×	○	103
AELボタン	押す間AEL	×	×	×	○	104
前後ダイヤルの設定	：シャッター ：絞り	×	×	×	○	105
ダイヤル露出補正	切	×	×	×	○	105
ダイヤルロック	切	×	×	×	○	106
設定ボタンの操作	専用設定画面	×	×	×	○	106
カードなし時のレリーズ	許可	×	×	×	○	107
レンズなし時のレリーズ	禁止	×	×	×	○	107
赤目軽減発光	切	×	×	×	○	108
露出補正の影響	定常光＋フラッシュ	×	×	×	○	108
ブラケット順序	0 → − → ＋	×	×	×	○	109
オートレビュー	2秒	×	×	×	○	109
接眼時自動消灯	入	×	×	×	○	110
撮影情報画面	縦横自動切り換え	×	×	×	○	110
撮影構図の縦横	記録する	×	×	×	○	110

再生メニュー

項目	リセット内容	オート撮影（31）	シーンセレクション（32）	撮影モードリセット（101）	設定値リセット（125）	ページ
日付プリント	切	×	×	×	○	116
インデックスプリント	−	×	×	×	×	116
縦記録画像の再生	縦向き	×	×	×	○	116
スライドショー	3秒	×	×	×	○	117

セットアップメニュー

項目	リセット内容	オート撮影（31）	シーンセレクション（32）	撮影モードリセット（101）	設定値リセット（125）	ページ
モニター明るさ	±0	×	×	×	○	118
情報表示時間	5秒	×	×	×	○	118
パワーセーブ	3分	×	×	×	○	118
ビデオ出力	−	×	×	×	×	119
HDMI出力	HD（1080i）優先	×	×	×	○	119
日時設定	−	×	×	×	×	119
メモリーカード切り換え	コンパクトフラッシュ	×	×	×	×	120
ファイルナンバー	連番	×	×	×	○	120
フォルダ形式	標準形式	×	×	×	○	120
フォルダ選択	−	×	×	×	×	121
USB接続	マスストレージ	×	×	×	○	121
マスストレージ時のカード	選択メモリーカード	×	×	×	○	122
メニュー呼び出し先	先頭	×	×	×	○	123
削除確認画面	「キャンセル」が先	×	×	×	○	123
電子音	入	×	×	×	○	123

安全のために

→ 3ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご依頼ください。

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、ソニーデジタル一眼レフカメラ専用ヘルプデスクにご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池やアクセサリーシューキャップなどの付属品や、"メモリースティック"などを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュやAF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない

視力障害や失明の原因となります。

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブルは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

直射日光の当たる場所に放置しない

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災**などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。

禁止

⚠注意

- 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。

指示

- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池は混ぜて使わない。

禁止

お願い

リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったこれらの電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

リチウムイオン電池

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については

有限責任中間法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

用語の解説

色温度（59ページ）
光の色を数値で表したもので、光源自体の温度ではなく、光の色を人間の目に見える感覚に置き換えて表した数値のこと。単位はK（ケルビン）。色温度が低くなるほど赤みを、色温度が高くなるほど青みを帯びた光に感じる。

インストール（135ページ）
ソフトウェアなどをコンピューターにコピーして組み込み、使用できる状態にすること。

拡張子（132、133ページ）
ファイルの種類を表す3 ～ 4文字の英数字のこと。ファイル名の末尾にピリオドで区切られた一番右側の部分。

画素（91ページ）
画像を構成する最小単位。画素数が多いほど画像サイズが大きくなり、画像の解像度が高くなる。

画像サイズ（91ページ）
画素数を縦×横で表示したサイズ。画像サイズが大きいと、画素数が多くなり画像の解像度が高くなる。

撮像素子
光を電気信号に変換する半導体の一種。

シャッタースピード（37ページ）
撮影時に撮像素子に光を当てる時間のこと。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写る。

ノイズ（100ページ）
撮像素子が光を受け取り信号として出力するまでの過程で発生する画像のざらつきのこと。

パワーセーブ機能（→*別冊「はじめに」手順4*）
電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機が節電モードに入る機能。

半押し（→*別冊「はじめに」手順5*）
シャッターボタンを押し込まず、半分押した状態にしておくこと。シャッターボタンを半押しすると、静止被写体の場合はピントと露出が固定される。

ピント（→*別冊「はじめに」手順5*）
被写体に対する焦点のこと。本機はピントを自動調整する。撮影距離を手動でも設定できる。

フォーマット（113ページ）
「初期化」とも言い、メモリーカードにデータを書き込めるようにすること。フォーマットすると、メモリーカードに保存されているデータはすべて消える。

フォルダ（120、121ページ）
本機で撮影した画像をまとめて格納する場所。目的別（イベント別）・日付別に画像を分類するときに便利。

ホワイトバランス（58ページ）

光源に合わせて色を調整する機能。被写体の見た目の色は光の状況に影響される。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく写る。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影できる。

マスストレージ（121ページ）

メモリーカードが入ったデジタルカメラ自体を、外付けの記憶装置として認識し、USB接続したパソコンから操作可能なモード。

"メモリースティック デュオ"（160ページ）

"メモリースティック デュオ"は小さくて軽いIC記録メディア。

有効画素数（169ページ）

撮像素子が光から電気信号に変換できる画素数。有効画素数から画像処理をしたものが記録画素数になる。

露出（42ページ）

絞りとシャッタースピードの値により決まる光量。

Adobe RGB（68ページ）

「アドビ・アール・ジー・ビー」と読み、米Adobe Systems社が提唱した色空間（色を数値の組み合わせによって表現するための方法、カラースペース）。Windowsなどで使われる一般的なモニターなどで採用されている色空間sRGBと比べると、シアンからグリーンにかけて広い色空間を持ち、色が鮮やかになるため、主に印刷物などに用いられる。

AE（43ページ）

「Auto Exposure」の略で、被写体の明るさをカメラが判断して、自動で露出を決める機能。

AF（49ページ）

「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能。

DCF（10ページ）

「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格。

DPOF（114、144ページ）

「Digital Print Order Format」の略。「ディーポフ」と読み、DPOFプリント指定したい写真を記録メディア上に指定できる。

Dレンジオプティマイザー（62ページ）

撮影されたシーンを解析し、画像処理を行うことによって最適露出画像を得る機能。スタンダードでは画像全体に、アドバンスでは画像の領域ごとに適切な補正を行う。

Exif(170ページ)
「イグジフ」と読み、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)が制定した撮影情報などの付帯情報を追加できる静止画像用のファイルフォーマット。

ISO(推奨露光指数)(61ページ)
「イソ」と読み、光を受ける撮像素子を含めた記録側の感度値。数値が大きいほど高感度に撮影できる。

JPEG(132ページ)
「ジェイペグ」と読み、インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存する。

MF(49ページ)
「Manual Focus」の略で、手動でピントを合わせる機能。

OS(127、134ページ)
「Operating System」の略。コンピューター全体を管理し、コンピューターを操作するのに必要な基本ソフトウェアのこと。

PictBridge(145ページ)
「ピクトブリッジ」と読み、カメラ映像機器工業会(CIPA)で制定された統一規格。PictBridge対応のプリンターと本機を接続して、画像ファイルをプリントできる。

PTP(121ページ)
「Picture Transfer Protocol」の略。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法。

RAWデータ(93ページ)
「ロー」と読み、撮像素子の生データをそのまま保存するため、圧縮、保存、解凍による画像劣化がないファイル形式のこと。専用ソフトウェアで画像処理を行い、「現像」する。画像補正機能を使用することによって、最適な画像を創ることができる。

USB(127ページ)
「Universal Serial Bus」の略。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順